学会設立 30 周年記念誌

2023 年 3 月

一般社団法人 日本養護教諭教育学会

学会設立30周年記念誌の発行にあたり

2023年3月吉日
一般社団法人日本養護教諭教育学会
理事長　後藤ひとみ

本学会の前身である全国養護教諭教育研究会が発足したのは1992年11月21日でした。

それから丸30年が経過し、学会設立30周年を迎えましたことを心よりお祝い申し上げます。また、これまでの学会活動をさまざまな面から支えてくださいました会員の皆様並びに養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）にご尽力いただいている方々に心よりお礼を申し上げます。

本誌の年表「学会30年のあゆみ」から組織運営にかかわる出来事をまとめますと、1996年度総会で日本養護教諭教育学会へ名称変更、2005年に学術著作権協会と契約、2006年に日本学術会議「協力学術研究団体」に指定、2008年に学会誌が郵政事業株式会社の「学術刊行物」に指定されましたことに加えて、2020年11月6日に一般社団法人になりました。このような流れを見るだけでも、養護教諭という職名を冠した唯一の全国組織の学術団体として、着実に発展していることがわかります。

最近、学会の実績をもっと会員外に積極的に発信したほうがよいとのご意見をいただきます。たとえば、本学会だからこその取り組みには、2003年度総会で承認した「養護教諭とは」の日本語及び英語での解説、2015年度総会で承認した「養護教諭の倫理綱領」の公表、2019年3月の「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」の発行、2020年度案として報告した「養護実践基準」の検討、学術集会における養護教諭教育の演題区分の提示と改正などをあげることができます。「これらの取り組みに自負をもち、発信を」という言葉に勇気づけられます。

ところで、20周年記念誌の刊行にあたっては、「誕生してからおとなになるまでの20年間は、その後の20年では決して味わうことのできない『育ち』の歴史があり、たくさんの方々の努力と感慨が詰まった月日となります。このことは学会の発展においても同様と言えます。学会設立の前年に現職養護教諭の全国組織が設立されたこと、学会設立の翌年に養護教育専攻という養護教諭のための大学院ができたことなども時代の趨勢であり、今なお、時代をこえて変わらない価値ある「養護をつかさどる」を追究し、時代の変化に伴う諸課題に柔軟に対応する養護教諭の未来を指向することが求められています」と述べました。

さらに、編集後記には「本記念誌は、『20年間の“回想録”にとどめるのではなく、“学会事業のまとめ”という資料的意味をもたせることで、本会の歴史をたどり、今後の発展にむけた課題整理に活用できるものにする』というコンセプトで編纂しました」とあります。学会の創成期である20周年らしく、誕生と成長を祝い、今後の発展にむけた歴史と資料の提示に主眼をおいたことが伝わってきます。

そこで、30周年を迎えた今回の記念誌は、孔子が自身の人生を振り返って言ったという言葉「三十にして立つ（三十而立じりっ）」（三十歳は道徳観や学識が確立して、世に立つ自信を得る年齢であること）に倣い、コンセプトは「学会設立からの30年、特にこの10年の取り組みを振り返ることで、本学会がこれからの発展をめざす上で課題となるような事項を捉え、今後の学会事業の計画・実施に活用する」ということを理事会で承認し、編纂を進めてまいりました。

さらに、学会の事業の執筆者は、法人化後の学会運営を担っている総務委員会、学術委員会、編集委員会、広報委員会としました。10年前の執筆を経験していない委員の方からは、「本学会の歴史を深く知る機会になり、先人の功績にふれて感慨深いものがあります」との感想をいただきました。法人化前の総会では、会員から「理事だけが委員会やワーキング業務にかかわるのではなく、他の会員も加えてほしい」との意見が度々出されており、2020年の法人化を機に要望にそった運営になりつつあります。而立の道は次代を担う方々の意識と行動が要であると考えます。学会設立30周年記念誌が、会員の皆様にとって有意義な資料となり、養護の対象である子どもたちや養護をつかさどる養護教諭の方々のための学会運営につながることを願って刊行の言葉と致します。

末筆になりましたが、文部科学省健康教育・食育課長様ならびに名誉会員の皆様のご寄稿、20周年に続いて30周年についても「健康教室」に関係記事を掲載してくださった東山書房様にお礼を申し上げます。

目　　次

学会設立30周年記念誌の発行にあたり　理事長　後藤 ひとみ

Ⅰ　学会設立30周年を祝して …… 3
養護教諭への期待について　文部科学省初等中等教育局　健康教育・食育課長　南野 圭史

Ⅱ　学会設立30周年を迎えて
1．名誉会員から …… 7
感謝をこめて　松本 敬子
設立30周年を迎えた本学会の思い出と今後への期待　盛 昭子
「学術」を研究する学会として　大谷 尚子

2．理事・監事から（2015年度～現在） …… 13
斉藤ふくみ、森　佳世子、佐藤倫子、津島ひろ江、圓岡和子、三木とみ子、今富久美子、平井美幸、松永　恵、岩崎和子、大野泰子、大川尚子、加藤晃子、後藤ひとみ、小林央美、鈴木裕子、塚原加寿子、宮本香代子、浅田知恵、植田誠治、鎌田尚子、工藤宣子、徳山美智子、外山恵子、西岡かおり、松田芳子、山崎隆恵、河田史宝、古賀由起子

Ⅲ　学会30年のあゆみ …… 25

Ⅳ　学会の事業
1．学術的な活動
1）学術集会のあゆみ …… 37
2）学会誌のあゆみ …… 42
3）養護教諭の専門領域に関する用語の解説集 …… 48
4）学術集会における一般発表の演題区分 …… 49
5）養護教諭の倫理綱領 …… 50

2．会員の研究活動支援
1）研究助成金研究 …… 57
2）投稿奨励研究 …… 62

3．会員への情報提供と交流支援
1）ハーモニーのあゆみ …… 67
2）プレコングレスの開催 …… 71
3）理事会主催のワークショップ等の開催 …… 72
4）パブリックコメント等の提出 …… 73

Ⅴ　学会設立30周年記念事業 …… 77

資料
1．役員一覧（2015年度～現在） …… 83
2．委員会委員一覧（2015年度～現在） …… 84

編集後記
学会設立30周年記念事業実行委員会一覧

執筆者一覧

目　次	執筆者
学会設立 30 周年記念誌の発行にあたり	理事長
Ⅰ　学会設立 30 周年を祝して	健康教育・食育課長
Ⅱ　学会設立 30 周年を迎えて 　　1．名誉会員から	名誉会員
2．理事・監事から（2015 年度～現在）	理事・監事
Ⅲ　学会 30 年のあゆみ	理事長・事務局長
Ⅳ　学会の事業 　　1．学術的な活動 　　1）学術集会のあゆみ	学術委員会
2）学会誌のあゆみ	編集委員会
3）養護教諭の専門領域に関する用語の解説集	総務委員会
4）学術集会における一般発表の演題区分	学術委員会
5）養護教諭の倫理綱領	総務委員会
2．会員の研究活動支援 　　1）研究助成金研究	学術委員会
2）投稿奨励研究	学術委員会
3．会員への情報提供と交流支援 　　1）ハーモニーのあゆみ	編集委員会
2）プレコングレスの開催	広報委員会
3）理事会主催のワークショップ等の開催	広報委員会
4）パブリックコメント等の提出	理事長
Ⅴ　学会設立 30 周年記念事業	30 周年担当・理事長
資料　1．役員一覧（2015 年度～現在） 　　2．委員会委員一覧（2015 年度～現在）	総務委員会
編集後記 学会設立 30 周年記念事業実行委員会一覧	30 周年担当

I　学会設立 30 周年を祝して

養護教諭への期待について

文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課長　南野　圭史

一般社団法人日本養護教諭教育学会の設立30周年をお祝い申し上げます。

貴会の皆様におかれましては、日頃から、児童生徒等の心身の健康の保持増進並びに学校保健活動の充実・発展に御尽力いただくとともに、新型コロナウイルス感染症の度重なる感染拡大に対し、学校においても引き続き対応が必要な状況にある中、養護教諭としての専門性を発揮し、まさに最前線で、学校における感染症対策と教育活動の両立に多大な御尽力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

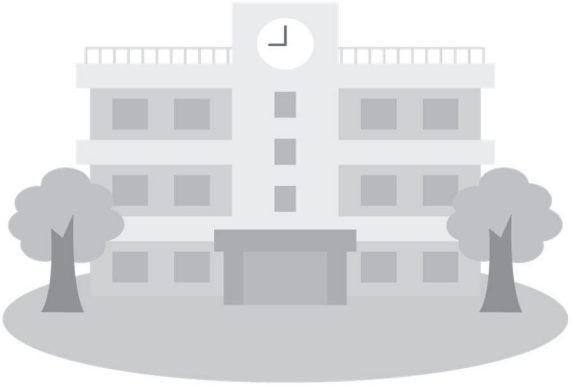
養護教諭の職務は、学校教育法において児童生徒等の養護をつかさどることと定められており、学校での具体的な取組は多岐にわたります。

今般、いじめ、貧困、虐待などに起因する心身の不調、感染症、アレルギー疾患、生活習慣・食習慣の乱れ、薬物乱用など、複雑化・多様化する児童生徒等の現代的健康課題へのきめ細かな対応が求められるほか、保護者及び地域の関係機関等と連携した取組など、その職務の重要性は益々増加しております。

このため、文部科学省では、令和5年度予算案において、養護教諭の加配定数の改善を図るとともに、養護教諭の業務支援の充実を図るため、経験豊富な退職養護教諭を学校へ派遣し、経験の浅い養護教諭への指導・助言や研修機会の確保、業務支援などを行い、繁忙期等における体制の強化や時代に則した資質能力の向上を図るための事業を実施することとしております。

加えて、職務を明確化するとともに、養護教諭に固有の教員育成指標や教員研修計画の策定、教員研修機会の確保、ICTの活用による職務の効果的・効率的な実施といった、養護教諭の資質能力の向上に向けた取組を進めてまいります。

養護教諭の皆様には、これからも文部科学行政への御理解を賜り、引き続き専門性を生かし、児童生徒等の健康管理等について中心的な役割を果たしていただきつつ、各学校における健康課題の解決に向けてより一層の御尽力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



Ⅱ　学会設立 30 周年を迎えて

１．名誉会員から

感謝をこめて

2016年度　松本　敬子

あの頃、私のバイブルでもあった「養護教諭　その専門性と機能」（1970・東山書房）の著者、小倉学先生に「養護教諭の最終目標は？」と問われた。突然の指名に、咄嗟に「健康問題を教育計画へ位置づけること」と答えてしまった。

ほどなく1982年日本学校保健学会（第29回・金沢）で「養護教諭の養成教育のあり方をめぐって」の要望課題で3年間の共同研究が始まり、続いて1985年、共同研究班が組織され、期待される養護教諭像に即した養成教育の目標化や、養護教諭活動過程における各領域の目標化に向けた検討が行われた。

この6年間は私にとっては過去の実務の検証でもあり、これからの指針にもなる意義あるものであった。特に養護教諭の活動領域の「連携」を担当したことは集団力学への眼を開く契機ともなった。「過去の実務の検証」と先に述べたように私はすでに養護教諭歴20年、その殆どを健康優良校2校で過ごし、教育課程に健康活動を位置づけるのに満身創痍を経験していて、これら目標化、理論化は有難いものであった。共同研究結果は「これからの養護教諭の教育」にまとめられ1990年（東山書房）に発行されている。

茨城大学・愛知教育大学へとよく通ったが、メンバーの先生方の発言に多くを学んだ。この「全国養護教諭教育研究会」の組織が日本養護教諭教育学会の設立に繋がっていったのは自然の流れであった。準備段階には学会名称など多少の異論はあったが、1992年の設立集会まで、さまざまな作業があったと思うが、当時中心になられた先生方のチームワークとスピードは目覚しかった。

あれから30年も経ったのかと感慨深い。この30年、それぞれの時代の役員の先生方によって多くの事業が企画され、成された。学会も理想とする「養護教諭に関する研究を存分に発表する場」となっていく。私も第12回学術集会（2004年・熊本）を引き受けた。熊本大学を定年退職後の私大勤務で、公私大変な時期であったが天野先生のあの優しい説得があった。決定から開催まで実に短期間であったと思う。熊本の現職養護教諭、当時の学生、教え子のお蔭で為し得たことは忘れ難い。

教壇を降りて10年、私も90歳になった。やっと10代の本来の私に還り、第3の人生を歩んでいる。文芸誌を編集発行し、芸術功労者賞をはじめ文学系の多くの賞も頂いた。この稿を書く前に、グループ講義用の万葉集鑑賞の資料を編み、短歌初心者への教材の準備も終えた。「学びつ講じる」知り得た新鮮な感動を伝えていく―これもこの50年来の経験である。

今、懐かしい愛知教育大学の先生方の笑顔が浮かぶ。研究の真っ只中だったであろう頃の堀内先生、天野先生、中尾（安田）先生、そして院生で生き生きとあられた後藤先生、あの和やかな教室の雰囲気が養護教諭教育学会の核になったような気がする。

日本養護教諭教育学会のますますの発展を祈念し、養護教諭教育学会で多くを学び得たことに心から感謝申し上げる。

設立30周年を迎えた本学会の思い出と今後への期待

2017年度　盛　昭子

１．日本養護教諭教育学会の設立のきっかけ

本学会設立の契機は、日本学校保健学会・年次学会の要望課題「養護教諭の養成教育のあり方をめぐって」であり、これは1982（昭和57）年から3年間継続して行われ、続いて1985年から同じ主題の共同研究が3年間行われた。その議論の中核としての存在は故小倉学教授であり、メンバーは国立養護教諭養成所から四年制大学に移行した養護教諭養成課程で教鞭を執っていた養護教育の研究者・実践者、現職養護教諭であった。研究の成果は、学会誌である「学校保健研究」に3回にわたって掲載されたが、更に冊子として、日本学校保健学会「養護教諭の養成教育のあり方」共同研究班の『これからの養護教諭の教育』（1990年・東山書房）にまとめられた。

ある日の研究会の帰りに、小倉先生が「この研究班のまとめが、養護教諭自身の実践によって、研究として妥当性を検証されることが大事だと思う」と、私に語り掛けたことは、今でも心に残っている。

本書の「序」で小倉学教授（茨城大学）は、「近年、子どもを取り巻く社会や家庭の環境が変化し、学校教育にも校内暴力・いじめ・登校拒否など、“教育の荒廃”を象徴するような諸問題が続発した。それに伴って、子どもの健康問題にも心の健康問題の比重が増大するなど大きな変貌が見られた。一方、学校保健をめぐる科学技術は急速な進歩を続けている。このような情勢の変化の中で、養護教諭の果たすべき役割と資質に、これらの変化に即応する変容・向上が求められている。そこで、養護教諭の養成教育も、このような時代の要請に即応して改善されなければならない。」と述べている。ここでまとめられた検討結果について、実践研究し、その妥当性を実践研究で、検証することの必要性にも言及している。

小倉学先生は、本書の完成を待たず1990（平成2）年5月19日に永眠された。

このような日本学校保健学会共同研究班での学びや課題から、本学会の前身である「全国養護教諭教育研究会」が1992（平成4）年に設立された。

全国養護教諭教育研究会第4回研究大会（実行委員長・盛昭子）を開催した1996（平成8）年は、中央教育審議会第一次答申が出され、その具体化のために教育職員養成審議会、教育課程審議会等の審議が開始された年である。このような教育改革の動きの中で、現職養護教諭や行政、養成教育に携っている者が一同に会し、それぞれの立場から養護教諭の力量とそれを培うための卒前・卒後教育について意見を出し合うことが出来た意義は大きかった。会場から「さらにこのような審理を深めるためにも養護教諭教育学会が必要」との意見が出され、多くの賛同を得て養護教諭教育学会の設立が承認された。そして、1997（平成9）年に日本養護教諭教育学会に改称して第5回研究大会が開催された。

２．学会誌第3巻第1号（2000年3月）～第5巻第1号（2002年3月）の編集委員長としての経験から

各巻の特集は養護教諭の実践と研究能力に焦点化され、第3巻（2000年）は「養護教諭の研究能力」、第4巻は「養護教諭の実践と研究」、第5巻は「実践の問い直し－保健指導について－」であった。編集作業に関わりながら、「会員が研究の在り方を追求し、研究能力を高めることのできる学会誌発行の役割を大切にしたい」という願いを強めた。2001（平成13）年発行の第4巻は養護教諭職制60周年の年にあたることから、「実践⇔理論」をつなぐ研究の意義や実践の質を高める研究の在り方を考える特集とした。第5巻では、実践の本質や実践の問い直しの視点等の示唆を得られ、私たちは毎日の活動を「実践」の視点で問い直すことによって前進していけるとの思いから設定した特集であった。

これら各巻に寄せられた論文から、養護教諭の「研究的実践」と「実践的研究」といった「相互主体的」、「方向探索型」の研究の重要性や、そのような研究を通して深まった子ども観、教育観、養護観等々が実践の問い直しの視点として重要であることを学び得たことが思い出深い。

このような思い出から、学会員個人の研究並びに共同研究によって養護活動や養成教育の根拠となる理論が一層明確になり、自他共に許す養護学の確立とその発展に寄与することを本学会に期待したい。

「学術」を研究する学会として

2022年度　大谷　尚子

そろそろ身の周りの書類の整理が必要な年齢となった。ある時、学会草創期の学術集会の様子等が映っている写真が目に留まった。養護教諭のことを継続的に仲間と研究したいという思いが結集して「全国養護教諭教育研究会」を設立し、更に、現職の養護教諭が主体となる「学会」として誕生したばかりの頃の写真である。その時期より少し前、私は会の名称を「研究会」から「学会」へ、すなわち「日本養護教諭教育学会」にしたらどうかという提案を機関紙「ハーモニー」に投稿していた。その根拠として、それまでの「研究会」の活動は実質的に他の「学会」と同じレベルの研究をしていると言えること、そして、その方がメリットが多いと述べたのである。

例えば、専門職である養護教諭が自らの実践の根拠となる学問を構築している姿を公に示すことであり、養護教諭が社会的にも認知されやすく、研究を推進するための利便性も期待される等である。その後、名称変更がなされ、日本学術会議から「協力学術研究団体」として指定を受け、正真正銘の「学会」となった。私自身は、このような「学会」として成長していく端緒に役員として関わらせていただき非常に幸運だと思っている。困難や苦労以上に、「学会」としての成長が形として見えてきたことでもあり、達成した時の喜びを味わえた。しかし、次の代以降の皆さんは、学会活動を停滞することなく前進させていくことを課題にして苦労を重ねてきたのではなかろうか。始めるよりも、継続させることの困難さ・苦労を思うのである。改めて「学会」誕生から30年に至ったことの重みを受け止めるとともに、学会を継続させて下さっている皆さんに感謝したい。

ところで私自身は、役員を辞してから本学会に対して遠くから眺めるだけであったのだが、近年、「あること」から改めて「学会」のあり方を考えることになった。その「あること」とは、菅義偉首相（当時）が日本学術会議の6人の新会員を任命拒否したことである（2020.10.1報道）。菅首相の母校である法政大学の田中優子学長は即刻、任命拒否に対する抗議声明を発出した。その後、約1か月の間に670の学協会や大学・大学人、あるいは自然保護団体や消費者団体、映画人や演劇人、作家、ジャーナリストなど幅広い団体から任命拒否に抗議する声明が出された。学会においては、任命拒否されたのは人文・社会科学分野の6人であったが、まさに全ての分野の学会挙げての声明が出されたのである。

本学会も日本学術会議協力学術研究団体であり、無関係ではない。学会として、どう動くのがよいのだろうかと私自身はいろいろ考え、世の中の動きに注目してみた。学術会議に対する誤解に基づくデマが流布され、SNSでも「学会なんか庶民には関係ない、公金を使うな、研究は個人で勝手にやれ」等、市民から学会の存亡を問われているかのようなものもあった。これらはデマに踊らされての発信でもあるが、反面教師として捉えてみることもできよう。つまり学会は単に養護教諭のためだけにあるのではなく市民にとっても有益なものであり、「学術」は一国、一時代の政治のものではなく、世界や未来をみつめ、真理を探究するものなのである。私の「ハーモニー」記事に追加が必要なことがらである。

1948年に公布された日本学術会議法の前文には、「日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、世界の学会と提携して学術の進歩に寄与することを使命とし、ここに設立される。」と記されている。日本国憲法の理念と同根のものであり、学術が二度と戦争に使われることがあってはならないという覚悟が窺える。養護教諭の職制が敷かれたのは1941年であり、「富国強兵策」の一環として養護訓導が配置され、子どもを戦場に送ったという歴史がある。だからこそ、養護教諭にとっても、そして本学会にとっても再び戦場に子どもたちを送らないでいられるように、この法律前文に共鳴するのではなかろうか。

現在も、「あること」の続きが展開中である。内閣府が日本学術会議法を改正するという方針を出してきたのである（2022.12.6）。それに対し学術会議からは「再考を求めます」という声明を発信している（2022.12.21）。その説明資料（懸念事項、2022.12.27）には、「学術には一国に限定されない普遍的な価値と真理の追求という独自の役割があり、これには一国単位の利害には左右されずに、知の探求を通じて人類全体に奉仕するという意味が含まれています」という文言もある。これからの本学会のあり方を再考するにあたって、貴重な視点だと思われる。今、「新しい戦前」になるのではないかと危惧する声も上がっている。学会が真理の追究の場であり、戦争に加担しないための正念場と言えるだろう。

論文の重みを感じ続けた日々

2015～2017 年度理事
斉藤　ふくみ（北翔大学）

研究論文は研究の証であり、自らの仕事（実践と研究活動）の足跡です。私は編集委員として、一本の投稿論文の重みを感じ、活字化されるまでの困難さを実感してきました。投稿論文には、それぞれにドラマがあります。悔しさに涙したり、喜びに浸ったり・・・。

学会の顔である学会誌に編集委員会事務局 2 期、編集委員長 1 期の約 10 年間関わることができたことは、私にとってかけがえのない経験となりました。振り返ってみますと、私は投稿論文並びに査読の往還の窓口となっていましたので、常に大事な論文の入ったレターパックを抱えて、気の休まることはありませんでした。コロナ禍以前には、編集委員会を東京で開催し、丸一日缶詰になり編集作業にあたりました。いつもレターパックを詰め込んだスーツケースを持ち歩いたのも、今では懐かしい思い出です。この間、私は各期の編集委員の皆様に支えられましたことを心より感謝申し上げます。さらにご投稿くださった会員の皆様、特集記事をご執筆くださった各位、ご査読者の皆様、そして何よりも学会誌を手にとって読んでくださっている会員の皆様に、心よりお礼申し上げます。本学会のますますの発展を祈念しております。

学会設立 30 周年記念誌発行に寄せて

2015～2017 年度理事
森　佳世子（名古屋市立平針小学校）

日本養護教諭教育学会が設立 30 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

私は 2015 年からの 3 年間、理事として会計を担当させていただきました。その 3 年間の間に、小学校の養護教諭から教育委員会の指導主事への異動があり、自分自身は養護教諭という立場を離れましたが、より養護教諭という職のことを深く考えるようになったことを覚えています。理事会での協議や学術集会に参加し、多くの刺激を受け、養護実践や現職研修のあり方を考える貴重な機会となりました。

時期を同じくして、教員育成指標の作成に関わらせていただくことになりました。学び続ける養護教諭の育成のために、各キャリアステージで求められる資質能力を検討していくにあたり、理事会での熱心な議論で学ばせていただいた養成・採用・研修というつながりの大切さが育成指標作成の考えの基盤になりました。

子どもの健康課題が多様化・複雑化し、一層養護教諭への期待が高まるなか、学会が養成機関と教育現場との課題共有の場となり、それが一人一人の養護教諭の資質能力の向上につながるよう、学会の発展を願っています。

30 周年おめでとうございます！

2015～2017 年度監事
佐藤　倫子（札幌市立日新小学校）

「先生には監事をお願いしたいです。」とお話があったとき、何をするのか分からないまま引き受けました。それまで、本学会は学術集会で研究報告をしたり、学会誌に論文を投稿したりという参加の仕方でしたので、後に会費の収支の監査を行うことが分かり安堵したのを覚えています。1 年に 1 度、学術集会で行われる総会前に、会計担当の先生から出納簿や領収書の綴りなどが送付され、収支の流れを見ていく中で、理事の先生方が養護教諭を取り巻く様々な課題に向けて定期的に会議をもち、議論し、現職養護教諭、養成する立場の先生方、現職研修を担当する先生方へ道筋を作ってくださっていたことが分かりました。当時の会議は対面での開催でしたが、お一人お一人ができるだけ旅費がかからないように工夫し、会費を大切に使用していることがうかがえました。任期が終了した後の学術集会では、監事を経験したことにより学術集会参加への意識の変容があり、様々な研究報告や提案から「養護教諭の課題」を意識できるようになりました。短い期間でしたが、視野を広げる良い機会となり感謝しております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今後の学会に期待して

2015～2017 年度監事
津島　ひろ江（関西福祉大学）

日本養護教諭教育学会設立 30 周年に向けての事業にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。この学会の第 1 回から参加してきました。30 周年の中間点にあたる第 14 回学術集会が名古屋国際会議場で開かれたとき、学会長の後藤ひとみ先生のご講演「養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める」が心に強くきざまれました。以来、養護学の構築がテーマとなり歩んでまいりました。

2018 年の第 26 回学術集会（赤穂市・関西福祉大学にて開催）では、「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」をメインテーマに掲げ、学会長として「包括的な連携時代に養護教諭に期待されるコーディネーション能力」と題した基調講演をいたしました。ただし、台風接近のため、2 日目は本学会では初となる休会を余儀なくされました。

当時は、今のようにオンラインが普及していませんでしたので、翌年 3 月に第 3 回「養護塾」の場でランチョンセミナーと教育講演を行いました。学会長を受けた時、養護教諭の専門性についての内容にとどまり、養護教諭の実践を支える養護学の構築に至らず、課題となっていると思いました。今後の学会に期待しています。

養護教諭を冠にした学会がある時代に働けていることに感謝します

2015～2020 年度理事
圓岡　和子（愛知教育大学附属高等学校）

2023 年元日の中日新聞（朝刊）の“一面”に「養護教諭増『９割超』必要」と養護教諭について取り上げられていました。「子どもの数は減少していても多様化する課題に対応するために養護教諭が必要である」と、養護教諭がこれほど正しく注目をされることがあったでしょうか。養護教諭は素晴らしい職業だと自負しておりましたが、外部からの声にとても勇気づけられました。まるで、30 周年を迎えた一般社団法人 日本養護教諭教育学会 への激励のようです。私は 2009 年度から幹事として、2015 年度から 2020 年度まで理事（事務局長）としてかかわらせていただきました。常に勉強させていただくことばかりで、自分自身が養護教諭として職務を遂行する上で、この貴重な経験が強力な支えになっています。幸運なことに 20 周年記念誌の作成にも、2020 年 11 月 6 日に法人格の学術団体となるときにも、節目にかかわる機会に恵まれたことは、身に余る光栄であり、感謝しかありません。今後も積極的に学会に参加し、日々精進していきたいと思います。本会のますますのご発展と皆様のご活躍を祈念いたします。一般社団法人 日本養護教諭教育学会 設立 30 周年、誠におめでとうございます。

学会設立 30 年記念にあたって

2015～2020 年度理事
三木　とみ子（女子栄養大学名誉教授）

ここに、10 年前の 2012 年 12 月に発行した設立 20 周年記念誌があります。紐解くと、歴代理事長の学会への深い思いや未来への期待が熱く語られていました。その当時、私は理事長をさせていただいており、20 周年記念事業実行委員長の後藤先生はじめ多くの関係者のご支援のもと、記念行事を実施したことが昨日のことのように思い出されます。近年、子供たちの健康状態は、新型コロナウイルス感染症、虐待、貧困による様々な心身の影響を受け、かつて経験したことのない学校保健上の課題を抱えています。本学会の学会誌、学術集会等々での情報はこれらの課題解決に大きく寄与していると思います。

養護教諭という冠のある学会は、本学会のみです。名称にふさわしく、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」は、多くの論文に引用され、学術学会としての期待に応えていると評価されています。また、学会は一般社団法人化され、その盤石な運営は、多くの会員のニーズに応え、さらなる発展をしていると思います。これからは、養護学の学問構築も含め、学術学会としてその充実とさらなる発展を心から期待いたします。

学ぶことばかりの３年半でした

2018～2020 年度理事
今富　久美子（神奈川県立藤沢工科高等学校）

突然理事のご指名をいただいた時はお受けしてよいのかさえ判断できず、理事の役割も知らないまま理事会に出席いたしました。現職の経験しかない私には聞くこと見ることすべてが新鮮で、新しい学びを得た有意義な時間になりました。自分のアイデンティティの一部である養護教諭という職がどのような形で国とつながっているかを知り、学生時代や現職研修を通して「正解」だと信じてきたことに「別の解釈」があることに気づきました。組織としての立ち居振る舞い、社団法人化することの意義と重みをリアルタイムで感じ取ることもできました。中でも理事の先生方のやりとりを直接聞くことで、理論と実践の関係を考えながら実践の一つ一つに意味づけができたこと、自分の実践を支えてきたものは倫理綱領として身近に存在していると自覚できたことは、養護教諭でいられる残り少ない時間を充実したものにしてくれました。在任中に第 27 回学術集会の事務局の一員として鈴木裕子先生の下で学びながら学術集会の裏方として多くの養護教諭の方々と交流したことは大変貴重な経験となりました。台風直撃で中止になってしまったことだけが心残りです。理事として何も役に立てず申し訳なく思っています。

機関紙ハーモニーの編集を通して

2018～2020 年度理事
平井　美幸（大阪教育大学）

機関紙ハーモニーは、本学会の前身である全国養護教諭教育研究会の記念すべき第１回研究大会において「ハーモニー」という名称に決まり、以後、その歴史を刻んできたそうです。私は、第Ⅷ期理事のひとりとして機関紙ハーモニーの編集を担当させていただき、このことを知りました。全国養護教諭教育研究会の通信として発行されてから、機関紙ハーモニーはいつも会員の皆様とつながり、発展する本学会のあゆみを記していたと思っています。

本学会ホームページに掲載されている過去の機関紙ハーモニーを閲覧すると、記事の多くから学びをいただきました。中でも、私が最も大切に感じたのは、編集後記でした。機関紙ハーモニーの編集を担当されていらした先人の方々の思いに触れ、心がじんわりと熱くなったのを覚えています。先人あっての私たちの今があり、畏敬の念を感じずにいられませんでした。

機関紙ハーモニーの担当として、本学会事業の運営に携わらせていただいたことを光栄に思います。また、多くの皆様のご厚情、お力添えを賜り、深く感謝しております。学会設立 30 周年、おめでとうございます。これからも機関紙ハーモニーの発行を楽しみにしております。

濃厚な時間

2018～2020 年度理事
松永　恵（茨城キリスト教大学）

法人化に伴う調整があり、３年半余、熱い議論の場に身を置かせていただきましたこと、光栄に思います。

「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」の編集は、先輩諸姉からひとつひとつの用語に込められた思いを直接お聞きする貴重な体験となりました。会誌の編集では、台風で学術集会の一部或いは全てが誌上開催になったり、法人化が実現したり、そして新型コロナウイルス感染症が流行したり、と常に計画の修正が求められました。今、そしてこれから、私たちが必要とされることについて考えて参りました。

会員からは、実践について考える機会を求められていると思い、ご自身の実践に向き合い、著していただきました。社会では、本誌により、養護教諭の実践が捉えられています。特に本会が得意とする研修や複数配置に関する研究を発信することが必要です。今後もご発展を祈っております。

振り返りますと、日々、インターネットで論文を読み、「この人！」と思ったら電話やメールでご執筆やご査読をお願いしておりました。おかげさまで充実した編集事業となりましたこと、感謝申し上げます。

学会設立 30 周年記念誌発行に寄せて

2018～2020 年度監事
岩崎　和子（関西福祉科学大学）

日本養護教諭教育学会の設立 30 周年、心よりお祝い申し上げます。

この 10 年間の私自身のことを振り返ってみますと、2018 年から 2020 年まで監事として関わらせていただきました。その間には学会を一般社団法人化するという大きな責務がありましたが、他学会で一般社団法人化した経験がありましたのでそのノウハウを活かし、一般社団法人化に向けて理事や監事の皆様と協議を重ねてまいりました。一般社団法人の産声を上げた時は感無量でした。また、現在は総務委員として関わらせていただきながら、30 周年記念式典の実行委員をさせていただいています。20 周年の記憶をたどりながら、30 周年という新たな記念すべき事業に向けて関わらせていただいておりますことに感謝申し上げます。このように学会のあゆみとともに私自身も成長させていただいております。この気持ちを忘れずに、これからも学会とともに歩み、子供たちのために頑張っていきますのでどうぞよろしくお願いいたします。

井の中の蛙、学会による「人と学び」の出会い成長

2018～2020 年度監事
大野　泰子（広島文化学園大学）

学会設立 30 周年、お祝い申し上げます。学会設立 10 周年となる第 10 回大会が 2002 年三重県鈴鹿市で開催され、県を挙げて鈴鹿短期大学名誉教授の小林寿子先生を学会長とし、学会運営を行ったことを思い出します。当時、一養護教諭であり井の中の蛙であった私が、養護教諭養成の道に導かれるきっかけとなりました。自身は、保健師から養護教諭に転職し、管理職から養護教諭は「指導」の言葉は使えないと言われたことを口惜しく思い、養護教諭の職の向上を願ったものでした。今では学校保健安全法第 9 条に養護教諭の保健指導は明記されています。これまで学会や研究会の参加により、養護教諭職の深さや魅力を学ばせていただき、退職養護教諭の先輩が「私は一生養護教諭や」と言われる境地に近づきつつあります。

監事の仕事を拝命後は、学会運営は印刷製本・発送や、予算管理など、先生方の多大なご尽力での成立を知り、この度の社団法人化の転期に立ち会えたことは大変光栄でした。

羅針盤である後藤ひとみ先生の懐は強くて心地の良いものですが、今後さらなる新時代の養護教諭学会の発展を心から願っております。

養護教諭教育学会の設立 30 周年を迎えて

2015～2023 年度理事
大川　尚子（京都女子大学）

日本養護教諭教育学会が設立 30 周年を迎えられましたことを、心からお祝い申しあげます。私の入会は 20 年前の 2002 年、大阪府枚方市の小学校の養護教諭として大阪教育大学教育学研究科健康科学専攻に入学した時です。指導教員の松嶋紀子先生に「医療的ケア」についての研究でお世話になったときから始まります。学術集会への参加は、2000 年に松嶋先生が学会長をされた第 8 回からの参加となります。学会の仕事は、2009～2014 年度の第Ⅴ期・Ⅵ期役員時に鈴木裕子編集委員長の下、編集委員として 6 年間、その後、2015 年の第Ⅶ期より理事を務めさせていただいております。その間、総務担当常任理事として学会の一般社団法人化に携わってきました。

養護教諭は、学校内で唯一、健康・心理・福祉に関する専門的知識をもち、これを学校教育で発揮していくことが求められています。現在の大学では発達教育学部で養護教諭を養成しています。今までの教育学、心理学の教育プログラムに、福祉の学びを融合し、チーム学校の時代に求められる「福祉マインドをもった養護教諭」を養成しています。令和 6 年度からは心理共生学部に改組し、社会福祉士だけではなく、公認心理師も視野に入れた養護教諭の養成が始まります。新学部の設置の書類に、「心理学」「社会福祉学」「養護保健」の教育・研究をより特化した学部と言う説明があります。他領域の先生方からは「養護学ってどうしてないの？」と言われました。「養護教

諭の倫理綱領」ができ、「養護実践基準」の検討も進み、次は、ぜひとも、養護教諭がつかさどる「養護」の学問構築にむけての活動を期待するとともに、一般社団法人日本養護教諭教育学会の今後のますますのご発展を祈念し、設立30周年記念誌の発行にあたってのお祝いのご挨拶とさせていただきます。

「学会設立30周年記念誌」に寄せて

2015～2023年度理事
加藤　晃子（滝学園滝中学校滝高等学校）

第Ⅶ期より理事をさせて頂いております。その多くを会計担当として努めて参りました。一般社団法人となった今でこそ、会計業務は外部委託されていますが、法人化前の毎年の決算期には、「本学会の諸活動が、会員の皆様の会費納入から成り立っている」ことをつくづく感じながら、決算業務を行って参りました。会計業務について全くの素人でしたが、理事長、他理事の先生方にご指導を頂きながら、学会会計処理を学びながら、学会の「成すべき役割」を私自身が学んでいった次第です。

コロナ禍を経験したここ 3 年程で、学会の運営方法自体も処々に変化致しました。コロナ禍以前には無かった「オンライン会議」や「オンライン学術集会」。実際に会わなくとも事足りるという、学会設立30年の歴史の中でも大きな変化の期となりました。その中でも変わらず対面で子供たちと関わる養護教諭が、その力量を磨き上げるための良き学びの場となる学会であるよう、現職養護教諭の立場で理事を仰せつかる者として、現場の感覚を理事会でも発揮し、今後の学会の発展に尽力していきたいと考えております。

三十而立の感慨

2015～2023年度理事長
後藤　ひとみ（愛知教育大学名誉教授）

本学会は三十にして立つ時期を迎えました。1992年11月21日に開かれた、発起人18名による発起人会・設立総会の参加者は 23 名でした。修士の指導教員であった堀内久美子先生の誘いで発起人に名を連ね、「何が起こるのか」と緊張して参加したこと、附属学校勤務の養護教諭の方々の熱い発言に驚いたことを思い出します。その後の数年は、「養護教諭教育」という名称でいいのか、「養護教諭実践」を主眼とした別組織の研究会を立てようかと逡巡しました。

今思えば、第4回研究大会（1996年）の実行委員長であった盛昭子先生（弘前大学）が、「オバンはもういいわ。」とおっしゃって、パネルディスカッション「今求められている養護教諭の力量とは－時代の要請に応えうる養護教諭の育成のために－」で養成の立場から提言するという使命を与えてくださったこと、先生の残り任期1年の編集委員長をするよう声をかけてくださったことが本学会に真正面から向き合う契機になったのかもしれません。

学会設立メンバー23 名のうちの最年少であった私も 1 年前に大学を退職したことで、全員が現役教員ではなくなりました。30年という月日は結構な長さだと思いますが、2000年度から理事を務めさせていただいている身は「生き字引」のようなものだと自覚しています。恩師や先輩が触発してくださったことを忘れず、次世代への伝承に一層努めようと思います。

学会のさらなる発展に期待して

2015～2023 年度理事
小林　央美（弘前大学）

1996（平成 8）年 11 月 25 日、奥羽大学にて、本学会前身の全国養護教諭教育研究会第 4 回研究大会が開催されました。実行委員長が恩師である弘前大学の盛昭子先生であったこともあり、諸先輩の養護教諭の方々と会場入りしていました。

その総会でのことが忘れられません。事務局から、研究会から学会への名称変更と組織づくりの提案がありました。当時、現職養護教諭として県派遣の内地留学で大学院生だった 30 代前半の私は、とても嬉しいご提案だと思いました。しかし、時期尚早との厳しい意見が出ました。少し記憶が定かではないのですが、学会として耐えうるだけの学問が見えない、学会と名乗るだけの内実がないのではないかという理由でした。難航の末、事務局提案は通りましたが難産のスタートだったと思います。今、その学会が 30 周年を迎えることは本当に喜ばしいことです。

大学教員になったばかりの頃、尊敬する他の研究分野の先生から印象深いお言葉をお聞きしました。「一流の研究者は一流の人格者。研究は真摯に真理の追究をするから」というような意味だったと思います。本学会が、養護活動や養成の根拠となる実践知や学問を追究し、さらに発展することをお祈りします。

養護教諭の学問構築をめざして

2015～2023 年度理事
鈴木　裕子（国士舘大学）

学会設立 30 周年を迎え、喜ばしく思うと同時に、それにふさわしい学会活動が期待されていると思うと、身が引き締まる思いをもっています。入会からの 20 年間のことは 20 周年記念誌に譲り、その後の 10 年を振り返ると、自然災害や感染症流行などの困難に直面しながらも学会誌刊行や学術集会等の定例活動を関係者の努力により継続できたことは、もっと評価してよいと思います。また、大きな事業として、学会の法人化、「養護教諭の倫理綱領」の検討と承認、「養護実践基準」の検討、用語集第三版の発行等がありました。委員として直接関与したものとそうでないものがありましたが、いずれにしても多大なエネルギーが注がれた活動でした。

一方、私自身は 2014 年度までは編集担当常任理事として学会誌年 2 回発刊を軌道に乗せるべく尽力しました。2015 年度からは学術担当常任理事を高橋香代先生から引き継ぎました。しかし、力が足りず学術委員会としての成果はまだ思うように上がっていません。第 27 回学術集会学会長の任ともども不完全燃焼の思いが強くあります。しかし、いつまでもくすぶっているわけにはいきません。次の 10 年に向けて、道半ばの養護教諭の学問構築につながる活動を加速していかなくては。

理事を経験しての学び

2015～2023 年度理事
塚原　加寿子（新潟青陵大学）

日本養護教諭教育学会設立 30 周年、おめでとうございます。

私は、2015 年から理事を、2021 年から広報担当常任理事を務めさせていただいています。その間の活動で、特に印象深いのが 2016 年から 2020 年まで「養護教諭の倫理綱領」第 13 条における養護実践基準を検討したことです。会員の先生方のご意見を伺いながら、理事会で何度も議論を重ねる中で、私自身も「養護」について深く学ぶことができました。また、養護教諭の「養護」に対する諸先輩方の熱い思いも感じることができました。この経験は私の財産となっています。

昨年度からは、広報を担当しています。会員の皆様に養護教諭教育に関する有益な情報をスピーディーに伝えていけるよう、そして、養護教諭教育の発展に貢献できるよう、非力ながらも努力してまいります。

養護教諭の未来に向けて

2015～2017 年度理事、2021～2023 年度理事
宮本　香代子（安田女子大学）

日本養護教諭教育学会設立 30 周年おめでとうございます。後藤理事長のもと 2015 年から 3 年間の理事を務めさせていただきました。理事就任時は、学会活動委員会に所属し、学術集会前に行うプレコングレスに取り組みました。養護教諭を取り巻く最近の動向について報告し、その上で、養護教諭の資質能力向上に関する教育内容についての情報交換と情報共有を行うという趣旨でした。現職の養護教諭の参加を得て、実りある交流ができ有意義な時間であったと実感することができました。また、第三版の用語の解説集の見直しに取り組みました。さらに、養護教諭の倫理綱領作成のワーキンググループに参加させていただき、養護実践基準等についての協議する場に参加できたことは、多くの学びであり、養護教諭の未来を予測させるものでした。

3 年間の空白を経て、再度理事に再任されましたが、一般社団法人化後の理事就任は、組織の在り方が理事長主導の学会になっていました。今後の養護教諭の未来を見据えた養護教諭養成の在り方や現場における課題の研究の取組により明らかにされることなど本学会の役割は重要であると考えます。これからの理事長の舵取りに期待します。

学会のさらなる飛躍を願って

2021～2023 年度理事
浅田　知恵（愛知教育大学）

2023 年元日、中日新聞一面トップに「養護教諭」の見出しがありました。新しい年に養護教諭の飛躍の予感、喜びを感じました。この記事が掲載される前、担当記者は取材を通して、養護教諭が子どもの心と体に寄り添い、受けとめ、ともに課題に向き合う姿に深く感動したそうです。実はこの記者は、私が日本養護教諭教育学会の理事であることを理由に来学されました。そのことから、理事の仲間入りをさせていただいた責任を感じ、身の引き締まる思いがいたしました。

私は今、母校で養護教諭を育てています。これまでに自分を育ててくれた先生方、養護教諭の仲間、教職員の人たちとの出会いやつながり、多くのことを教えてくれた子どもたち、そうして学んだ理論知や実践知の一つ一つを紡ぎ直し、養護教諭の可能性ややりがいを学生たちにできる限り伝えていきたいと思っています。

そして、多くの先生方の熱意と魂を込めて、30 年にわたって築いてこられた本学会の歴史に深く敬意を表するとともに、未来の養護教諭へとつなげていくことができるよう、微力ながら尽力してまいりたいと思います。

学会 30 周年によせて

2021～2023 年度理事
植田　誠治（聖心女子大学）

少し前に、学会設立 20 周年と思っていましたが、もう設立 30 年周年とは、時の経つ早さをあらためて感じずにはおられません。1991 年 4 月から金沢大学での養護教諭養成に関わりましたが、時をほぼ同じくして、本学会に多くを学ぶこととなりました。いろいろな思い出の中でも一番は、養護教諭の英語表記に関わる検討に従事したことです。最終的には、*Yogo* Teacher に落ち着きましたが、私は当初より *Yogo-kyoyu* あるいは *Yogokyoyu* としてはどうかと考え、意見を述べさせていただいておりました。School Nurse や School Nurse Teacher とも異なる唯一無二の専門職の国際語としてはどうかという考えからです。会員の皆様に失礼を顧みず書かせていただくと、Sushi や Tempura のように、養護教諭そのものの存在、そして養護教諭の役割や職務の独自性が、世界で認知されることがよいのではないかと思っていました。そして、その結果としてすべての子どもたちが健康で豊かな生活を送ることに繋がるのではないかとも考えていました。表現が少々異なろうとも、唯一無二の専門職という本質は変わりません。これからもその養成をアカデミックにリードする会であることを願っております。

養護教諭（実践）が目指す北斗七星を求めて

2021～2023 年度理事
鎌田　尚子（女子栄養大学名誉教授）

今年は、中教審答申（2019 年～）が全課程に於いて完成し、新しい教育改革が踏み出す一年目である。コロナとウクライナ戦禍、地球環境の危機に対峙して、2023 年元旦を迎えた。

“癸卯（みずのとう）の年”は、成長や飛躍のために準備してきたことが、実を結ぶ年と言われる。養護教諭は 1941（昭和 16）年誕生以来 82 年間、一校一名の原則が変わらない。健康安全管理と健康安全教育の機能別、幼児・児童・生徒の発達段階別の専門職機能に応じて人数を増員して（3～8 人／校）、新しい時代の要請に応じて職務内容を充実、発展させたい。養成教育と現職教育を充実する。地域や家庭の課題を体現する子供と対峙する養護教諭の倫理綱領は、2015 年学会総会議決の前文ではなく、全ての養護教諭は子どもが育ちの中で躓き、傷つき、悩み、苦しみ、痛みに泣く辛さを分かち合う仲間、問題の解決を手伝い、将来の道筋を築くための力や助舟となり、育つ方向・目標を導く柱が、前文には書かれなければならない。前文のはじめ 4 行をカットして、養護教諭の実践が目指す「北斗七星」を盛り込みたい。そのため古今エジプト、ローマ、イスラム、中国の思想と古典を訪ねて、宇宙を繋ぐ人類の生き方探求から始める。

日本養護教諭教育学会とともに歩んだ自分史を振り返って

2021～2023 年度理事
工藤　宣子（千葉大学）

日本養護教諭教育学会設立 30 周年、おめでとうございます。この記念すべき節目に原稿を書かせていただく機会をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

養護教諭として勤務し学び直しの必要を感じていた頃、養護教諭のための学会が設立されたと耳にし、心躍る気持ちで入会させていただきました。第 6 回学術集会では、大学の恩師のご発表に感謝の意を表そうと発言させていただきましたが、場をわきまえない発言内容に、会場の空気が一瞬にして凍り付いたことは今でも忘れることができません。その後も、学術集会事務局の方々にご迷惑をおかけすること多々ありましたが、いつも温かくお許しいただき、また、養護教諭諸姉そして研究者の方々のご研究に学ばせていただき今日に至っております。

養護教諭に関わる様々な学会が設立されるに至った今日でも、「養護とは」という普遍の命題を追求できるのは本学会であろうと思っています。若き養護教諭、熟練養護教諭、そして研究者の方々が世代を超えて共に論を交わし、「養護学」が体系化されることを期待し、また、この節目の年にその輪の中にいることに感謝申し上げます。

高度専門職としての養護教諭には『養護学の体系化』が火急である

2021～2023 度理事
徳山　美智子（元大阪女子短期大学）

設立 30 周年を会員の皆様とご一緒に祝いたいと思います。この 10 年間は、養護教諭の倫理綱領及び養護実践基準の制定、法人化など飛躍の年月であったことは論を俟たないことです。一方で養護学の体系化に至らなかったことは、痛恨の極みです。自身が養護教諭の職にあった 2000 年第 8 回学術集会シンポジウムにおいて企画運営の任を得て、合議の上でテーマを「養護学の確立をめざして」と設定し、コーディネーターを務めました。受諾の背景には、不適応/心理的問題、問題行動、学校事故/訴訟等の危機管理が多発し、生徒及び保護者と向き合う中で多職種連携・多機関連携が欠かせない事態に直面し、アイデンティティが揺らぎ、職の基盤としての学問構築の脆弱さを深く強く自覚したからです。あれから 24 年が経過し、その間、養護学の体系化、養護学の確立は繰り返し事業計画に立案されたが、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」〔最新版〕には「～確立に向けた検討を進められているが、未だ体系化には至っていない。」と記述されたままです。令和の学校教育において養護教諭は高度専門職との見解がなされている中において、この機に「養護学の体系化」が火急のことであることの合意形成を図り、養護学の体系化・確立に向けてさらなる歩みを進めたいと願うものです。

学会設立 30 周年を祝して

2021～2023 年度理事
外山　恵子（愛知県立日進西高等学校）

日本養護教諭教育学会設立 30 周年、誠におめでとうございます。私は、本学会に 1994 年に入会し、1996-1997 年に推薦委員、学術集会実行委員を経験させていただきました。当時、子供の数が急増し、生徒数 1,800 人を超える大規模校での一人勤務は大変でした。そこで、本学会の共同研究で「時代のニーズに応じた養護教諭の適正配置」（2001 年・日本養護教諭教育学会誌第 4 巻掲載）に参加させていただき、養護教諭の適正配置を切望してまいりました。大規模校並びに必要に応じて複数配置となったことは、ひとえに本学会のご尽力の賜物と認識しています。

現在、倫理綱領も完成し、養護教諭は学校保健の中核的存在として、教育界や社会に認識されています。教員の 30 歳は、ミドルリーダーとなる年齢です。本学会は養護教諭教育をミドルリーダーとして牽引し、今後ますます発展していくことを確信しています。同時に、全校養護教諭複数配置も夢ではなくなるかもしれません。最後に、一般社団法人日本養護教諭教育学会となり、社会的信頼が一層高まった折りに理事を拝命し、広報委員並びに 30 周年記念誌発行に携わり、学会設立 30 周年の節目に深く関わることができたことに感謝申し上げます。

30 周年の節目に、改めて思うこと

2021～2023 年度理事
西岡　かおり（四国大学）

「養護教諭」という言葉が、学会名に含まれる学会は、唯一「日本養護教諭教育学会」であることを随分前に、現在の理事長である後藤ひとみ先生からうかがいました。その時の不思議な衝撃を今でも覚えています。養護教諭として養護教諭教育学会に出会い、養成する側から学会に携わり、これからの「養護教諭」を多角的に捉え未来を見据えなければならない所に立っていることを改めて感じています。子供達を取り巻く環境や社会の変化に伴い学校や養護教諭に求められていることも変化していきます。養成に関わる者として、その潮流を敏感に受け取る場としての学会の意義を改めて感じています。

現職の先生や学生たちにとって「学会」は、何となく敷居が高く自分には・・・と思っている方が多いように感じています。そうではなく、一人職である養護教諭にとって、学びの場であり、出会いの場であり、省察する場であるという事を伝えつなぐ役割が果たせたら・・・と思っています。現在は、その思いを大切に「ハーモニー」担当として会員の皆様をつなぐことができるように務めていきたいと思っています。

学会設立 30 周年記念に寄せて

2021～2023 年度理事
松田　芳子（熊本大学大学院）

日本養護教諭教育学会設立 30 周年、おめでとうございます。前身である全国養護教諭教育研究会の頃から養護教諭養成教育に携わり、重ねてきた年月の早さとその重みを改めて感じております。

熊本市で開催された第 12 回学術集会（実行委員長：松本敬子先生）の時は事務局を、第 23 回学術集会では微力ながら学会長を担当させていただきました。各地域で温かく迎えていただく学術集会に喜びを持ちながら、参加させていただいています。

ここ数年は、新型コロナ感染症の影響で、対面で集うことが難しい状況にありますが、ICT を活用し遠隔で会議や研修を行うなど、様々な工夫により多様な方法で開催されています。遠方でなかなか会えない地域の方とも遠隔ではご一緒することができ、それもまたメリットであると感じています。養護教諭教育に関心をもつ様々な人が集まって「養護教諭」について研究し、語り合う本学会は、養成教育に携わる私にとって、いつも養護教諭の本質について考える大切な支えとなっています。本学会の今後の益々の発展を祈念いたします。

養護教諭教育学会での学び

2021～2023 年度理事
山崎　隆恵（北海道教育大学）

学会設立 20 周年までは、理事・常任理事を担当して、編集委員も担当していました。20 周年以降は編集委員を引き続き、現在はなんと編集委員長をお引き受けしています。編集委員長は見識の高い方がなるものと思っていましたが、一般社団法人となって委員長や委員の選出方法が変わった結果、理事を見渡すと編集委員の経験者が少なく、いたずらに長く携わっている私にお鉢を回さざるを得ない状況になったと考えます。

振り返りますと、第 16 巻（2012 年）での、特集「資質能力の向上」までは、現職の立場で編集委員としてどうかかわれるかを真剣に考えることができましたが、第 17 巻（2013 年）の特集「養護教諭の教職課程認定に関わる現状と課題」以降、キョーショクカテイニンテイ？と日本語としての認識が不案内になってしまいました。その後、学校現場から養護教諭養成課程に転職してから、ようやく漢字として認識できるようになりました。そして、全国にある養護教諭養成課程での教育に興味が深まり、養護のコアを考える必要性なども自覚でき、編集委員会では考えさせていただきました。この経験から、現職の養護教諭にとって養護教諭の養成や将来について、カタカナのような認識ではなく、自分の身近なこととして自覚を持ってもらえるよう、いわば通訳としての役割を編集委員会が担っていることに思いが至りました。本学会のスタンスである現場・養成・行政をつなぐという立場で編集委員会のあり方を考えていきたいと、思いを新たにしています。

学会設立 30 周年を記念して

2015～2020 年度理事、2021～2023 年度監事
河田　史宝（金沢大学）

学会設立 30 周年おめでとうございます。多くの先生方の熱意と努力によって成長してきた学会だと思います。2020 年 4 月からは、一般社団法人の事業となり、今後もますます養護教諭教育に関する研修とその発展に取り組まれることと期待しております。

設立 20 周年から 30 周年の間で学会活動の印象に残っていることの一つに、第 25 回学術集会（2017 年）を金沢大学で開催し学会長を務めたことがあります。学会参加はしたことがありましたが、学会運営についてははじめのことであり、戸惑うことも多くありました。金沢駅からも遠い金沢大学に何人ぐらいの人が来てくださるのか心配していたところ、多くの方の参加があり嬉しく思いました。学会の理事のみなさまはもちろん、地元の現職養護教諭の方からのご協力を得て、何とか無事行うことができました。その学会の中では、多くの新しい出会いもあり、金沢大学養護教諭特別別科修了生の参加もあり、その後の養護教諭養成にも力が入ったことを覚えています。本当に貴重な機会をいただきました。今後も学会発展のため微力ながら尽くしたいと思います。

学会のさらなる発展を

2015～2020 年度理事、2021～2023 年度監事
古賀　由紀子（九州看護福祉大学）

長く会員として学会に関わらせていただいていますが、養護教諭として仕事をしているときも、養護教諭養成に携っている今もですが、私はこの学会から多くの学びを得たことに感謝しています。

学会は今年 30 周年を迎えましたが、そのうちの 10 年間、私は理事・役員として学会運営に携らせていただきました。10 年前には、20 周年の記念行事等が行われましたが、その頃私はハーモニー担当理事をしていましたので学会の前身である全国養護教諭教育研究会の通信第 1 号からハーモニー第 59 号まで 20 年間に発行された機関紙に、しっかり目を通す機会が与えられました。学会になり通信の名称がハーモニーに決定されたいきさつ等当時の機関紙に見ることが出来ました。そして学会の足跡を 20 周年記念誌にまとめましたが、あれからもう 10 年たつのかと思うと、この 10 年間の学会の歴史や時代の流れがハーモニーにも更に積み重ねられて感慨深く思います。

これから 40 周年、50 周年を迎えるときには、さらに歩みの大きさと重みが重ねられているはずです。現在の会員とこれから会員になられる方々と共に学びそして学会がさらに発展して行くことを祈念したいと思います。

Ⅲ　学会 30 年のあゆみ

表１は、本学会の「30 年のあゆみ」をまとめたものである。1992 年度～2012 年度は概ね『学会設立 20 周年記念誌』（2012 年 12 月発行）に掲載されている内容であるが、2013 年度以降の内容を勘案して、今回、学会誌やハーモニーの特別な記事、国から示された教育再生実行会議の提言等を加筆した。

表中の「学会の活動」欄には、毎年の学会事業である「学術集会（旧・研究大会）」及び「総会」の開催、「機関紙ハーモニー（旧・通信）」及び「学会誌」の発行等の実施日を示し、「特記事項」欄にはこれらに関連した特徴的な事項を記している。各活動の詳細は次節の「Ⅳ　学会の事業」をご覧いただきたい。

「社会の動き」欄は主に学校教育や養護教諭に関する国内の出来事を記している。ただし、年度は本学会の事業年度であるため、翌年の３月末日や９月末日（法人化以降）までであることがわかるよう、ここ 10 年の事項についてはできるだけ公表などの年月日を付すようにした。なお、紙面の都合から次の言葉は略して表記した。

【中央教育審議会：中教審、教員養成審議会：教養審、教育課程審議会：教課審、保健体育審議会：保体審、教育職員免許法：教免法、教育公務員特例法：教特法、文部科学省：文科省、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校：小・中・高・特】

表１　日本養護教諭教育学会のあゆみ

●：学術集会（研究大会）及び総会　○：機関紙ハーモニー（通信）　★：学会誌　＊：養護教諭関連の事項

「年度」欄：1992～2019 は 4/1 から翌年 3/31、2020 は 4/1 から翌年 9/30、2021 以降は 10/1 から翌年 9/30

年度	学会の活動	特記事項	社会の動き
1992	●11/21　「全国養護教諭教育研究会」設立総会開催（於：第 39 回日本学校保健学会（名古屋市）／吹上ホール） ○12/25 全国養護教諭教育研究会通信第１号発行	●発起人 18 名にて招集 ●「全国養護教諭教育研究会へのおさそい」「全国養護教諭教育研究会の運営と活動に関する申合せ」配付（年会費 3,000 円） ●世話人５名選出 ・設立年度会員 46 名	＊学校環境衛生の基準全面改訂（文部省体育局長通達） ＊日本学校保健会「児童生徒の健康状態サーベイランス事業」開始 ＊高等学校設置基準の一部改正
1993	・養護実習に関する調査実施（全国の養成機関） ○5/6 全国養護教諭教育研究会通信第２号発行 ○10/15 全国養護教諭教育研究会通信第３号発行 ●11/27 第１回研究大会開催（於：第 40 回日本学校保健学会（横浜市）翌日／横浜国立大学附属養護学校）、第２回総会開催 ○1/22 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第４号発行	●通信の名称を「ハーモニー」に決定、申し合わせ事項の変更など ○第４号より通信を「ハーモニー」に改称	＊愛知教育大学大学院教育学研究科に「養護教育専攻」新設 ＊飲料水の水質検査の基準改訂（文部省体育局長通達） ＊第６次公立義務教育諸学校教職員配置改善計画等（養護教諭：３学級以上に全校配置、30 学級以上に複数配置）
1994	○6/30 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第５号発行 ○10/17 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第６号発行 ●11/27 第２回研究大会開催（於：第 41 回日本学校保健学会（大阪市）翌日／ホテル・アウィーナ大阪なにわ会館）、第３回総会開催 ○2/25 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第７号発行	○世話人改選に関する公示 ●次期（1995～1996 年度）世話人と会計監査承認、研究テーマ決定など ○会員の声「ホットニュース」掲載、研究班「養護実習について」委員の募集	＊今後の学校における健康診断及び予防接種の取り扱いについて（文部省体育局長通知） ＊阪神・淡路大震災発生（1995.1.17）
1995	○6/10 全国養護教諭教育研究会通信	○激震・被災における心のケ	＊学校教育法施行規則の一部改

	「ハーモニー」第８号発行 ・養護実習に関する共同研究開始 ○9/20 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第９号発行 ○11/15 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第10号発行 ●11/27 第３回研究大会開催（於：第42 回日本学校保健学会（千葉市）翌日／千葉大学西千葉キャンパス内・大学院自然科学研究科大会議室）、第４回総会開催 ○1/26 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第11号発行	アと養護教諭の役割、ホットニュース「省令改正で養護教諭も保健主事に」 ○ホットニュース「免許法認定公開講座」など ○参考資料：養護教諭免許状が取得できる教育機関（1995年） ●推薦委員会に関する申し合わせ承認など	正（保健主事は教諭又は養護教諭をもって、これに充てる） ＊いじめの問題に関する文部大臣「緊急アピール」
1996	○6/5 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第12号発行 ・養護教諭の複数配置に関する共同研究開始 ○9/20 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第13号発行 ○11/8 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第14号発行 ●11/25 第４回研究大会開催（於：第43 回日本学校保健学会（郡山市）翌日／奥羽大学中央棟６階講義室）、第５回総会開催 ○3/25 全国養護教諭教育研究会通信「ハーモニー」第15号発行	○「全国私立短期大学養護教諭養成課程研究会の活動状況」など ○教養審情報、養護教諭の配置に関する情報など ●「日本養護教諭教育学会」に名称変更、新役員（1997～1999年度）の承認など	＊病原性大腸菌 O-157 による食中毒発生 ＊中教審第一次答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（子供に生きる力とゆとりを）
1997	○6/30 日本養護教諭教育学会通信「ハーモニー」第16号発行 ○9/12 日本養護教諭教育学会通信「ハーモニー」第17号発行 ●11/8 第５回研究大会開催（於：愛知教育大学大学会館）、第６回総会開催 ★3/20 「日本養護教諭教育学会誌」創刊号（第１巻第１号）発刊	○推薦委員の立候補受付け ●「日本養護教諭教育学会」研究大会として開催、日本学校保健学会と別日程で初の開催 ●会則および実施細則承認、年会費増額（1997年度より5,000円）、役員選出のための「推薦委員会」の設置、学術集会開催のための「実行委員会」の設置、名誉会員・賛助会員の規程など（研究大会補助費60,000円） ★日本学校保健学会理事長、日本教師教育学会会長寄稿	＊茨城大学と岡山大学の大学院教育学研究科に養護教育専攻設置 ＊保体審答申において「養護教諭の新たな役割」として健康相談活動を提言 ＊教養審「養護教諭の養成カリキュラムの在り方について」（報告）
1998	○6/30 日本養護教諭教育学会通信「ハーモニー」第18号発行 ○9/4 日本養護教諭教育学会通信「ハーモニー」第19号発行 ●10/24～25 第６回学術集会開催（於：茨城大学）、第７回総会開催	○養護教諭関連全国大会の案内など ○研究助成金申請者の募集、推薦委員の立候補受付け ●「学術集会」として初開催 ●初の２日間日程で実施、初の懇親会開催（学術集会補助費80,000円へ）	＊教免法の一部改正（「養護概説」「健康相談活動の理論及び方法」新設など） ＊教免法の附則第18条による制度的措置（養護教諭が保健の教科を担当できる） ＊学習指導要領改訂（小・中）

	★3/15 学会誌第２巻第１号発刊		
1999	○5/22 日本養護教諭教育学会通信「ハーモニー」第 20 号発行 ○8/4 「ハーモニー」第 21 号発行 ●9/5 第 7 回学術集会開催（於：岡山国際交流センター）、第８回総会開催 ★3/17 学会誌第３巻第１号発刊	○ホットニュース「養護教諭専修免許状のための公開講座」、養護教諭の複数配置に関する要望書への意見募集など ○ホットニュース「大学院入学資格に関する改善について」	＊学習指導要領改訂（高） ＊教養審第三次答申「養成と採用・研修との連携の円滑化について」
2000	・養護教諭の英訳及び本学会の英語表記に関する検討 WG 設置（～2003 年度） ○5/31 「ハーモニー」第 22 号発行 ○8 月 「ハーモニー」第 23 号発行 ●9/9 第 8 回学術集会開催（於：ホテル・アウィーナ大阪）、第 9 回総会開催 ・9/9「教育職員免許法改正に伴う養護専門科目の充実に関する意見書」作成 ○11/24「ハーモニー」第 24 号発行 ★3/15 学会誌第４巻第１号発刊	・機関紙「ハーモニー」年３回発行へ ○新理事（2000～2002 年度）紹介、意見募集：「養護教諭」の英訳表現について ○報告：「養護教諭」の英訳表現について ○9/9 付け「意見書」への意見募集など	＊教特法の一部改正 （専修免許状取得のための大学院入学資格の弾力化） ＊児童虐待の防止等に関する法律公布 ＊「健やか親子 21」策定 ＊第 7 次公立義務教育諸学校教職員定数改善計画公表（養護教諭の複数配置基準が学級数から児童生徒数へ）
2001	○5/31 「ハーモニー」第 25 号発行 ○9/10 「ハーモニー」第 26 号発行 ●10/6～7 第９回学術集会開催（於：湘南国際村センター）、第 10 回総会開催 ○1/23 「ハーモニー」第 27 号発行 ★3/15 学会誌第５巻第１号発刊	○英訳 WG 検討経過報告など ○報告：日本学校保健学会とのジョイント企画 ●養護教諭の英語表記を *Yogo* teacher と決定（学術集会補助費 100,000 円へ）	＊養護教諭制度 60 周年 ＊小学校３･４年生から保健学習 ＊大阪教育大学附属池田小学校事件
2002	○6/10 「ハーモニー」第 28 号発行 ○9/9 「ハーモニー」第 29 号発行 ●10/5～6 第 10 回学術集会開催（於：鈴鹿国際大学短期大学部）、第 11 回総会開催 ○12/10 「ハーモニー」第 30 号発行 ★3/15 学会誌第６巻第１号発刊	○ホットニュース「今後の教員免許制度の在り方について」 ●新役員（2003～2005 年度）の承認など ★学会誌表紙の紙質変更	＊学会設立 10 周年 ＊学校週５日制完全実施 ＊健康増進法公布 ＊小・中でツ反・BCG 接種廃止 ＊学校の危機管理マニュアル作成（文科省） ＊SARS を指定感染症に指定
2003	○6/1 「ハーモニー」第 31 号発行 ○9/1 「ハーモニー」第 32 号発行 ●10/11～12 第 11 回学術集会開催（於：徳島大学共通講義棟）、第 12 回総会開催 ・12/5 日本学校保健学会「学校保健用語集刊行委員会」への要望提出 ○12/10 「ハーモニー」第 33 号発行	○ホットニュース「医療的ケアをめぐる情勢」 ●*Yogo* teacher の英語説明文や学会の英文名「Japanese Association of Yogo teacher Education (JAYTE)」承認（学術集会補助費 150,000 円へ） ・養護教諭の英語表記について要望	＊独立行政法人日本スポーツ振興センター法公布

	★3/20 学会誌第7巻第1号発刊	★本学会の英語表記に関する検討の経緯について ★学会誌の英語表記の記載 “Journal of Japanese Association of Yogo Teacher Education”	
2004	○5/31 「ハーモニー」第34号発行 ○9/1 「ハーモニー」第35号発行 ・9/12 教育課程部会に対する意見提出 ●10/9～10 第12回学術集会開催（於：くまもと県民交流館パレア）、第13回総会開催 ○12/10 「ハーモニー」第36号発行 ★3/20 学会誌第8巻第1号発刊	○新企画「私の県のここが特色」連載開始、報告：高等学校設置基準に対する対応 ○報告：養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクトメンバー ●研究助成金増額（1件100,000円へ）、推薦委員4名選出、学術集会の長を学会長へ改正、名誉会員第1号として杉浦守邦氏を推戴など（学術集会補助費300,000円へ） ○9/12付け「意見提出」の報告	＊国立大学の法人化 ＊学校教育法の一部改正（栄養教諭制度の創設） ＊喘息をもつ児童生徒の健康管理マニュアル等（文科省）
2005	○5/31 「ハーモニー」第37号発行 ・8/1 学術著作権協会と契約 ○9/1 「ハーモニー」第38号発行 ●10/8～9 第13回学術集会開催（於：女子栄養大学坂戸校舎）、2005年度総会開催 ○12/10 「ハーモニー」第39号発行 ・1/10 「今後の教員養成・免許制度の在り方について（中間報告）」に対する意見提出 ★3/20 学会誌第9巻第1号発刊	○トピックス「養護教諭専修免許状の分野の表記」 ●実行委員長を「学会長」に改称。初の学会長基調講演実施 ●会計監査を監事に改正、第Ⅳ期（2006～2008年度）理事9名と監事2名選出、日本養護教諭教育学会倫理綱領制定など ★学会誌体裁を変更（B5判からA4判へ。表紙に養護教諭教育の理念であるYogo teacher education：practice, training, research を明記） ★文科省教職員課長寄稿	＊発達障害者支援法施行 ＊発達障害のある児童生徒への支援について（通知） ＊食育基本法施行 ＊登下校における幼児児童生徒の安全確保について（文科省） ＊鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザへの対応について（文科省）
2006	○6/14 「ハーモニー」第40号発行 ○9/1 「ハーモニー」第41号発行 ・9/25 日本学術会議「協力学術研究団体」指定 ●10/8～9 第14回学術集会開催（於：名古屋国際会議場）、2006年度総会開催	○新企画「私の実践と研究」リレー・レポート連載開始 ●特別講演の初の一般公開、託児の初の実施、ランチョンセミナーの初の実施 ●研究助成金対象研究の選定基準、推薦委員会規程の廃	＊「早寝・早起き・朝ごはん」推進運動 ＊「救急蘇生法の指針」にて市民によるAED提示 ＊結核予防法廃止（感染症予防法で規定）

	○12/15 「ハーモニー」第42号発行 ★3/26 学会誌第10巻第1号発刊 ・3/26 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」発行	止と選挙管理委員会規程の承認など ・30語を抽出。「定義」「解説」「英語表記」「キーワード」「類義語」について記述	
2007	○6/7 「ハーモニー」第43号発行 ○9/1 「ハーモニー」第44号発行 ●10/6～7 第15回学術集会開催（於：北翔大学・北方圏学術清報センター）、2007年度総会開催 ○12/17 「ハーモニー」第45号発行 ・12/20 中央教育審議会へのパブリックコメント提出 ★3/31 学会誌第11巻第1号発刊	●学術集会にて初のプレコングレス開催（2題） ●学会活動委員会の設置、養護教諭教育の説明を会則に明示、役員の選出に関する内規の制定、選挙管理委員4名（北海道・東北ブロックと関東ブロック）の選出など ★中央教育審議会「審議経過報告」への提出意見を掲載	＊大学生中心に成人麻しん流行 ＊養護教諭のための虐待防止の手引（文科省） ＊学校の危機管理マニュアル－子どもを犯罪から守るために－（文科省） ＊中教審答申「子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について（2008.1.17） ＊学習指導要領改訂（小・中）
2008	・「養護教諭の倫理綱領に関する規程の検討委員会」設置 ・6/17 郵便事業株式会社の「学術刊行物」に指定 ○6/18 「ハーモニー」第46号発行 ○9/8 「ハーモニー」第47号発行 ●10/18～19 第16回学術集会開催（於：岡山大学創立五十周年記念館）、2008年度総会開催 ○12/12 「ハーモニー」第48号発行 ★3/31 学会誌第12巻第1号発刊	○選挙有権者及び被選挙権者の名簿掲載 ●役員の選出に関する内規の改正、常任理事に関する内規、学術集会の開催に関する内規、理事選挙結果（6ブロック計8名、2009～2011年年度）の承認など	＊学習指導要領改訂（高・特） ＊学校保健安全法制定
2009	○6/12 「ハーモニー」第49号発行 ○9/10 「ハーモニー」第50号記念発行 ●10/10～11 第17回学術集会開催（於：弘前大学文京町キャンパス総合教育棟）、2009年度総会開催 ○12/25 「ハーモニー」第51号発行 ★3/31 学会誌第13巻第1号発刊	○名誉会員の杉浦守邦氏、初期の世話人だった方々寄稿 ●投稿奨励研究の選定方法等の承認など	＊学校保健安全法施行 ＊教員免許更新制度 ＊新型インフルエンザ流行
2010	○6/14 「ハーモニー」第52号発行 ・8/27 科学研究費補助金への意見提出 ○9/9 「ハーモニー」第53号発行 ●10/9～10 第18回学術集会開催（於：大阪府教育会館たかつガーデン）、2010年度総会開催 ・第18回学術集会より「投稿奨励研究」選定開始（2題） ○12/22 「ハーモニー」第54号発行 ★3/30 学会誌第14巻第1号発刊	○B5判からA4判へ。トピックス「教員養成6年制の検討について」 ●常任理事に関する内規の改正、投稿規程の改正、投稿奨励研究の選定方法等の改正、選挙管理委員4名（中部ブロックと近畿ブロック）の選出など ★学会活動報告「養護教諭の倫理綱領に関する検討」	＊子どもの心のケアのために－災害や事件・事故発生時を中心に－（文科省） ＊東日本大震災発生（2011.3.11） ＊中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（2011.3.31）

2011	○6/17 「ハーモニー」第55号発行 ・7/29 中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」の（審議経過報告）への意見提出 ○9/8 「ハーモニー」第56号発行 ★9/30 学会誌第15巻第1号発刊（学会誌年2回発刊実現） ●10/8～9 第19回学術集会開催（於：女子栄養大学坂戸キャンパス）、2011年度総会開催 ・「投稿奨励研究」2題選定 ○12/20 「ハーモニー」第57号発行 ★3/28 学会誌第15巻第2号発刊	○選挙有権者及び被選挙権者の名簿掲載 ★特集「東日本大震災から考える子どもの健康と養護教諭の役割」、座談会「東日本大震災を経験して考えたこと、見えてきたこと–養護教諭を目指す学生たちの声」掲載 ★「審議経過報告」への提出意見と「科学研究費補助金」への提出意見を掲載 ●プレコングレス「災害時に保健室、養護教諭はどのような役割を果たせるか」開催 ●名誉会員の推薦に関する内規の制定、理事選挙結果の報告と理事（2012～2014年度）9名の承認など ★プレコングレス報告	＊養護教諭制度70周年 ＊地上デジタル放送の完全移行
2012	・6/1 中央教育審議会の「教員の資質能力の総合的な向上方策について」（審議のまとめ）への意見提出 ○6/8 「ハーモニー」第58号発行 ○9/3 「ハーモニー」第59号発行 ★9/30 学会誌第16巻第1号発刊 ・10/1 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第二版＞」発行 ●10/6～7 第20回学術集会開催（於：ウインクあいち）、2012年度総会開催、学会設立20周年記念集会開催 ・「投稿奨励研究」2題選定 ○12/20 「ハーモニー」第60号発行 ・12/22 「学会設立20周年記念誌」発行 ★3/28 学会誌第16巻第2号発刊	○新企画「東日本大震災を経験して－被災地の今－」連載開始 ★中教審「審議のまとめ」への提出意見を掲載 ★文科省教職員課長寄稿 ・第一版を改訂し、「保健指導」「健康相談」も加えた32語掲載 ★故・天野敦子先生を悼んで ★学会設立20周年記念事業報告・会計報告	＊学会設立20周年 ＊中教審答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（2012.8.28） ＊教育再生実行会議・第一次提言（いじめ問題への対応、2013.2.26）
2013	○6/14 「ハーモニー」第61号発行 ○9/10 「ハーモニー」第62号発行 ★9/30 学会誌第17巻第1号発刊 ●10/12～13 第21回学術集会開催（於：シーサイドホテル舞子ビラ神	・「養護教諭の倫理綱領検討特別委員会」立ち上げ ○トピックス「男性養護教諭友の会を紹介します」 ●プレコングレス「今、改めて『養護教諭の倫理綱領』に	＊「生きる力」を育む小学校保健教育の手引きを作成（文科省） ＊教育再生実行会議・第二次提言（教育委員会制度、2013.4.15）

	戸)、2013 年度総会開催 ・「投稿奨励研究」2 題選定 ○12/20 「ハーモニー」第 63 号発行 ★3/25 学会誌第 17 巻第 2 号発刊	ついて考える－専門職としての資質向上を目指して－」開催 ●選挙管理委員 4 名（中国・四国ブロックと九州ブロック）の選出など	＊教育再生実行会議・第三次提言（これからの大学教育、2013.5.28） ＊教育再生実行会議・第四次提言（大学入学者選抜、2013.10.31）
2014	○6/10 「ハーモニー」第 64 号発行 ○9/10 「ハーモニー」第 65 号発行 ●10/11～12 第 22 回学術集会開催（於：千葉大学西千葉キャンパス）、2014 年度総会開催 ・「投稿奨励研究」2 題選定 ★11/1 学会誌第 18 巻第 1 号発刊 ○12/20 「ハーモニー」第 66 号発行 ★3/25 学会誌第 18 巻第 2 号発刊	○選挙有権者及び被選挙権者の名簿掲載 ●プレコングレス「『養護教諭の資質向上・力量形成』に係わる教育内容に関する検討」開催 ●理事選挙結果の報告と理事（2015～2017 年度）8 名の承認など ★教職大学院の設置に関するパブリックコメント掲載 ○「養護教諭の倫理綱領」の検討結果について報告	＊教育再生実行会議・第五次提言「今後の学制等の在り方について」（2014.7.3） ＊教育再生実行会議・第六次提言（全員参加型社会・地方創成、2015.3.4） ＊学校におけるがん教育のあり方について（報告）2015.3
2015	○6/10 「ハーモニー」第 67 号発行 ○9/10 「ハーモニー」第 68 号発行 ★9/30 学会誌第 19 巻第 1 号発刊 ●10/10～11 第 23 回学術集会開催（於：くまもと森都心プラザ）、2015 年度総会開催 ・「投稿奨励研究」1 題選定 ○12/20 「ハーモニー」第 69 号発行 ★3/28 学会誌第 19 巻第 2 号発刊	○新シリーズ「災害について考える」連載開始 ●プレコングレス「養護教諭の資質能力向上に関する教育内容の検討」開催 ●「養護教諭の倫理綱領（最終案）」承認、名誉会員として石原昌江氏と松本敬子氏を推戴 ★追悼文「故・杉浦守邦先生を悼んで」 ★「養護教諭の倫理綱領」掲載 ★「養護教諭関係団体連絡会」再結成（設立趣意書、会則掲載） ★学術担当企画 WS 報告（論文作成の課題）	＊教育再生実行会議・第七次提言「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について」（2015.5.14） ＊教育再生実行会議・第八次提言（教育投資・教育財源、2015.7.8） ＊三つの中教審答申発表（2015.12.21） ①これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～ ②新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について ③チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について
2016	○6/10「ハーモニー」第 70 号発行 ○9/10 「ハーモニー」第 71 号発行 ★9/30 学会誌第 20 巻第 1 号発刊 ●10/8～9 第 24 回学術集会開催（於：	○トピックス「中教審答申に基づく施策にむけた養護教諭関係団体連絡会の取り組み」 ・馳文科大臣に「子供の健康危機への対応を担う養護教諭の養成及び研修等の改善について（要望）」を手渡し ★学会活動報告（養護教諭の資質能力向上検討 WG） ●プレコングレス「『養護教諭	＊熊本地震発生（2016.4.14） ＊教育再生実行会議・第九次提言「全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ」（2016.5.20） ＊SDGs 推進本部の設置（2016.5.20）

	北翔大学)、2016 年度総会開催 ・「投稿奨励研究」1 題選定 ○12/20 「ハーモニー」第 72 号発行 ★3/28 学会誌第 20 巻第 2 号発刊	の倫理綱領』における養護実践基準を考える－専門性を生かした実践の検討を通して－」開催 ●名誉会員として堀内久美子氏と盛昭子氏を推戴、選挙管理委員 4 名（北海道・東北ブロックと関東ブロック）の選出など ★名誉会員・杉浦守邦氏を偲んで ★養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて	
2017	○6/10 「ハーモニー」第 73 号発行 ○9/10 「ハーモニー」第 74 号発行 ★9/30 学会誌第 21 巻第 1 号発刊 ●10/7～8 第 25 回学術集会開催（於：金沢大学・角間キャンパス自然科学本館 1 階)、2017 年度総会開催 ・「投稿奨励研究」2 題選定 ○12/20 「ハーモニー」第 75 号発行 ★3/30 学会誌第 21 巻第 2 号発刊	○選挙有権者及び被選挙権者の名簿掲載 ★文科省教職員課長寄稿 ●プレコングレス「教育改革の中で、改めて養護教諭のこれからを考える」開催、「養護実践基準」の検討結果報告など ●理事選挙結果の報告と理事（2018～2020 年度）9 名の承認など ★養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて	＊教育再生実行会議・第十次提言（学校・家庭・地域の教育力向上、2017.6.1） ＊現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」発行（文科省） ＊学習指導要領の改訂（幼・小・中）
2018	○6/8 「ハーモニー」第 76 号発行 ○8/31 「ハーモニー」第 77 号発行 ★9/30 学会誌第 22 巻第 1 号発刊 ●9/29～30 第 26 回学術集会開催（於：関西福祉大学)、台風のため 2 日目中止 ・一般演題は誌上発表に ●12/24 2018 年度総会と学会助成金研究発表を名古屋で開催 ○11/30 「ハーモニー」第 78 号発行 ★3/30 学会誌第 22 巻第 2 号発刊 ・3/31「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」発行	○「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」の検討について（報告） ●プレコングレス「改めて養護教諭の倫理綱領を学び合う」開催 ●法人化にむけた会則及び会則実施細則の改正案を承認 ○特別企画「新・私の実践と研究」連載開始 ★養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて ・第二版を改訂し、「養護教諭の倫理綱領」「チーム学校」「保健教育」を加えた 35 語掲載	＊学習指導要領の改訂（高） ＊「学校における医療的ケアの今後の対応について」（通知）公表（文科省）2019.3.20
2019	○6/10 「ハーモニー」第 79 号発行 ○9/10 「ハーモニー」第 80 号発行 ★9/30 学会誌第 23 巻第 1 号発刊 ●10/12～13 第 27 回学術集会（於：横浜ランドマークタワー等)、台風のため両日とも中止 ・一般演題は誌上発表	○特別企画「会員交流」連載開始 ★文科省健康教育・食育課健康教育調査官寄稿 ●プレコングレス「養護実践基準について語り合う」は中止	＊教育職員免許法施行規則の一部改正（2019.4.1 施行.）科目区分の統合（養護及び教職に関する科目へ） ＊天皇陛下ご即位（年号：5 月 1 日より令和） ＊教育再生実行会議・第十一次提言（技術の進展と高等学校

	●12/21 第27回ミニ学術集会（於：横浜ランドマークタワー25階）、2019年度総会（委任状確認不足にて不成立、延期） ○1/31 「ハーモニー」第81号発行 ●2/24 2019年度臨時総会（於：名古屋市国際センター5階第1会議室）開催 ★3/31 学会誌第23巻第2号発刊	●総会は意見集約の場として実施 ●一般社団法人化にむけた定款案、年会費値上げ（5,000円から7,000円）、会計年度の変更（10月1日～9月30日）、査読料及び超過頁掲載料の変更、会計年度の変更に伴う総会開催時期の変更などの承認、選挙管理委員4名（中部ブロックと近畿ブロック）の選出など ★養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて	改革、2019.5.17） ＊「学校教育の情報化の推進に関する法律」の公布・施行（2019.6.28） ＊GIGAスクール実現推進本部の設置（2019.12.19）
2020 (法人化前にて事業期間を9月末まで延長)	○6/30 「ハーモニー」第82号発行 ○9/10 「ハーモニー」第83号発行 ★9/30 学会誌第24巻第1号発刊 ●10/10～11 第28回学術集会（Webによるオンライン開催）（於：九州看護福祉大学）、2020年度総会開催 ・11/6 一般社団法人養護教諭教育学会成立 ・法人化後初の代議員選挙と理事候補者選挙の実施 ○12/20 「ハーモニー」第84号発行 ★3/31 学会誌第24巻第2号発刊 ○6/20「ハーモニー」第85号発行 ★9/30 学会誌第25巻第1号発刊	○WEBによるオンライン学術集会の初開催報告 ○選挙有権者及び被選挙権者の名簿掲載 ●課題別セッション：理事会企画「新型コロナウイルス感染症対応の中で養護教諭として何を大切にしたか」開催 ●定款に基づく規程等の改正、法人化に伴う役員任期の延長（2020年度の事業期間は2020.4.1～2021.9.30とし、2021年度は10.1からとする。現役員の任期は法人化後の総会で新役員が選出されるまで半年間延長する）、広報委員会の新設などの承認 ○選挙管理委員会委員長「代議員選挙等の実施について」報告 ★養護実践基準の検討（2020年度報告） ★「ハーモニー」特別企画の変遷	＊新型コロナウイルスの国内感染確認（2020.1.15） ＊7都府県の緊急事態宣言（2020.4.7） ＊「新型インフルエンザ等対策特別措置法等の一部を改正する法律」の公布（2021．2.3公布） ＊新型コロナウイルス感染症対策のための小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について（通知）2020.3.28 ＊（公財）日本学校保健会「学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－、令和2年度改訂」発行
2021 (法人化による新たな事業年度開始)	・2021年度より事業年度は10.1～翌年9.30までに変更 ・10月より学会事務局移転（東京、（株）国際文献社に委託） ○10/20 「ハーモニー」第86号発行 ●11/14 第1回（2022年度）定時総会（代議員総会）開催 ●11/27～28 第29回学術集会（WEB	●理事の選出、理事長の選出、監事の承認	＊養護教諭制度80周年 ＊中教審答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（2021.1.26）

	による$\boxed{\text{オンライン開催}}$）（於：徳島文理大学） ・「投稿奨励研究」２題選定 ○2/10 「ハーモニー」第 87 号発行 ★3/31 学会誌第 25 巻第２号発刊 ○6/15 「ハーモニー」第 88 号発行 ★9/30 学会誌第 26 巻第１号発刊	 ○トピックス「教育未来創造会議の設置について」 ★「養護に関する研修会」の事後アンケート結果 ○学術集会のハイブリッドによる初開催の案内、学会設立 30 周年記念事業の企画 ★第１回定時総会記録、理事会議事録掲載	＊新型コロナウイルスワクチン接種開始（2021.2.17） ＊教育再生実行会議・第十二次提言「ポストコロナ期における新たな学びの在り方について」（2021.6.3」 ＊「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」公布、同日施行（2021.8.23）（医療的ケア看護職員等の配置） ＊「教育未来創造会議」第一次提言（2022.5.10） ＊教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律等の施行について（通知）2022.6.21 教員免許更新制の廃止など
2022	○11/8 「ハーモニー」第 89 号発行 ●12/2 第２回（2022 年度）定時総会（代議員総会）開催 ●12/3～4 第 30 回学術集会（$\boxed{\text{ハイブリッド開催}}$）（於：札幌市教育文化会館） ・「投稿奨励研究」２題選定 ○2/20 「ハーモニー」第 90 号発行 ★3 月末 学会誌第 26 巻第 2 号発刊予定 ・3 月末「学会設立 30 周年記念誌」発行予定、30 周年記念クリアファイル配付予定 【2022 年度事業は 2023.9.30 まで続く】	 ●理事及び理事長の再任、名誉会員として大谷尚子氏を推戴 ●学会設立 30 周年記念集会開催 ○トピックス「子ども基本法の施行について」	$\boxed{\text{＊学会設立 30 周年}}$ ＊デジタルテキスト「生徒指導提要（改訂版）」の公表（2022.12 文科省） ＊養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議の「議論の取りまとめ」公表（2023.1.17 文科省） ＊こども教育基本法施行（2023.4.1） ＊こども家庭庁設置法施行（2023.4.1） ＊学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル Ver.9（2023.4.1）

Ⅳ　学会の事業

１．学術的な活動

１．学術的な活動

１）学術集会のあゆみ

＜20 周年記念誌発行以降の取り組み＞

① 第 21 回学術集会（2013 年 10 月 12 日～13 日）

北口和美学会長（近大姫路大学）のもと、シーサイドホテル舞子ビラ神戸にて開催された。明石海峡大橋を望む瀟洒なリゾートホテルでの滞在型の学術集会であったが、倫理綱領について考えるプレコングレスには 106 名の参加があり、開会前から盛り上がりをみせた。メインシンポジウムの他に 3 つのミニシンポジウムが企画され、新聞記者をはじめとする多様な立場のシンポジストの発言が新鮮であった。また、教育講演「非配偶者間人工授精で生まれた子どものサポート」での実体験を交えた話は、子どもの命・人権・教育にかかわる養護教諭として深く考えさせられるものであった。

② 第 22 回学術集会（2014 年 10 月 11 日～12 日）

岡田加奈子学会長（千葉大学）のもと、千葉大学西千葉キャンパスにて開催された。メインテーマ「グローバル化時代を迎えた今－新たなる養護実践の創造－」をふまえ、2 つのシンポジウムがあり、さらに韓国から 2 名の保健教師（スクールナース）を招いた日韓シンポジウムが企画された。その他、ラウンドテーブル、学生交流会、特別プログラム（映画『隣る人』＋対談）、ワークショップ、自由集会と盛り沢山な企画で参加者も多く盛会であった。

③ 第 23 回学術集会（2015 年 10 月 10 日～11 日）

松田芳子学会長（熊本大学）のもと、熊本駅前のくまもと森都心プラザにて開催された。九州での学術集会は 11 年ぶりであった。メインテーマに沿ったシンポジウム「学び続ける養護教諭であるために～養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める～」は、参加者から共感の声が多く寄せられた。2 日目のワークショップの一つとして学術担当理事による「論文、実践研究の書き方、まとめ方」が行われ好評であった。かねてから検討が行われていた「養護教諭の倫理綱領（案）」が総会で承認され、ついに養護教諭の倫理綱領が誕生したことに「感無量」との声が聞かれた。

④ 第 24 回学術集会（2016 年 10 月 8 日～9 日）

今野洋子学会長（北翔大学）のもと、北海道江別市の北翔大学にて開催された。メインテーマ「子どもの未来を拓く養護教諭の力－チーム学校への挑戦－」に基づき、パネルディスカッションでは SC や SSW、養護教諭経験のある管理職が登壇し、養護教諭の他職種との連携について活発な協議が行われた。懇親会では、はずれ無しビンゴの賞品として北海道の名産品が振る舞われ、大いに盛り上がった。2 日目の総会では、石原昌江会員と松本敬子会員が名誉会員として承認された。午後のセミナーでは前年に引き続き、学術担当理事による「養護教諭の日常から生じた課題に研究的にどう取り組むか」の企画も行われた。

⑤ 第 25 回学術集会（2017 年 10 月 7 日～8 日）

河田史宝学会長（金沢大学）のもと、金沢大学角間キャンパスにて開催された。北陸地方では初めての開催であった。交通の便を考慮し、会場と市中心部を結ぶ臨時直通バスが手配され、バス内が熱気にあふれていたのが印象的であった。学会長基調講演からシンポジウムへとメインテーマ「養護教諭のキャリア形成を考える－学び続ける教員像の実現に向けて－」がつながり、養護教諭のキャリア形成について協議を深めることができた。また、特別講演として異業種の経営者が紹介するユニークな発想によるマネジメント術は、新鮮な刺激を与えるものであった。2 日目の総会では、堀内久美子会員と盛昭子会員が名誉会員として承認された。

⑥ 第 26 回学術集会（2018 年 9 月 29 日～30 日：2 日目は台風のため中止）

津島ひろ江学会長（関西福祉大学大学院）のもと兵庫県赤穂市の関西福祉大学にて開催された。「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」をメインテーマに、子どもたちが抱える課題解決のために多職種との連携・

協働、養護教諭のコーディネーション能力が大切であるという津島学会長の思いが伝わるプログラムであった。学会活動報告として、用語の解説集＜第三版＞および養護実践基準の検討に関する報告も行った。台風の直撃により2日目の予定は中止となり、一般演題が誌上発表となったのは残念であったが、後日、教育講演・ランチョンセミナーは関西福祉大学を会場とした他行事の折に、総会・助成金研究発表は名古屋の会場を借りて実施した。

⑦ 第27回学術集会（2019年10月12日～13日：台風のため中止／2019年12月21日ミニ学術集会）

鈴木裕子学会長（国士舘大学）のもと、横浜市みなとみらい地区にて開催予定であったが、台風の接近により前日にすべてのプログラム中止を決定した。同年12月に横浜ランドマークタワーにてミニ学術集会を開催し、学会長講演とシンポジウムの時間を短縮して実施、助成金研究発表と「養護実践基準」検討の中間報告を行った。変則的な形ながら実施できたのは幸いであったが、今後の学術集会開催に向けて不測の事態の危機管理に課題が残された。シンポジウムでは多くの意見が出されたものの、短縮プログラムでメインテーマ「みらいにつなぐ養護教諭のアイデンティティー新時代の学校教育にいきる実践理論の創造ー」に迫るには十分とは言えなかった。

⑧ 第28回学術集会（2020年10月10日～11日：オンライン開催）

古賀由紀子学会長（九州看護福祉大学）のもと、「学校保健活動推進の中核的役割を担う養護教諭の力量形成ー養成、採用、研修を通してー」をメインテーマとし、初めてのWebによるオンライン開催として行われた。従来と同様の企画に加え、開催地企画「熊本地震の経験とその後」などもあり充実した内容であった。また、理事会企画として「新型コロナウイルス感染症対応の中で養護教諭として何を大切にしたか」を課題別セッションの一つとして行った。シンポジウム等では参集型とは異なるオンラインでの協議の難しさはあったが、遠方の参加者からはオンラインの方が参加しやすく良かったとの声もあり、今後につながる成果もみられた。

⑨ 第29回学術集会（2021年11月27日～28日：オンライン開催）

一般社団法人となって最初の記念すべき学術集会は、貴志知恵子学会長（徳島文理大学）のもと、「子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う」をメインテーマにWebによるオンラインで開催された。オンラインへの参加のしやすさもあって参加者は多く、全国各地から幅広い世代の参加がみられた。シンポジウムや課題別分科会ではオンライン会議システムの機能を生かしたグループ協議など新しい試みが取り入れられ、大変好評であった。一定の操作スキルや慣れが必要ではあるものの、主体的な学会参加につながる可能性を広げるものであった。

⑩ 第30回学術集会（2022年12月3日～4日：ハイブリッド開催）

山崎隆恵学会長（北海道教育大学）のもと、札幌市教育文化会館を会場にハイブリッド形式で開催された。養護教諭の職制制定から80年が経過し、学会設立から30年というタイミングでの新形式（現地参集とオンライン参加の併用）による開催は、新時代の幕開けとして記念すべき学術集会となった。プログラムは特別講演、記念展示など学会設立30周年記念行事と併せて企画されたが、感染症の状況から情報交換会・30周年記念祝賀会が中止となり、代わりに30分ほどの交流会が行われた。メインテーマ「職制80年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する」を受けて行われたシンポジウムの事後アンケートには、養護実践の可視化についてたくさんの感想・意見が寄せられた。

＜学術集会の30年のあゆみ＞

表2は、「学会設立20周年記念誌」に掲載されている第20回までの一覧に第30回までの10年分を加えたものである。

第1回～第5回まではひとつの会場で発表が行われていたが、研究会から学会へと名称が変更され、学術集会として開催されるようになった第6回～第8回は2会場同時進行で発表が行われ、演題数も増えた。さらに第10回・第11回、そして第13回以降は発表会場が3つとなった。ポスター発表が行われるようになったのは第13回

からであり、このときは口演発表会場の後方に2枚のポスターが掲示されてセッションが行われた。現在のようにほぼ3会場での口演発表と、別室でのポスター発表が行われる形式が定着したのは第14回からである。

図1は、表の右欄の第1回研究大会から第30回学術集会までの一般演題発表の演題数を示している。

演題数は、その年次推移を単純に比較して一定の傾向として判断することは難しい。たとえば学術集会の日程や開催地、会場や時間設定の都合などさまざまな条件に影響されるほか、学会長等が院生や卒業生等に発表を積極的に働きかけた場合とそうでない場合があると考えられる。またポスター発表は、会場の制約があり数を増やすことができない場合や、この度のコロナ禍によるオンライン開催のように設定が困難な場合もある（第28回と第29回は実施していない）。

とはいえ、7題の研究発表から始まった一般演題発表が、この30年間、途切れることなく継続され、養護教諭教育に関する研究の発展に寄与してきたことは誰しも首肯するであろう。今後も、養護教諭の資質や力量の形成・向上につながるような研究発表の増加と質の向上に期待するとともに、それが学会誌掲載論文につながるよう支援していきたい。さらに20周年を機に提示している演題の区分が養護教諭の学問領域に位置づくような検討も引き続き必要である。

表2　学術集会の一覧

※1：名称は、第1回～第4回は「全国養護教諭教育研究会研究大会」、第5回は「日本養護教諭教育学会研究大会」、第6回～第28回は「日本養護教諭教育学会学術集会」、第29回以降は「一般社団法人日本養護教諭教育学会学術集会」

※2：第1回～第12回までは実行委員長、第13回より学会長

名称 ※1	開催日	会場	実行委員長・学会長 ※2	メインテーマ	学術集会の内容・企画	メインシンポジウム等のテーマ	発表数		
							学会共同研究・助成金研究	一般演題	
								口演	ポスター
第1回 研究大会	1993/1/27	横浜国立大学教育学部附属養護学校	堀内久美子（愛知教育大学）		シンポジウム/研究発表/総会	養護実習について－学生の力量形成にむけて－		7	
第2回	1994/11/27	アウィーナ大阪なにわ会館	石原昌江（岡山大学）		シンポジウム/研究発表/総会	養護実習	1	9	
第3回	1995/11/27	千葉大学	小林列子（千葉大学）		パネルディスカッション/研究発表/総会	力量形成にむけて－養護実習の目標はどのようにたてられているか	1	5	
第4回	1996/11/25	奥羽大学	盛　昭子（弘前大学）		パネルディスカッション/研究発表/総会	今求められている養護教諭の力量とは－時代の要請に応えうる養護教諭の育成のために－	2	4	
第5回	1997/11/8	愛知教育大学	天野敦子（愛知教育大学）		パネルディスカッション/研究発表/総会	養護教諭の研究能力とは－よりよい養護活動をめざして－	1	4	
第6回 学術集会	1998/10/24-25	茨城大学	大谷尚子（茨城大学）	「子ども達へのふだんの対応を大切にした養護教諭」として育つ／育てる	シンポジウム/ワークショップ1・2/自由研究発表/課題研究発表/総会	「子ども達へのふだんの対応を大切にした養護教諭」として育つ／育てる	2	10	
第7回	1999/9/5	岡山国際交流センター	中桐佐智子（吉備国際大学）	養護教諭とカウンセリング	シンポジウム/特別講演/一般演題/学会共同研究/総会	養護教諭の行う健康相談	6	18	
第8回	2000/9/9	アウィーナ大阪	松嶋紀子（大阪教育大学）	21世紀の養護教諭像を求めて	基調講演/特別講演/シンポジウム/一般演題/学会共同研究/総会	養護学の確立をめざして	2	16	
第9回	2001/10/6-7	湘南国際村センター	竹田由美子（神奈川県立衛生短期大学）	21世紀の養護活動と求められる能力	シンポジウム/特別講演/一般演題/学会共同研究/総会/懇親会	21世紀の学校教育に果たす養護教諭の役割－今、あらためて養護教諭の固有性を探る－	2	12	

第10回	2002/10/5-6	鈴鹿国際大学短期大学部	小林壽子(鈴鹿国際大学短期大学部)	職制60年を経た今、日本の養護教諭の固有性を追究する	シンポジウム/特別講演/ワークショップ/英訳ワーキング報告/一般口演/学会共同研究/総会/懇親会	職制60年を経た今、日本の養護教諭の固有性を追究する	1	25	
第11回	2003/10/11-12	徳島大学	中安紀美子（徳島大学）	子どもの発達支援の立場から養護教諭の教育実践を考える	基調講演/特別講演/シンポジウム/英語説明文の検討報告/一般演題/学会共同研究/ワークショップ1-3/総会/総会/懇親会	子どもの発達支援と養護教諭の役割	1	32	
第12回	2004/10/9-10	くまもと県民交流館パレア	松本敬子（九州看護福祉大学）	専門性を追究し発信する養護教諭を目指して	シンポジウム/特別講演Ⅰ・Ⅱ/一般演題/学会共同研究/総会/懇親会	養護教諭の専門性の新たな追究と発信	1	20	
第13回	2005/10/8-9	女子栄養大学坂戸校舎	鎌田尚子（女子栄養大学）	エビデンスに基づいた養護教諭の「職」を究め、養護学の確立を目指す	学会長講演/特別講演/シンポジウム/用語の検討プロジェクト（中間報告）/一般口演・ポスター/学会共同研究/総会/懇親会	科学的な根拠に基づく養護実践とは何かーあなたの実践の養護学につなげるためにー	1	19	2
第14回	2006/10/8-9	名古屋国際会議場	後藤ひとみ（愛知教育大学）	養護教育学の構築を目指し、養護教諭の実践を支える“理論”と“研究”を究める	基調講演/特別講演/シンポジウム/用語の検討プロジェクト（最終報告）/ワークショップ1-3/一般口演・ポスター/ランチョンセミナー/総会/懇親会	養護教諭の実践を支える"理論"と研究を究めるー健康教育にみる専門性の検証ー	1	20	5
第15回	2007/10/6-7	北翔大学北方圏学術情報センター	津村直子（北海道教育大学）	養護教諭が養護教諭であるために	シンポジウム//教育講演/特別講演/ワークショップ1-3/一般演題・ポスター/ランチョンセミナー/総会/懇親会/プレコングレス	「養護教諭であること」の探究ー専門性を生かすという視点から養護教諭のこれからを問うー	2	23	12
第16回	2008/10/18-19	岡山大学	高橋香代（岡山大学）	養護実践における理論構築ー「からだをみる」を科学するー	基調講演/特別講演/シンポジウムⅠ・Ⅱ/口演・ポスター/ワークショップ1-3/ランチョンセミナー/総会/懇親会/プレコングレス	Ⅰ．養護教諭がからだをみる視点 Ⅱ．養護教諭がコーディネート力を育てるには	2	34	9
第17回	2009/10/10-11	弘前大学	面澤和子（弘前大学）	養護教諭の実践を問い直す ー教育改革の中でー	基調講演/教育講演/特別講演/シンポジウム/ミニシンポジウム1・2/テーブルセッション1・2/学会活動委員会報告/口演・ポスター/ランチョンセミナー/総会/懇親会/プレコングレス	養護教諭の実践をふりかえって ー見えてくるものー	—	30	19
第18回	2010/10/9-10	大阪府教育会館たかつガーデン	楠本久美子（四天王寺大学）	今、改めて養護教諭の教育を問う	基調講演/教育講演/特別講演/シンポジウム/ミニシンポジウム/口演・口演示説/ワークショップ1・2/ランチョンセミナー/総会/懇親会/プレコングレス	今、求められる養護教諭の教育	2	30	16
第19回	2011/10/8-9	女子栄養大学坂戸キャンパス	三木とみ子（女子栄養大学）	今こそ『養護学』に立脚した養護教諭の職の発展を ー実践を軸に養成カリキュラムを問うー	リレーシンポジウム（学会長講演・リレー意見発表・協議ディスカッション）/特別講演/一般口演・ポスター発表/ワークショップ1-7/学会活動報告/ランチョンセミナー/全国学生ランチョン交流/総会/プレコングレス	養護教諭の質をどう担保するかー「養成」「採用時」「現職研修」でどのように担保するか、学会への期待、学会の果たすべき役割とはー	2	23	18
第20回学術集会(学会設立20周年記念集会)	2012/10/6-7	愛知県産業労働センター「ウインクあいち」	林　典子（東海学園大学）	職制70年を経た今、子どもの健やかな成長を支える養護教諭の“力量”を究める	基調講演/特別講演/シンポジウム/ミニシンポジウム/口演・ポスター発表/ワークショップ1-4/ランチョンセミナー1・2/総会/20周年記念式典/常設展示/20周年祝賀会・懇親会	養護教諭の資質向上・力量形成のために今すべきこと	2	26	17
第21回	2013/10/12-13	シーサイドホテル舞子ビラ神戸	北口和美（近大姫路大学・前大阪教育大学）	養護教諭の職の深化を究める	学会長講演/シンポジウム/ミニシンポジウムⅠ～Ⅲ/教育講演/一般口演・ポスター発表/学会助成金研究発表/ランチョンセミナー/懇親会/総会/プレコングレス	養護教諭の職の深化を究める―養護教諭の過去・現在・未来―	1	25	20

第22回	2014/10/11-12	千葉大学 西千葉キャンパス	岡田加奈子 （千葉大学）	グローバル化時代を迎えた今―新たなる養護実践の創造―	学会長講演/シンポジウムⅠ・Ⅱ/日韓シンポジウム/養護教諭の倫理綱領検討特別委員会報告/教育講演/口演・ポスター/助成金研究発表/ラウンドテーブル/ランチョンセミナー/自由集会1・2/ワークショップ1-4/特別プログラム<映画+対談>/懇親会/総会/プレコングレス	Ⅰ.グローバル化時代の今、どう見立てるか、どう創造するか―他職種の価値観をふまえ、連携・協働する学校へ― Ⅱ.養護教諭に求められる力―養護教諭の養成と研修の未来―	1	26	26
第23回	2015/10/10-11	くまもと森都心プラザ	松田芳子 (熊本大学)	学び続ける養護教諭であるために－養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める－	学会長基調講演/特別講演/教育講演/シンポジウム/助成金研究発表/ランチョンセミナー/学会活動委員会から/口演・ポスター発表/ワークショップⅠ～Ⅲ/総会/懇親会/プレコングレス	学び続ける養護教諭であるために－養成・行政・学校現場をつなぎ、広げ、深める－	1	19	15
第24回	2016/10/8-9	北翔大学	今野 洋子 （北翔大学）	子どもの未来を拓く養護教諭の力―チーム学校への挑戦―	学会長基調講演/特別講演/パネルディスカッション/一般口演・ポスター発表/セミナー①～③/ランチョンセミナー/総会/懇親会/プレコングレス	子どもの未来を拓く養護教諭の力 ―チーム学校への挑戦―	—	17	20
第25回	2017/10/7-8	金沢大学角間キャンパス	河田史宝 （金沢大学）	養護教諭のキャリア形成を考える―学び続ける教員像の実現にむけて―	学会長基調講演/特別講演/シンポジウム/学会助成金研究発表/一般口演・ポスター発表/学会報告/ワークショップA～D/ランチョンセミナー/総会/懇親会/プレコングレス	養護教諭のキャリア形成を考える―学び続ける教員像の実現にむけて―	1	23	22
第26回	2018/9/29-30 (2日目中止)	関西福祉大学	津島ひろ江 （関西福祉大学）	連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究	学会長基調講演/シンポジウム/特別講演/学会活動報告/懇親会/プレコングレス <誌上発表> 一般演題口演・ポスター発表（その他は中止）	連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究	誌上発表 1	25	誌上発表 22
第27回	2019/10/12-13 (両日中止) ミニ学術集会 2019/12/21	TKPガーデンシティ PREMIUM 横浜ランドマークタワー	鈴木裕子 （国士舘大学）	みらいにつなぐ養護教諭のアイデンティティ―新時代の学校教育にいきる実践理論の創造―	学会長講演/ミニシンポジウム/学会助成金研究発表/学会事業報告 <誌上発表> 一般演題口演・ポスター発表（その他は中止）	新時代につながる養護教諭の実践とアイデンティティを検証する	1	誌上発表 17	誌上発表 18
第28回	2020/10/10-11	九州看護福祉大学（オンライン）	古賀由紀子 （九州看護福祉大学）	学校保健活動推進の中核的役割を担う養護教諭の力量形成―養成、採用、研修を通して―	学会長講演/シンポジウム/特別講演/開催地企画/一般演題口演発表/学会助成金研究発表/オンラインセミナー/学会事業報告/総会/課題別セッション1～4	学校保健活動推進における養護教諭の中核的役割を検証する	1	22	—
第29回	2021/11/27-28	徳島文理大学（オンライン）	貴志知恵子 （徳島文理大学）	子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う	学会長講演/シンポジウム/特別講演/教育講演/一般演題口演発表/学会助成金研究発表/総会報告/課題別分科会1～3	子どもの主体性・探究心を育てる養護実践のあり方を問う	1	23	—
第30回 学術集会 (学会設立30周年記念集会)	2022/12/3-4	札幌市教育文化会館(ハイブリッド)	山崎隆恵 （北海道教育大学）	職制80年を経た今、養護教諭の実践の可視化について探究する	学会長基調講演/シンポジウム/特別講演/一般口演・ポスター発表/学会助成金研究発表/ランチョンセミナー/交流会/ワークショップ①～③/総会報告/30周年記念展示・3分スピーチ	養護教諭の実践の可視化について探究する	1	21	7

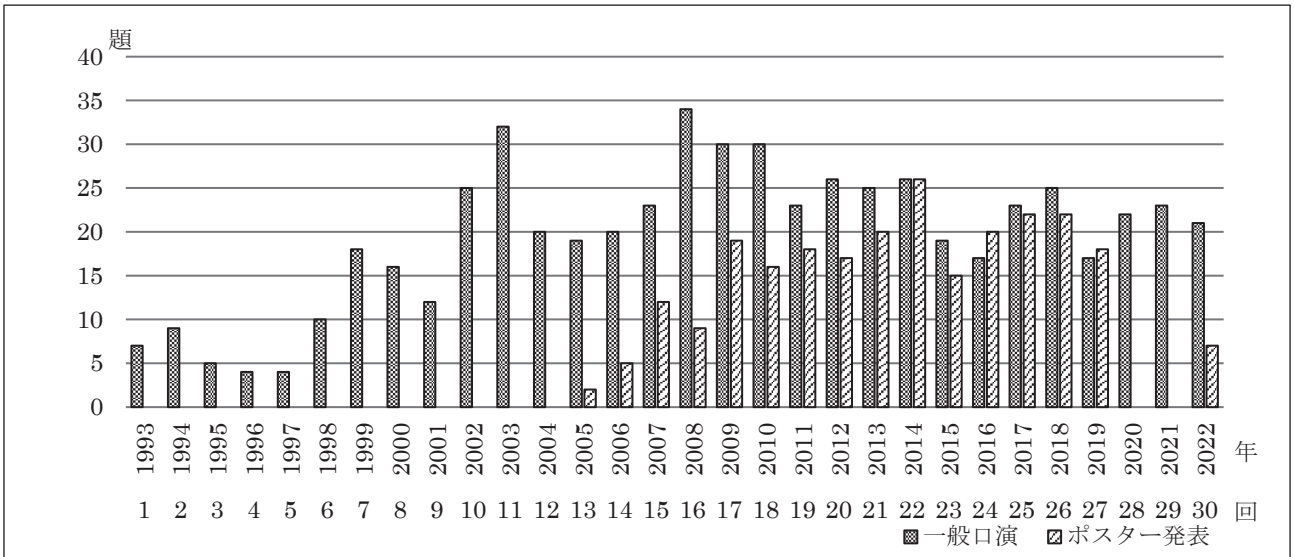


図1　第1回～第30回学術集会における一般演題発表の動向

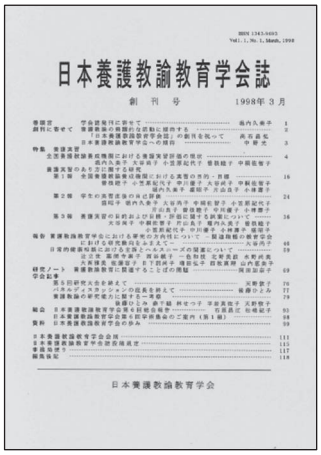
2）学会誌のあゆみ

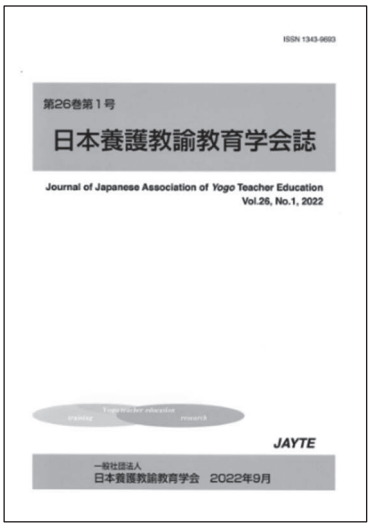
① 掲載論文等の推移

創刊号から第16巻第1号（2012年9月発刊）までの内容は、すでに「20周年記念誌」に掲載したものである。本稿では、それに第26巻2号（2023年3月発刊）までを加えて表3に示した。

掲載論文数の推移を見ると、編集委員会から依頼した特集論文を除いて、掲載された論文は第16巻第1号までは計120件、1号あたりの平均は約7.1件であり、第16巻第2号から第26巻第2号までは計78件、1号あたりの平均は約3.7件である。

第15巻以降は年2回発刊になったため、各号の掲載数は減少しているように見えるが、2号分を合わせると年間の掲載論文数は増加している。その一方で、原著論文は減少している。これは、実践報告を希望する投稿が増えていることが要因の一つと思われる。実際に、実践報告数は増加しているので、今後は原著になるような理論と実践の融合による実践研究の論文化について支援していく必要がある。





② 第9巻第1号（2006年3月）から現在まで

この巻・号からB5判をA4判に変更し、表紙デザインもピンク一色からピンク色を基調に養護教諭の「養護実

践」・「養成教育」・「現職研修」にかかわる研究等の実現をめざして、practice、training、research が重なり合って養護教諭教育（*Yogo* teacher education）を構成するというテーマ性のある図を加えたものに変わった。

本文は二段組みに変更し、文字ポイントを大きくするなどしてユニバーサルデザインのうちのわかりやすさにつながるよう工夫した。しかしながら、煩雑な図や文字量の多い表の提出などがあり、見やすさ・わかりやすさについては原稿のページ数超過とも合せて改善すべき課題である。

③ 第 15 巻から実施している年 2 回の発刊

第 15 巻から年 2 回発刊の体制をとり、現在も続けている。どちらの号も、会員によって投稿された論文掲載が中心であるが、第 2 号（3 月発刊）は前年の秋以降に行った総会や学術集会の報告を掲載する必要があるため、先に発行される第 1 号（9 月発刊）には特集企画を掲載して、それぞれの特色づけを行ってきた。

ⅰ．巻頭言について

巻頭言は、本学会創立 20 周年以前は常に掲載されていたわけではなく、その時々の必要に応じる形で 20 年間に 4 回のみの掲載であった。第 16 巻第 1 号以降は第 18 巻第 1 号を除いて掲載されており、執筆は大半は会員だが、時に会員外の方にもお願いしている。養護教諭の職務への期待、養護教諭としての存在、養護学構築への提言などを示していただき、養護教諭教育について考える足掛かりとなっている。

ⅱ．特集について

第 17 巻第 1 号以降、その時の教育行政の話題から「養護教諭の教職課程認定」や「教師力・実践力」などをテーマにしたり、「学習指導要領の改訂」に合わせたテーマにしたりしてきた。その一方で、「生涯にわたる健康の保持増進にかかわる養護実践」、「感染症から子どもを守る養護実践」なども取り上げてきた。

連携に関しては、第 7 巻第 1 号で取り上げているが、年を重ねて連携の必要性はより大きくなり、2015（平成 27）年に「チーム学校」という考えも示されたことから、第 26 巻第 1 号では「他職種連携から多職種連携へ」をテーマとした。今後も、会員外の学識経験者への原稿依頼を積極的に行い、その時々の教育課題に注目した情報提供と議論のきっかけになるような企画を進めていきたい。

④ 編集委員会の体制と編集に関する課題

歴代の編集委員長が進めてきた第 1 号・第 2 号を担当する 2 つの小委員会体制を参考にして、現在は、編集委員を小委員会の長として小委員長の近隣に居住する編集委員以外の方に依頼する 2 班体制を整えた。これにより、編集委員の数は減っているが、校正作業の強化が図られたと言える。

また、特集・巻頭言担当を置き、機関紙「ハーモニー」担当は複数とし、どの担当も早い時期から企画・運営を行うこととした。2020 年に本格化した新型コロナウイルス感染症の流行があり、編集委員会も小委員会も直接集まることができなくなってしまった。現在もオンラインでの会議は続いており、直接対面の会議で得られていた「議論の合間に得られた研究への取組の姿勢やヒント」、「それらを通して委員の人となりを知って心が豊かになること」などが遠隔では得にくいと感じている。

編集全体に関しては、投稿論文は増加している一方で、推敲が不十分なもの、図がカラー印刷で投稿されるもの、図表が大きく・数が多いなどで規定のページ数を超えてしまうものがあり、結果として長い投稿論文が多く見られている。研究の目的を意識して、伝えたいことをまとめることや論旨の一貫性があるかなどに注意すれば、今よりコンパクトな論文になり、査読の時間も短縮されると考える。また、自分の過去の論文を一部ではあるが流用しているものもあり、研究倫理に立ち返る必要がある投稿も散見される。

加えて、「学会設立 20 周年記念誌」でも指摘されている「本学会の基盤に関わる養護教諭の原理や制度に関するテーマが少ない」という現状は続いている。この現状を改善できるような、充実した企画も含め養護教諭教育の発

展につながる学会誌を目指す必要がある。

表３　日本養護教諭教育学会誌特集および掲載論文の変遷

巻・号	発刊日	特集テーマ・その他の企画	掲載論文数
第１巻第１号	1998 年３月	巻頭言（堀内久美子理事長） 創刊に寄せて（高石昌弘・中野光） 特集「養護実習」 ・全国養護教諭養成機関における養護実習評価の現状 ・養護実習のあり方に関する研究（第１報）全国養護教諭養成機関における実習の目的・目標 ・養護実習のあり方に関する研究（第２報）学生の実習直後の自己評価 ・養護実習のあり方に関する研究（第３報）養護実習の目的および目標・評価に関する試案について 資料「日本養護教諭教育学会の歩み」 第５回研究大会報告	特集論文　４編 報告　２編 研究ノート　１編
第２巻第１号	1999 年３月	特集「養護教諭養成教育の課題」 ・養護教諭養成の現伏 ・教育職員免許法と養護教諭の養成教育 ・養護教諭養成教育のカリキュラム構造に関する研究 ・短期大学における養護教諭養成の課題 第６回学術集会報告	特集論文　４編 原著　１編 報告　６編
第３巻第１号	2000 年３月	特集「養護教諭の研究能力」 ・養護教諭の研究能力向上に向けて ・養護教諭に求められる研究能力 第７回学術集会報告	特集論文　４編 原著　５編 報告　６編 研究ノート　１編 実践報告　１編
第４巻第１号	2001 年３月	特集「養護教諭の実践と研究」 ・「方向探索型」研究の在り方 ・養護学構築へのアプローチ ・現職養護教諭の立場で行う実践と研究 第８回学術集会報告	特集論文　３編 原著　１編 報告　８編 研究ノート　１編
第５巻第１号	2002 年３月	特集「実践の問い直し－保健指導について－」 ・実践を問い直す視点としての共同 ・実践の問い直し－エイズ教育を通して－ ・養議教諭養成の課題－カリキュラムの要となる養護実習－ 第９回学術集会報告 ＊特別寄稿：養護教諭はどうしてこの名が付いたか	特集論文　３編 特別寄稿　１編 原著　２編 報告　３編 実践報告　１編
第６巻第１号	2003 年３月	特集「実践の問い直し－評価－」 ・保健師の保健活動の実践とその評価 ・小学校の実践から－次のステップへつなげよう－ ・教育実践の評価－中学校での取り組み－ ・高等学校での生徒対応をめぐってその評価を考える 第10回学術集会報告	特集論文　４編 論説　１編 原 著　１編 研究報告　４編
第７巻第１号	2004 年３月	特集「連携すること、コーディネートすること」 ・地域社会の中で子どもの問題に対処するための連携とコーディネート ・小学校における養護教諭の連携 ・保健教育における養護教諭の連携活動 ・これからの養護教諭に求められる連携のあり方	特集論文　４編 論説　２編 研究報告　２編 調査報告　２編

		日本養護教諭教育学会の英語表記に関する検討の経緯について 第11回学術集会報告	
第8巻第1号	2005年3月	特集「養護実践における科学性を問う」 ・“科学的”であることの必要性と限界 ・養護教諭の実践の科学性を考える ・養護教諭の研究を実践に生かすことの意義 ・養護教諭の実践における科学性 第12回学術集会報告	特集論文　4編 研究報告　6編 研究ノート　1編
第9巻第1号	2006年3月	特集「養護教諭教育プログラムの展望」 ・今後の教員養成・免許制度の在り方について ・養護教諭教育の考え方と養護教諭教育プログラムの進め方 ・専門職業人養成におけるコア・カリキュラム―日本教育大学協会全国養護部門の研究成果と今後の展望 ・自己教育力の向上を目指した養護教諭の実践 第13回学術集会報告	特集論文　4編 研究報告　7編 実践報告　1編 調査報告　1編
第10巻第1号	2007年3月	特集「養護教諭による実践研究の可能性」 ・養護教諭による実践研究の展望 ・学校経営の視点からとらえた養護教諭による実践研究への期待 ・現職養護教諭研修における実践研究の力量向上の方策 ・養護教諭として実践研究の力量向上に向けて 第14回学術集会報告	特集論文　4編 原著　1編 研究報告　4編 調査報告　1編
第11第1号	2008年3月	特集「これからの養護教諭の資質と役割」 ・子どもの現代的健康課題と養護教諭の役割そして活動への期待 ・養護教諭が今、求められる能力とこれから ・養護教諭の専門性を踏まえた養護教諭養成の在り方と将来への展望 第15回学術集会報告	特集論文　3編 原著　1編 研究報告　4編 研究ノート　1編
第12巻第1号	2009年3月	特集「養護教諭の学士力とは」 ・養護教諭養成教育における学士力について ・学資課程教育の構築に向けて ・大学教育への期待～社会のニーズを見据えた養護教諭の役割と課題から～ 第16回学術集会報告	特集論文　4編 研究報告　5編 実践報告　1編 調査報告　2編 資料　1編
第13巻第1号	2010年3月	特集「養護教諭の自己教育力」 ・知識基盤社会の学校と養護教諭の自己教育力 ・養護教諭の自己教育力について思うこと ・養護教諭の自己教育力と現職研修の意義 第17回学術集会報告	特集論文　3編 原著　4編 研究報告　6編 実践報告　1編 調査報告　1編 研究ノート　1編
第14巻第1号	2011年3月	特集「養護教諭の実践を記録する」 ・教職員としての養護教諭の実践とその記録 ・養護教諭が実践記録を書くということ ・連携に生かせる保健室来室者の記録の在り方を考える 学会活動報告「養護教諭の倫理に関する規定の検討委員会報告」 第18回学術集会報告	特集論文　3編 原著　1編 研究報告　3編 実践報告　1編 調査報告　1編
第15巻第1号	2011年9月	特集「東日本大震災から考える子どもの健康と養護教諭の役割」 ・養護教諭に知っていてほしい放射線の知識と考え方 ・東日本大震災を経験して（他3編） ・座談会「東日本大震災を経験して考えたこと、見えてきたこと」	特集論文　5編 研究報告　2編 調査報告　2編
第15巻第2号 12人	2012年3月	（特集なし） 第19回学術集会報告	原著　1編 研究報告　2編 調査報告　1編

			研究ノート　1編
第16巻第1号	2012年9月	特集「養護教諭の資質能力向上の展望と課題」 ・教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について ・教職大学院での実践を通して ・養護教諭の資質能力向上の展望と課題－私立大学での養成を通して－ ・養護教員10年経験者研修と教員免許更新講習を受講して	特集論文　4編 原著　2編 実践報告　1編
第16巻第2号	2013年3月	第20回学術集会報告 学会設立20周年記念集会報告	研究報告　2編 調査報告　3編 研究ノート　1編
第17巻第1号	2013年9月	特集「養護教諭の教職課程認定に関わる現状と課題」 座談会－養護教諭養成機関等の教員等の声－	調査報告　4編 研究ノート　1編 資料　1編
第17巻第2号	2014年3月	第21回学術集会報告	研究報告　1編 調査報告　3編 資料　1編
第18巻第1号	2014年9月	特集「続・養護教諭の教職課程認定に関わる現状と課題」 ・大学の教職課程認定制度の概要 ・養護教諭養成制度の歴史から学ぶもの ・日本における看護学科の養護教諭養成に関する調査研究から ・養護教諭養成課程および課程認定における課題－養護教諭の課程認定を経験して－ ・養成カリキュラム設計における視座の転換 ・学校救急看護の課題－養護教諭の判断を中心にして－ ＊特別寄稿：昭和初期における女子師範学校の学校養護婦養成－沖縄県学校衛生婦養成所を中心に－	特集論文　6編 特別寄稿　1編 調査報告　1編 実践報告　1編
第18巻第2号	2015年3月	第22回学術集会報告	研究報告　1編 実践報告　1編
第19巻第1号	2015年9月	特集「教師力・実践力」を高める養護実習の進め方 ・近年の教師教育改革と養護実習 ・学校現場の視点からとらえた養護実習の在り方 ・養護実習を指導した養護教諭として見えてきたこと ・養護実習への期待	特集論文　4編 実践報告　1編 調査報告　1編 資料　1編
第19巻第2号	2016年3月	第23回学術集会報告	研究報告　3編 研究ノート　1編 資料　1編
第20巻第1号	2016年9月	特集「日本養護教諭教育学会誌の20年の功績と養護教諭教育の未来」 ・学会誌創刊から5年間を振り返って－学会誌編集委員と第2代編集委員長の経験を基に－ ・本学会の理念追究に果たしてきた学会誌の役割 ・日本養護教諭教育学会誌への期待 ・多様化する社会と学校を生きる養護教諭の今とこれから－効果的な協働のために－	特集論文　4編 原著　1編 投稿奨励研究/原著　1編 研究報告　1編 資料　2編 投稿奨励研究/資料　1編
第20巻第2号	2017年3月	特別企画「故杉浦守邦氏を偲んで」 ・杉浦守邦氏が養護教諭教育に遺した功績と課題 ・遺稿　占領期養護教諭行政の過誤と修復の歴史 第24回学術集会報告	研究報告　1編 実践報告/研究助成金研究　1編 実践報告/投稿奨励研究　1編 研究ノート　1編
第21巻第1号	2017年9月	特集「養護教諭がつかさどる「養護」のコア」 ・教員の資質能力の向上方策と教職課程コアカリキュラムについて ・医学教育モデル・コア・カリキュラムの理念	特集論文　4編 原著　1編 調査報告　1編

		・学校教育の基盤を支える養護実践 ・養護実践を振り返り「養護」のコアを追究する	実践報告　1編 研究ノート　1編
第21巻第2号	2018年3月	第25回学術集会報告	研究報告　1編 調査報告　1編 調査報告/研究助成金研究　1編 研究ノート　3編 資料　2編
第22巻第1号	2018年9月	特集「新学習指導要領が目指す子ども像の育成を担う養護教諭の教師力」 ・子どもの「生きる力」を育むために求められる養護教諭の教師性－健康教育における授業実践の論文レビューから－ ・研究者と養護教諭が協力して行う思考力等を高める授業への取り組みについて ・養護教諭は保健室において，どのように子供の生きる力を高めているか－救急処置活動の中で子供の思考力を高める場面を振り返って－ ・教育学の理論をもとに思考力を高める研究的実践－体育科の授業実践から－	特集論文　4編 研究報告　1編 調査報告　2編
第22巻第2号	2019年3月	第26回学術集会報告	原著　1編 調査報告　1編 資料　1編
第23巻第1号	2019年9月	特集「健康教育推進において養護教諭が担うこれからの保健教育」 ・学習指導要領の改訂と保健教育 ・養護教諭に期待する健康教育力 ・保健学習の実践から見えてきた養護教諭の専門性 ・地域を活用した養護教諭の健康教育実践－「いつも笑顔で」の心を大切にする生徒の育成をめざして－	特集論文　4編 研究報告　1編 調査報告　1編
第23巻第2号	2020年3月	第27回学術集会報告	実践報告/投稿奨励研究　1編 調査報告/研究助成金研究　1編
第24巻第1号	2020年9月	特集「感染症との共生－新型コロナウイルス感染症から子供を守る－」 ・小学校での学校再開に向けた養護実践 ・特別支援学校の再開に向けた養護実践 ・科学的に手指衛生を考える ・インフォデミックの治療法としてのヘルスリテラシー ＊特別寄稿：新型コロナウイルス感染症への対応から見えてくる「養護教諭の倫理綱領」の意義	特集論文　4編 特別寄稿　1編 実践報告　1編 調査報告/投稿奨励研究　1編 研究ノート　1編
第24巻第2号	2021年3月	第28回学術集会報告	研究報告/研究助成金研究　1編 実践報告　1編 調査報告　1編
第25巻第1号	2021年9月	特集「生涯にわたる健康の保持増進を目指す養護実践」 ・大学における養護教諭の実践-若者の自立に向けた保健室の存在意義- ・高等学校における養護実践を通して生徒に伝えたいこと ・生徒の心の健康を見通した小学校における養護実践 ・「ヘルスプロモーティングスクール」実現に向けて-教員が養護教諭と共に学校保健を学ぶ意義-	特集論文　4編 実践報告　1編 調査報告　1編 資料/研究助成金研究　1編 資料　1編
第25巻第2号	2022年3月	第29回学術集会報告 ＊特別寄稿：「養護」の探究－筆者の50年間の歩みを振り返る－	特別寄稿　1編 研究報告　1編 調査報告　1編 資料　1編

第26巻第1号	2022年9月	特集「他職種連携から多職種連携へ」 ・学校における多職種連携の意義－校内の組織開発に着目して－ ・多職種連携における養護教諭の立ち居振る舞い ・複雑化・深刻化する生徒支援に対応するための多職種連携について －A県立B高校における多職種連携についての一考察－ ・養護教諭とスクールソーシャルワーカーの連携から多職種連携へ	特集論文　4編 調査報告/研究助成 金研究　1編 調査報告　1編 資料　1編
第26巻第2号	2023年3月 発刊予定	第30回学術集会報告 学会設立30周年記念集会報告	資料　2編

3）養護教諭の専門領域に関する用語の解説集

① 発行の経緯

児童生徒の健康課題が多様化・複雑化し、養護教諭への期待が高まる中で、養護教諭の専門的能力の育成や力量の形成をテーマとした研究が活発化している。そこで重要になるのは、専門的な用語に関する共通理解がなされているかということである。かつて、養護教諭の専門領域でよく用いられている用語（専門用語・学術用語）の研究は十分ではなく、同じ言葉でありながら使い方や解釈、英語表記が異なる状況が見られていた。

そこで、「養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与すること」をねらいとしている本学会は、学術団体としての社会的使命を果たすべく、2004年度～2006年度の学会事業として『養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト』を設置し、養護教諭の専門領域で多用されている30語を抽出して、それぞれの「定義」「解説」「英語表記」などを検討し、『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第一版＞』を刊行した（2007年3月26日）。

その後、中央教育審議会答申や学校保健安全法公布などによって、用語の表記や解説に新たな内容を盛り込む必要が生じたことから、2011年度の学会事業並びに2012年度の学会設立20周年記念事業として改訂ワーキングを組織して検討し、32語を抽出して『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第二版＞』を発行した（2012年10月1日）。

第二版発行以後、学習指導要領の改訂や中央教育審議会答申をふまえた教員の資質向上に関する施策などが進んだことから、2017年度～2018年度の学会事業として新たな改訂ワーキングを組織して検討し、表4に示す35語を抽出して『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞』を発行した（2019年3月31日）。

② 第三版の発行について

教育再生実行会議の第六次提言や第七次提言を受けて、2015年12月21日に同時に発表された3つの中央教育審議会答申による施策、学習指導要領の改訂、本学会による「養護教諭の倫理綱領」の作成をふまえ、さらに会員から募集した意見を反映させて、「養護教諭の倫理綱領」「チーム学校」「保健教育」の3語が追加された。なお、＜第二版＞の「組織活動」は「保健組織活動」に変更して健康に関する事柄であり学校という視点が必要な用語として位置づけた。

＜第三版＞に掲載した35語は、①養護や養護教諭という言葉が含まれている養護教諭固有の用語（下表のNo.1～12）、②養護教諭の専門性を示す上で欠かせない用語（同 No.13～20）、③健康に関する事柄であり学校という視点が必要な用語（同No.21～30）、④一般的に使われる言葉であるが養護教諭にとって重要な意味を持つ用語（同No.31～35）に区分されている。今後も、子どもたちや養護教諭を取り巻く情勢の変化に対応させて改訂を行う予定である。

表 4　用語の解説＜第三版＞に掲載の用語一覧

No.	用　語	No.	用　語	No.	用　語
1	養護	13	学校保健	25	保健教育
2	養護学	14	学校保健経営	26	保健指導
3	養護教諭	15	保健室	27	保健組織活動
4	養護教諭教育	16	保健室経営	28	健康教育
5	養護教諭の活動過程	17	保健室登校	29	ヘルスプロモーション
6	養護実践	18	健康相談活動	30	健康課題
7	養護診断	19	救急処置／救急処置活動	31	チーム学校
8	養護実習	20	ヘルスアセスメント	32	支援
9	養護教諭の資質・能力	21	保健管理	33	連携
10	養護教諭の職務と役割	22	健康診断	34	コーディネート
11	養護教諭の「観」	23	健康相談	35	危機管理
12	養護教諭の倫理綱領	24	健康観察		（No.は掲載順）

4）学術集会における一般発表の演題区分

「養護教諭教育」は、「養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動」である。その名を冠する本学会は、養護教諭教育という活動を意味づけ、「養護教諭教育の理念」や「養護教諭の専門性を支える柱（あるいは学問構造）」を示していく責務がある。その足がかりとして、学会設立 20 周年を契機に、学術集会での一般発表の演題区分 10 項目を提示した。これを一般演題に適用しながらより適切な区分を検討し、学問領域の試案提示につなぐことを目指してきた。区分は、学問的な基盤にかかわる領域として「原論・歴史」「制度」、養護教諭教育の領域として「養護実践」「養成教育」「現職教育」の 3 本柱を意識して計 10 項目を抽出した。演題登録の際にこの演題区分の中から発表内容に適するものを選択してもらうことで養護教諭教育への理解を深め、同じ領域の研究発表を同じ会場で行うことで、その領域に長けた座長によって議論を深めるようにと考えている。

第 20 回学術集会以降、毎回、演題登録の状況を分析し、よりよい区分となるよう修正を重ねたが、提示した区分と発表者が希望する区分とが異なるものが多々あり、各区分の内容が十分に理解されていない様子が見られている。そこで、各区分の説明を補って「解説」として HP に掲載し、学術集会抄録集や会場での提示を心がけるなどして区分の周知に努めた。

さらに 2018 年 4 月には、本学会で一般演題の発表経験がある会員 98 名を対象に、演題区分に関するアンケートを実施した。しかし、2 度にわたる依頼にもかかわらず、僅か 2 名の回答しか得られなかった。そのためこの結果に加え、過去の学術集会で発表された演題の傾向を改めて分析し、次の①～⑤の課題を捉えて、理事会で区分の見直しを検討した。

①「原論」がわかりにくい→解説を修正する、②養護教諭の困難感や職能成長に関する区分がない→「現職教育」の区分に含めることとし説明を加える、③「養護実践」と「保健管理」「健康教育」「組織活動」の違いがわかりにくい→「養護実践」の定義を示す、④養護教諭の活動はいずれも「組織活動」に関連し区分しにくい→「養護教諭の活動」という大分類を設定し「保健管理」「健康教育」「組織活動」「保健室経営」はその中の小分類とする、⑤児童生徒の実態や意識調査など「その他」が多い→養護教諭教育に関する演題が増えるよう働きかける。

理事会での用語の一部修正等を経て、2019 年に改訂された演題区分（表 5）は第 27 回学術集会から適用している。しかし、第 30 回学術集会では養護教諭教育に関連するにもかかわらず「養護実践」の定義に該当しないため「その他」の区分となる研究が複数みられた。今後、演題区分の確立とそれに基づく学問領域の試案の提示を急ぐ必要がある。

表５　2019 年の演題区分の改訂内容

当初の区分名	当初の考え方	改訂後の区分名	説明のポイント
１．原論、歴史	養護の概念や歴史に関するもの	１．原論、歴史	特に原論の説明を丁寧に書く。養護教諭の職務や役割、倫理等に関することを含む旨も加える。
２．制度	養成・研修など法的な背景をもつ様々なもの	２．制度	養護教諭にかかわる事項の法的背景に関する研究
３．養成教育	３本柱の一つである。	３．養成教育	養護教諭養成の教育内容・教育方法・評価等養成の歴史は1、養成制度は2となる
４．現職教育	３本柱の一つである。	４．現職教育	現職教育につながる実態把握や養護教諭の職能成長を含むことを解説に加える。
５．養護実践	３本柱の一つである。	5．養護実践	養護実践とは養護教諭が目的を持って意図的に行う教育活動
６．保健管理	「健康管理」は人的要素が強くなるので、人的・物的要素をふまえた	保健管理に関する養護実践	保健管理（児童生徒の心身、生活、学校環境）に関する実践
７．健康教育	保健教育は学校保健の領域の用語であるため、より広い意味をもたせた	健康相談に関する養護実践	心と体の両面への対応という養護教諭の独自性を生かした実践
８．組織活動	保健管理・健康教育推進の上で欠かせない。連携の並記も可か。	健康教育に関する養護実践	健康教育（保健教育・安全教育・食育等）に関する実践
９．保健室経営	他に比べて具体的な言葉となるが、いずれにも該当しないとの意見を受けて特出させた。	保健室経営に関する養護実践	養護教諭の専門性と保健室の機能を生かして行った保健室経営に関する実践
１０．その他		保健組織活動に関する養護実践	特に教職員や専門家・専門機関との組織的な連携に焦点を当てた実践
		6．その他	1～5に該当しないもの。 保健管理、健康教育、組織活動等を扱っていても、養護実践に含まれないもの。

５）養護教諭の倫理綱領

① 倫理綱領の検討経緯

近年、様々な専門職の倫理綱領が公表されている。倫理綱領とは、専門職団体が専門職としての社会的責任や職業倫理に関する行動規範を成文化したものであり、専門職団体と専門職各自が、専門職の理念と使命感、その責務を倫理的に果たしていく根本方針を社会に公表し、専門職性を高めていくためのものと捉えられる。

そこで、本学会は 2008 年度より「養護教諭の倫理綱領」に関する検討を開始し、2010 年度までの時限委員会による研究成果を学会誌第 14 巻第 1 号に報告した。さらに、2013 年度からの学会事業として「養護教諭の倫理綱領（案）」の作成にむけて、養護教諭の倫理綱領検討特別委員会を立ち上げて取り組んできた。

第 22 回学術集会の全体会で「養護教諭の倫理綱領」の前文と各条文の項目名等について説明し、翌日の 2014 年度総会で理事会から前文と条文の項目名を提案し承認された。その後、第一案をまとめ、会員からのご意見や外部有識者からのご指摘を受け、第二案を作成した。

第二案も会員からのご意見を聞き、最終案を作成し、第 23 回学術集会の全体会で説明し、翌日の 2015 年度総会で理事会から提案した。提案に関しては、前日の全体会での意見をふまえて、第 13 条の「養護実践基準」についての解説文も紹介した。今後、「養護実践基準」の作成を進めていくことを確認して、提案通りに承認されたものが表 6 である。

② 倫理綱領の構成

全体は、前文と 14 の条文で構成されている。前文は文章化することで、養護教諭の倫理綱領を作成する意義等を説明している。前文には「養護をつかさどる」は表記していないが、「養護教諭は学校教育法に規定されている

教育職員である」という表現に内包している。

条文は、養護の対象は子どもたちであることを再認識した上で作成し、その内容は、倫理綱領一般との整合性をはかる一方で、養護教諭独自の内容になるよう配慮し、教師性や専門性が見えてくるような3つの枠組みで構成している。第1条から第4条は他職種でも挙げられている「倫理綱領一般に共通するもの」、第5条から第9条は「養護教諭の専門性にかかわるもの」、第10条から第14条は「養護教諭の発展にかかるもの」である。

「養護教諭の倫理綱領」は、養護教諭の仕事を制約したり、評価したりするためのものではない。養護教諭の実践を支える拠り所となるものであり、日頃から意識し心がけることで、養護教諭の専門性を維持し向上させることにつながる。

表6　養護教諭の倫理綱領

○前文

養護教諭は学校教育法に規定されている教育職員であり、日本養護教諭教育学会は養護教諭の資質や力量の形成および向上に寄与する学術団体として、「養護教諭とは、学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育と健康管理によって子どもの発育・発達の支援を行う特別な免許を持つ教育職員である」と定めた（2003年総会）。

養護教諭は子どもの人格の完成を目指し、子どもの人権を尊重しつつ生命と心身の健康を守り育てる専門職であることから、その職責を全うするため、日本養護教諭教育学会はここに倫理綱領を定める。

養護教諭が自らの倫理綱領を定め、これを自覚し、遵守することは、専門職としての高潔を保ち、誠実な態度を維持し、自己研鑽に努める実践の指針を持つものとなり、社会の尊敬と信頼を得られると確信する。

○条文

第1条　基本的人権の尊重	養護教諭は、子どもの人格の完成をめざして、一人一人の発育・発達権、心身の健康権、教育権等の基本的人権を尊重する。
第2条　公平・平等	養護教諭は、国籍、人種・民族、宗教、信条、年齢、性別、性的指向、社会的問題、経済的状態、ライフスタイル、健康問題の差異にかかわらず、公平・平等に対応する。
第3条　守秘義務	養護教諭は、職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する。
第4条　説明責任	養護教諭は、自己の対応に責任をもち、その対応内容についての説明責任を負う。
第5条　生命の安全・危機への介入	養護教諭は、子どもたちの生命が危険にさらされているときは、安全を確保し、人権が侵害されているときは人権を擁護する。
第6条　自己決定権のアドボカシー	養護教諭は、子どもの自己決定権をアドボカシーするとともに、教職員、保護者も支援する。
第7条　発育・発達の支援	養護教諭は、子どもの心身の健康の保持増進を通して発育・発達を支援する。
第8条　自己実現の支援	養護教諭は、子どもの生きる力を尊重し、自己実現を支援する。
第9条　ヘルスプロモーションの推進	養護教諭は、子どもたちの健康課題の解決やよりよい環境と健康づくりのため、校内組織、地域社会と連携・協働してヘルスプロモーションを推進する。
第10条　研鑽	養護教諭は、専門職としての資質・能力の向上を図るため研鑽に努める。
第11条　後継者の育成	養護教諭は、社会の人々の尊敬と信頼を得られるよう、品位と誠実な態度をもつ後継者の育成に努める。
第12条　学術的発展・法や制度の確立への参加	養護教諭は、研究や実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、養護教諭にかかわる法制度の改正に貢献する。
第13条　養護実践基準の遵守	養護教諭は、質の高い養護実践を目指し、別に定める養護実践基準をもとに省察して、実践知を共有する。
第14条　自己の健康管理	養護教諭は、自己の心身の健康の保持増進に努める。

③ 第13条の養護実践基準について

「養護教諭の倫理綱領」の第13条は「養護実践基準の遵守」であり、その条文は「養護教諭は、質の高い養護実践を目指し、別に定める養護実践基準をもとに省察して、実践知を共有する」とある。2015年度総会において「養護教諭の倫理綱領（案）」が承認されたとき、条文中の「別に定める養護実践基準」の内容は理事会が中心となって検討することが確認された。

そこで、理事会は総務、学術、学会活動を担当している理事から代表を選んでワーキンググループを組織して検討を重ね、学術集会での4度の中間報告を経て、学会誌第24巻第2号（2021年3月発刊）に「養護実践基準2020年度案」を報告した。

以下は、学術集会で報告した検討内容の要点である。

●中間報告・第1報（第25回学術集会：2017年10月7日）
養護実践基準という表記の解釈について、「養護実践基準」を入れた理由から捉えられること、倫理綱領を有する他専門職の基準について報告
●中間報告・第2報（第26回学術集会：2018年9月29日）
研究論文の分析から捉えた養護の実践にかかわる基準、縦軸（資質能力）の分析と横軸（キャリアステージ）の分析から捉えた傾向を報告
●中間報告・第3報（第27回学術集会：2019年10月12日）
学会員からの意見、「養護実践基準（案）」の検討の流れ、構成する項目、表示のしかたについて報告
●中間報告・第4報（第28回学術集会：2020年10月10日）
「養護実践基準」の検討に関して募集した会員意見、第28回学術集会（Web）での会員意見を報告

◎オンラインミーティング「養護実践基準の検討に関する意見交換会」（2020年11月29日）の実施
養護実践基準に掲げた6項目及びその下にある説明についての検討、全体を通しての検討について報告

以上の検討を行って、表7のような「養護実践基準（2020年度案）」を提案した。

2015年度総会以降、「養護教諭の倫理綱領」を公表し、その周知と理解に努めてきたが、第13条の「養護実践基準」の内容について成案を提示することは難しかった。しかしながら、第13条において「別に定める養護実践基準をもとに省察し」と規定している以上、本学会は養護実践基準とはいかなるものかを提示する責任を有する。今後は、「養護実践基準（案）の項目の変更・追加、「養護教諭の倫理綱領」第13条の見直し等の検討課題が考えられる。

表７　養護実践基準（2020 年度案）

養護実践基準は、「養護教諭の倫理綱領」第 13 条に基づき作成するものである。養護教諭は子どもの人格の完成を目指し、子どもの人権を尊重しつつ生命と心身の健康を守り育てる専門職であることから、質の高い養護実践にむけて、養護実践基準をもとに省察して、実践知を共有する必要がある。養護実践基準は、養護（児童生徒の心身の健康の保持増進によって発育・発達の支援を行う教育活動）の実践の基準であり、ヘルスプロモーションの理念に基づき、子どもの心身の健康の保持増進と発達保障・健全育成を目指して行われる実践の基準でもある。

今回作成した養護実践基準は、養護実践の省察を行う際に役立つものであるとの考えから、養護教諭の専門性をいかした固有の職務内容である「保健室経営」「保健管理」「健康相談」「保健教育」「保健組織活動」の５項目と現代的課題である「心身の危機管理」の計６項目を取り上げた。なお、これらは個々に機能するものではなく、日々の実践の中では相互に関わり合い、融合しながら、組織的・計画的に展開されていくものである。また、養護教諭が教育活動を行っていくには、養護教諭の専門性を生かした（養護教諭ならではの）見方や考え方が必要であり、それらは「指導観、教育観、健康観、子ども観」等として、日々の実践に反映される。つまり、これらの「観」によって、個々の養護教諭の実践は支えられていると言える。その一方で、養護の対象である子どもたちとのかかわりの中で「観」は変化し、再構成されることもある。養護実践は、社会の変化や子どもの健康課題に応じて変化するものであることから、養護実践基準は様々な養護実践知によって今後も発展するものと考える。

1.子どもの発達保障・健全育成のために、養護教諭の専門性と保健室の機能を活かし、健康の保持増進や健康課題の解決に向けた計画的・組織的に保健室経営を行う。
2.子どもの心身の健康の保持増進のために、個人あるいは集団の健康状態を把握し、計画的・組織的に保健管理を行う。
3.生涯にわたる心身の健康の保持増進のために、養護教諭の職の特質と保健室の機能を活かし、関係者との連携を図り、健康相談を行う。
4.子ども自身が生涯を通じて健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成するために、養護教諭の専門性を活かし、保健教育を行う。
5.ヘルスプロモーションの理念に基づき、子どもの健康の保持増進・健康課題の解決のため、学校・保護者・地域社会の連携のもと、保健組織活動を行う。
6.子どもの生命及び心とからだ、人権を守るために、疾病や事件・事故の発生の未然防止と被害を最小限に抑える迅速な対応及び再発防止を行い、心身の危機管理を行う。

Ⅳ　学会の事業

２．会員の研究活動支援

２．会員の研究活動支援

１）研究助成金研究

研究助成金対象研究（以下、助成金研究）の制度は、本学会前身の全国養護教諭教育研究会が 1993 年から行ってきた世話人や会員有志による共同研究の流れをくむもので、その経過は「学会設立20周年記念誌」（p.79）に述べられている。そこで、本稿では20周年（2012年度）以降の10年間の動向や課題を中心に述べる。

①内規の制定と改正

2007年度以降、「学会会則実施細則」の規程や「選定基準」（2006年度総会承認）に基づいて選定された研究に助成が行われてきたが、次のようなケースがあり、課題となっていた。

・申請時の研究テーマや研究計画、研究メンバーを無断で変更した。

・研究期間を延長して2年間助成を受けたが、学術集会で年度ごとに報告を行わなかった。

・以前からの研究であることを理由に研究期間終了前に報告した。

・研究期間終了後に論文を投稿しなかった。

これらの事案に対しては、その都度理由を確認し理事会で協議してきたが、実施基準をより明確にして申請を促進するため、「学会会則実施細則」の改正及び「研究助成金研究の選定に関する内規」の制定を検討した。これらは2013年度総会において提案し承認された。

実施細則の改正では、研究助成期間 1 年を原則とし、従来可能としていた助成期間の延長を認めないこととした。また、新たに制定した内規では、第1条で目的を明記、第2条で研究担当者は会員であることや採択件数は2件以内とすることを定めた。第3条では助成期間1年を原則とすること、第4条では選定基準を6項目とし、特に選定基準が満たされていれば現職養護教諭が代表者である研究を優先することとした。これは現職養護教諭による研究の推進を願う本学会の方針によるものである。さらに第 5 条では研究の進捗状況を機関紙ハーモニーで報告すること、研究成果を翌年の学術集会で報告し、助成期間終了後 1 年以内に学会誌に投稿することも定めた。

これにより、ハーモニーでの研究概要等の紹介、翌年の学術集会での研究報告が定例化し、規程に基づいた運用がなされるようになった。しかし学会誌への論文掲載については内規制定以降も滞る傾向がみられた。そのため、2016 年度に内規第 5 条を改正し、「対象年度終了後 3 年を経過しても研究成果を学会誌に公表できない場合は、研究代表者に助成金の返却を求める」という一文を追記した。この規定は2016年度総会で承認され、2016年10 月 9 日から施行された。ただし、この規程施行以前の研究には適用されないことから、論文掲載が遅れている過年度の研究に対しては個別に対応しなければならない状況が継続した。

内規改正後に選定された研究は、規程に沿って研究成果の報告を行えるよう学術委員会が研究代表者と連絡をとるとともに、学会誌編集委員会と連携して投稿や学会誌への掲載状況を確認している。助成金を受けて研究を行っても、それを論文として遅滞なく学会誌に投稿し掲載されるまでには一定の努力を要する。今後、スムーズな論文投稿・掲載に向けて、学会としてどのような支援を行えるか、さらなる検討が必要である。

② 申請及び選定の状況

表8は、選定基準を定めた2006年度から現在までの申請及び選定の状況である。参考に申請時の研究代表者が現職養護教諭であるものは内数で示した。

2013年度の助成金申請は3件あり、2件を選定した。その後はほぼ毎年1件の申請で、選定数も1件という年度が続いている。ただし2015年度は申請がなく、2022年度は申請内容を検討した結果、選定を見送ることとなった。2013 年度以前はほぼ毎年度 2 件ずつ選定を行ってきたことを考えると、内規制定後の申請状況は低調と言わざるを得ない。しかし、数が少ないとはいえ、現職養護教諭が代表者である研究の申請が2013年、2014年、2020年、2021年、2023年にあり、そのうち4件を選定できたことは意義深い。今後は、申請が低調な原因を分析し、会員が積極的に申請を行えるような方策を検討したい。

表８　助成金研究の申請と選定の状況

助成年度	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
申請件数	2	4	0	3	2	5	1	3	1	0	1	1	1	2	1	1	1	1
選定件数	2	2	0	2	2	2	1	2	1	0	1	1	1	1	1	1	1	0
現職養護教諭の代表申請（内数）	0	0	0	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	1

③　学会共同研究ならびに研究助成金研究一覧

1993 年度の共同研究以降 2022 年度までの全ての助成金研究を表 9 にまとめた。2013 年度分までは 20 周年記念誌掲載内容と同じであるため、学会プロジェクト研究やワーキンググループも含まれている。「研究助成金研究の選定に関する内規」が制定された 2014 年度以降は、助成金研究として選定されたもののみを掲載した。「③研究メンバー」欄も、2013 年度分までは学会発表の抄録また学会誌の論文に記載された人、2014 年度以降は助成金研究申請時の研究代表者および共同研究者名とした。

表９　学会共同研究ならびに研究助成金研究一覧

No.	①：研究期間　②：研究テーマ　③：研究メンバー　＊：学会発表　●：学会誌掲載	
1	①1993～1994 年度	②テーマ：養護実習の実施状況に関する調査
	③堀内久美子（代表者）、大谷尚子、小笠原紀代子、曽根睦子、中桐佐智子	
	＊全国養護教諭養成機関への質問紙調査結果報告－養護実習運営の概要－、第１回研究大会（1993 年 11 月） ＊全国養護教諭養成機関における養護実習評価の現状、第２回研究大会（1994 年 11 月） ●学会誌第１巻第１号（1998 年３月）特集	
2	①1995～1996 年度	②テーマ：養護実習に関する研究
	③盛昭子（代表者）、大谷尚子、小笠原紀代子、片山良子、小林壽子、曽根睦子、中川優子、中桐佐智子、堀内久美子（養護実習研究班）	
	＊「養護実習のあり方に関する研究(その 1)全国養護教諭養成機関における実習の目的・目標」、第 3 回研究大会（1995 年 11 月） ＊「養護実習のあり方に関する研究(その 2)養護実習直後の学生の自己評価」、第４回研究大会（1996 年 11 月） ●学会誌第１巻第１号（1998 年３月）第１報～第３報	
3	①1996～1997 年度	②テーマ：養護教諭の複数配置に関する研究
	③石原昌江（代表者）、郷木義子、小林育枝、近藤文子、下村淳子、竹田由美子、辻立世、外山恵子、永瀬春美、美馬信（養護教諭の複数配置に関する研究班）	
	＊「養護教諭の複数配置に関する研究（その１）時代のニーズに応じた養護教諭の適性配置と養成教育の課題－複数配置に関す先行文献の分析・検討－」、第４回研究大会（1996 年 11 月） ＊「養護教諭の複数配置に関する研究（その２）養護教諭の複数制に関する調査」、第 5 回研究大会（1997 年 11 月） ＊「養護教諭の複数配置に関する研究（その３）時代のニーズに応じた養護教諭の適性配置と養成教育の課題－心残りの事例分析より－」、第６回研究大会（1998 年 10 月） ●学会誌第４巻第１号（2001 年３月）第１報・第２報	
4	①1997～1998 年度	②テーマ：相談にかかわる養護教諭の力量形成
	③森田光子（代表者）、大谷尚子、大原榮子、鎌田尚子、木幡美奈子、塩田瑠美、竹田由美子、堀籠ちづ子、吉田あや子	
	＊「相談にかかわる養護教諭の力量形成－研究班１年次の報告」、第６回学術集会（1998 年 10 月） ＊日常事例の分析から考えられる力量形成－相談にかかわる養護教諭の力量形成－、長期にわたる支援事例（保健室登校）から捉えられる力量－相談にかかわる養護教諭の力量形成－、「力量形成をめざした養成教育の実態－相談にかかわる養護教諭の力量形成－、第７回学術集会（1999 年９月）	

	●学会誌第２巻第１号（1999年３月）第１報・第２報　●学会誌第３巻第１号（2000年３月）第３報～第５報 ●学会誌第４巻第１号（2001年３月）第６報　●学会誌第５巻第１号（2002年３月）第７報	
5	①1998年度	②テーマ：養護教諭の研究能力について
	③天野敦子（代表者）、浅野純美、有村信子、石田妙美、石原昌江、大原榮子、岡田加奈子、門田美千代、河内信子、神戸美絵子、後藤ひとみ、小林冽子、小林央美、斉藤ふくみ、竹崎登喜江、徳山美智子、外山恵子、中川勝子、中村朋子、西尾ミツ、林せつ子、藤井寿美子、松嶋紀子、三木とみ子、美馬信、村木久美江、山崎隆恵	
	＊養護教諭の研究能力に関する研究（第１報）研究に関する実態調査、（第２報）「研究発表」の現状分析、（第３報）研究能力の構造と育成、第７回学術集会（1999年９月） ●学会誌第３巻第１号（2000年３月）第１報～第３報	
6	①1999～2000年度	②テーマ：日々の対応からみた「養護」に関する研究－自己教育のための自己評価を高めるために－
	③砂村京子（代表者）、笹川まゆみ、高橋朋子、村山貴子	
	＊日々の対応からみた「養護」に関する研究Ｉ－子どもの対応事例の分析から－、第８回学術集会（2000年９月） ＊日々の対応からみた「養護」に関する研究（第２報）－重症のアトピー性皮膚炎による保健室頻回来室経験者へのインタビューから－、第９回学術集会（2001年10月） ●学会誌第４巻第１号（2001年３月）第１報　●学会誌第６巻第１号（2003年３月）第２報	
7	①1999～2000年度	②テーマ：免許法改正に伴うカリキュラムの研究－養護教諭養成機関における実態調査
	③池本禎子（代表者）、大谷尚子、楠本久美子、中桐佐智子、盛昭子	
	＊養護教諭養成教育におけるカリキュラムの検討－カリキュラムの実態調査－、第８回学術集会（2000年９月） ＊養護教諭養成教育カリキュラムの検討（2）教育内容の構造化を目指して、第９回学術集会（2001年10月） ●学会誌第４巻第１号（2001年３月）第１報　●学会誌第５巻第１号（2002年３月）第２報	
8	①2001～2002年度	②テーマ：健康教育に必要な養護教諭の能力に関する研究
	③小林央美（代表者）、池田みすゞ、入駒一美、工藤宣子、斉藤ふくみ、中西美恵子、万城公美子、山名康子（健康教育に必要な養護教諭の能力を考える班）	
	＊健康教育に必要な養護教諭の能力に関する研究－実践分析から－、第10回学術集会（2002年10月） ＊健康教育に必要な養護教諭の能力に関する研究（第２報）－実践分析から－、第11回学術集会（2003年10月） ●学会誌第７巻第１号（2004年３月）第１報　●学会誌第９巻第１号（2006年３月）第２報	
9	①2001～2002年度	②テーマ：養護教諭の英訳及び本学会の英文名に関するワーキング※
	③鎌田尚子（代表者）、岡本陽子、梶岡多恵子、小林陽子、竹田由美子、中桐佐智子、三木とみ子、山崎隆恵、吉田あや子、美馬信、栩野千恵子（理事：石原昌江、大谷尚子、楠本久美子、後藤ひとみ、下村淳子、村瀬久美、盛昭子）	
	＊養護教諭の英訳ワーキング経過報告、第10回学術集会（2002年10月）	
10	①2003年度	②テーマ：養護教諭の英訳及び本学会の英文名に関するワーキング※
	③理事会：天野敦子、植田誠治、後藤ひとみ、竹田由美子、徳山美智子、村瀬久美、山崎隆恵	
	＊「Yogo teacherの英語説明文」の検討報告、第11回学術集会（2003年10月） ※総会にて理事会提案「Yogo teacherの英語説明文」及び「日本養護教諭教育学会の英語表記」、第11回学術集会（2003年10月） ●学会誌第７巻第１号（2004年３月）理事会報告	
11	①2003年度	②テーマ：養護教諭の実践の評価について－研究の成果をどう生かすか－
	③江嵜和子（代表者）、大川尚子、木村龍雄、楠本久美子、下村淳子、辻立世、外山恵子、松嶋紀子	
	＊養護教諭の実践の評価について－研究の成果をどう生かすか－、第12回学術集会（2004年10月） ●学会誌第９巻第１号（2006年３月）	
12	①2004～2005年度	②テーマ：養護診断開発のための基礎的・実践的研究－四肢の痛みの訴えを例に－
	③岡田加奈子（代表者）、葛西敦子、三村由香里、徳山美智子、酒井都仁子、山本雅、高田しずか、中山志保子	
	＊養護診断開発のための基礎的・実践的研究－四肢の痛みの訴えを例に－、第13回学術集会（2005年10月） ＊養護診断開発のための基礎的・実践的研究－四肢の痛みの訴えを例に－（第２報）、第14回学術集会（2006年	

	10月） ●学会誌第10巻第1号（2007年3月）	
13	①2004～2006年度	②テーマ：養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト※
	③後藤ひとみ・植田誠治（代表者）、淺利恵子、岡田加奈子、鎌田尚子、河田史宝、駒田玉美、鈴木裕子、徳山美智子、林典子、古田扶三子、堀内久美子	
	＊養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト（中間報告）、第13回学術集会（2005年10月） ＊養護教諭の専門領域に関する用語の検討プロジェクト（最終報告）、第14回学術集会（2006年10月） ●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第一版＞』発行（2007年3月26日）	
14	①2006年度	②テーマ：保健学習の実践から見た養護活動
	③小口博子（代表者）、中島栄子	
	＊保健学習の実践から見た養護活動、第15回学術集会（2007年） ●学会誌第12巻第1号（2009年3月）	
15	①2006～2007年度	②テーマ：養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討－「養護概説」担当者による分析－
	③斉藤ふくみ（代表者）、今野洋子、古賀由紀子、後藤ひとみ、小林央美、松田芳子	
	＊養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討－「養護概説」担当者による分析－、第15回学術集会（2007年10月） ＊養護実践力の育成を目指す養護教諭養成カリキュラムの検討（第2報）－学内・学外における系統的な実習のあり方－、第16回学術集会（2008年10月） ●学会誌第11巻第1号（2008年3月）第1報　●学会誌第12巻第1号（2009年3月）第2報	
16	①2007年度	②テーマ：養護教諭の行う救急判断のためのエビデンス構築に向けての研究－頭部外傷時の救急判断において－
	③三村由香里（代表者）、梶谷さとこ、上村弘子、河本妙子、高橋香代、武田和子、田代桂子、中吉千施子、藤尾由美、松枝睦美	
	＊養護教諭の行う救急判断のためのエビデンス構築に向けての研究－頭部外傷時の救急判断において－、第16回学術集会（2008年10月） ●学会誌第11巻第1号（2008年3月）	
17	①2008～2010年度	②テーマ：養護教諭の職業倫理に関する検討（学会活動委員会の中の委員会）
	③鎌田尚子（代表者）、澤田敦子、竹田由美子、中村朋子、丸井淑美、吉田あや子	
	＊養護教諭の職業倫理綱領（行動指針・実践の基盤）の構想と内容検討－試案作成に向けて（1年次報告）－、第17回学術集会（2009年10月） ＊養護教諭の倫理綱領（試案）に関する報告、第18回学術集会（2010年10月） ●学会誌第14巻第1号（2011年3月）	
18	①2009年度	②テーマ：幼稚園における養護教諭の配置と役割に関する研究－園長の意見を中心として－
	③井澤昌子（代表者）、大川尚子	
	＊幼稚園における養護教諭の配置状況とその役割に関する調査研究、第18回学術集会（2010年10月） ●学会誌第15巻第1号（2011年9月）	
19	①2009～2010年度	②テーマ：養護診断における効果的な問診に関する研究
	③吉田あや子（代表者）、柴崎卓巳子、松本恵	
	＊養護教諭が行う効果的な問診に関する研究－中学校における問診の実施状況の調査結果－、第18回学術集会（2010年10月） ＊養護教諭が行う効果的な問診に関する研究－中学校における問診の現状と課題－、第19回学術集会（2011年10月） ◎本人都合により投稿取り下げ。なお、研究助成金の返納規程制定前のため返金されず。	
20	①2010年度	②テーマ：養護教諭の学校経営参画に関する研究－学校組織力の開発活動の実際－
	③留目宏美（代表者）	

	＊養護教諭の学校経営参画に関する研究－学校組織力の開発活動の実際－、第 19 回学術集会（2011 年 10 月） ●学会誌第 17 巻第 1 号（2013 年 9 月）	
21	①2011 年度	②テーマ：学校保健活動の重要性を学校評価に位置づけるための研究－課題解決型保健室経営計画を基盤として－
	③新開美和子（代表者）、田嶋八千代	
	＊学校保健活動の重要性を学校評価に位置づけるための研究－課題解決型保健室経営計画を基盤として－、第 20 回学術集会（2012 年 10 月） ●学会誌第 18 巻第 2 号（2015 年 3 月）	
22	①2011 年度	②テーマ：子どもの自尊感情を高める養護実践の構成に関する研究－北海道における小学生の実態を中心に－
	③照井沙彩（代表者）、浅野真由美、一條由美、今野洋子、佐藤倫子、世羅桃子、築地優子、樋口佳奈、宮島美貴、山崎千秋	
	＊子どもの自尊感情を高める養護実践の検討、第 20 回学術集会（2012 年 10 月） ●学会誌第 17 巻第 1 号（2013 年 9 月）	
23	①2011～2012 年度	②テーマ：「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」改訂ワーキング※
	③学会活動委員会委員長（三木とみ子・後藤ひとみ）代表、植田誠治、遠藤伸子、岡田加奈子、河田史宝、鈴木裕子、永田智恵子、徳山美智子、林典子、吉田あや子	
	＊「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」の改訂にむけた検討報告、第 19 回学術集会（2011 年 10 月） ●『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第二版＞』発行（2012 年 10 月 1 日）	
24	①2012 年度	②テーマ：保健室の史的研究－保健室におけるケアの機能の視点から－
	③竹下智美（代表者）	
	＊保健室の史的研究―保健室におけるケアの機能の視点から―、第 21 回学術集会（2013 年 10 月） ◎本人都合により投稿取り下げ。なお、研究助成金の返納規程制定前のため返金されず。	
25	①2013 年度	②テーマ：養護教諭初任者支援研修のプログラム開発
	③櫻田淳（代表者）、北口和美、大原榮子、大嶺智子、加納亜紀	
	＊養成大学における養護教諭初任者支援プログラム開発、第 22 回学術集会（2014 年 10 月） ●学会誌第 21 巻第 2 号（2018 年 3 月）	
26	①2013 年度	②テーマ：喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の系統的指導計画の開発と評価―健康教育実践における養護教諭のマネジメント力向上の検証―
	③西村孝江（代表者）、上野芳子、畑さゆり、保坂小百合、上村弘子	
	＊　喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の系統的指導計画の開発と評価―健康教育実践における養護教諭のマネジメント力向上の検証―、第 22 回学術集会（2014 年 10 月） ●学会誌第 20 巻第 2 号（2017 年 3 月）	
27	①2014 年度	②小・中学校における食物アレルギー児童生徒対応のための校内支援体制の構築―応急処置体制に対する教師の意識調査からの検討―
	③髙田薫（代表者）、米嶋美智子	
	＊小・中学校における食物アレルギー児童生徒のための校内支援体制の構築―応急処置体制に対する教師の意識調査からの検討―、第 23 回学術集会（2015 年 10 月） ●投稿済	
28	①2016 年度	②養護教諭養成教育における養護原理の理解深化のための教育プログラム開発～養護教諭とのかかわりを通した養護原理の探索的概念生成の試み～
	③鹿野裕美（代表者）、鎌塚優子、斉藤千景	
	＊養護教諭養成教育における養護の本質を理解するための教育プログラムの開発、第 25 回学術集会（2017 年 10 月） ●学会誌第 24 巻第 2 号（2021 年 3 月）	
29	①2017 年度	②養護教諭の複数配置に関する養成機関での授業モデル研究
	③鈴木薫（代表者）、斉藤ふくみ、山崎隆恵	

	＊養護教諭の複数配置に関する養成機関での授業モデル研究、第 26 回学術集会（中止により 2018 年 12 月総会時に発表） ●学会誌第 25 巻第 1 号（2021 年 9 月）	
30	①2018 年度	特別支援学校における養護教諭の専門性に関する研究
	③野田智子（代表者）、鎌田尚子	
	＊肢体不自由特別支援学校養護教諭の養護実践にみる専門性の検討、第 27 回学術集会（中止により 2019 年 12 月に発表） ●投稿打診中	
31	①2019 年度	②テーマ：くびき野式事例検討法の開発及びその活用に関する研究
	③角田智恵美（代表者）、大塚純子、堀川敏子	
	＊くびき野式事例検討法の有用性と課題、第 28 回学術集会（2020 年 10 月） ●投稿済	
32	①2020 年度	②テーマ：高等学校における複数配置の養護教諭間に生じる課題解決についての一考察 ～情報の共有と判断の一致に向けて
	③丸山範子（代表者）、山崎 隆恵、今富 久美子	
	＊高等学校における複数配置の養護教諭間に生じる課題解決の工夫―情報の共有と判断の一致に向けて―、第 29 回学術集会（2021 年 11 月） ●学会誌第 26 巻第 1 号（2022 年 9 月）	
33	①2021 年度	②テーマ：危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援－新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに－
	③坂井三代子（代表者）、畠中恵実、黄木寺由貴、加藤晃子、後藤 ひとみ	
	＊危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援－新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに－、第 30 回学術集会（2022 年 12 月） ●投稿準備中	
34	①2022 年度	②テーマ：教員育成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発
	③平井美幸（代表者）、橋弥あかね、本田史歩、森田英嗣	

※ 2013 年度分までは、20 周年記念誌に掲載された一覧表と同じ内容である。
※「③研究メンバー」も、2013 年度分までは 20 周年記念誌のまま、学会発表の抄録または学会誌の論文に記載された人とした。

2）投稿奨励研究

「投稿奨励研究」の制度は、学術集会で発表された演題から 2 題以内を選定し、発表者に学会誌への投稿を薦めるもので、査読費用が免除され、学会誌掲載時には投稿奨励研究であることを明記する。選定は、学術集会の学会長、座長および理事による推薦を受け理事会で決定する。この内規は 2009 年度総会で承認され、2010 年度の第 18 回学術集会から選定が行われている。

以来、第 30 回学術集会まで 12 回の学術集会があり、計 18 演題に対して投稿を奨励した。残念なことに第 26 回（2018年度）と第27回（2019年度）は台風の影響で一般演題が誌上発表となり、選定ができなかった。また、第28回（2020年度）は感染防止のためオンラインによる演題発表を初めて行ったが、推薦意見が分かれ選定が困難であった。しかし第29回・第30回では従来同様に選定を行うことができた。

投稿を奨励した 18 題のうち、学会誌に掲載されたのは 9 題である。近年選定されたものを除き、学会誌への投稿・掲載に至らないまま 5 年以上経過したものが 4 題あるのが大きな課題である。もとより投稿奨励研究は投稿を義務付けるものではないが、可能な限り学会誌に論文として掲載されることが望ましい。一方で投稿奨励研究は、特に現職養護教諭による研究の推進をめざすことが趣旨のひとつとなっており、18題のうち16題が現職養護教諭（発表当時）による発表である。未投稿の 4 題の発表者はいずれも当時は現職養護教諭であった。その意味

では、投稿・掲載に至るまでの丁寧な支援が必要であると考えられる（表 10・表 11 参照）。

これに関連して 2012 年度理事会で次の 2 点の課題が検討されたことがある。1 つ目は何を奨励しているかわかるように「学会誌投稿奨励研究」という名称のほうがよいのではないかとの指摘である。この名称は、結局そのまま変更せず定着してきた感がある。2 つ目の課題は、研究指導と査読の関係である。当時、発表者の意向を受け、必要に応じて理事等が研究指導を行うことがあったが、査読との関連が曖昧であった。指導助言と査読者の意見が異なる可能性もあるため、理事等が指導助言し査読に回さない論文区分も検討されたが、課題も多く見送りとなった。指導者がいる場合は指導者の助言を受けるよう促し、現在に至っているが、学会 HP に掲載しているアドバイザー制度の活用と合わせて、今後も現職養護教諭の研究を支援するための方策について検討が必要である。

表 10　投稿奨励研究一覧

学術集会	No.	①：発表演題　②：発表者　●：投稿・掲載状況
第 18 回（2010 年度）	1	①健康相談活動における心理的・社会的アセスメントを重視した支援の有効性に関する一考察
		②池川典子、菊池美奈子、徳山美智子
		●学会誌第 15 巻第 2 号（2012 年 3 月）原著「健康相談活動における心理・社会的アセスメントとその支援の有効性に関する研究―言語によるコミュニケーションが可能な知的障がいや発達障がいのある生徒への支援を通して―」
	2	①養護教諭と生徒指導部の連携における現状と課題第 2 報―いじめ、暴力行為、性暴力の加害生徒支援を中心に―
		②鈴木秀子、菊池美奈子、元田綾子、池川典子、北垣ひなこ、徳山美智子
		●学会誌第 16 巻第 1 号（2012 年 9 月）原著「養護教諭と生徒指導部の連携における 18 事例からみえる現状と課題―いじめ、暴力行為、性暴力の加害生徒支援を中心に養護教諭の視点から―」
第 19 回（2011 年度）	3	①医薬品教育への養護教諭の関わりについて―養護教諭の専門性や保健室の機能を活かした授業実践―
		②香田由美・鬼頭英明
		●学会誌 17 巻第 2 号（2014 年 3 月）資料「医薬品の教育への養護教諭の関わりの検討―養護教諭の役割を生かした保健指導の実践から―」
	4	①学校で起きるけがのアセスメント―保健室で使えるチェックシート―
		②岩井逸子、古屋美雪、仙むつみ、濱出陽子
		●学会誌第 20 巻第 1 号（2016 年 9 月）資料「外傷における養護教諭の判断に関する研究―ノンフィジカル要因に焦点を当てて―」
第 20 回（2012 年度）	5	①学級担任が行う朝の健康観察に関する研究
		②田邉恵子
	6	①幼稚園に勤務する養護教諭の職に関する―考察　―幼稚園教諭のインタビューから―
		②米野吉則、大平曜子
第 21 回（2013 年度）	7	①「連携プロセス」からみた養護教諭のかかわりの検討～学校不適応行動を示す生徒の事例を通して～
		②強力さとみ
		●学会誌第 20 巻第 2 号（2017 年 3 月）実践報告「学校不適応生徒の事例分析による『連携プロセス』における養護教諭の関わり」
	8	①養護教諭のコーディネーション行動に関する研究
		②中田好美、秋光恵子
第 22 回（2014 年度）	9	①中学校における心の健康教育に関する養護教諭の実践検討
		②世一和子

		●学会誌 19 巻第 1 号（2015 年 9 月）実践報告「中学校の心の健康教育における養護教諭の実践過程」
	10	①「子ども虐待防止の実践力」を育成する養護教諭養成の在り方
		②北口和美、岡本正子
		●学会誌第 20 巻第 1 号（2016 年 9 月）原著「子ども虐待防止の実践力」を育成する養護教諭養成教育の検討 ―養護教諭と教諭の子ども虐待対応の比較を通して―」
第 23 回 （2015 年度）	11	①校内研修での養護教諭の役割と研修の視点
		②米井美紀子
第 24 回 （2016 年度）	12	①生活習慣の定着に向けて実践できる力を育む保健教育のあり方についての一考察～養護教諭が中核的な役割を担う保健指導を通して～
		②本岡千草、宮本香代子
		●学会誌第 23 巻第 2 号（2020 年 3 月）実践報告 「生活習慣の定着に向けて実践できる力を育む学校保健活動のあり方についての一考察 ―養護教諭が行った集団を対象とした保健指導を通して―
第 25 回 （2017 年度）	13	①養護教諭養成課程に在籍する学生の養護教諭志向に関する意識変容プロセス
		②今優佳、工藤宣子
		●学会誌第 24 巻第 1 号（2020 年 9 月）調査報告 「教育学部養護教諭養成課程に在籍する学生の養護教諭志向に関する意識変容プロセス」
	14	①他者からの評価がキャリア発達に及ぼす影響―「公開と批判」の経験から―
		②酒井都仁子、佐々木清美、石﨑恵理子、中村奈津代、村越カホル、大崎久美子、中村美千代、今優佳、木村愛、荷見さつき、吉野晴香、石上真弓
		●投稿済
第 26 回 （2018 年度）		誌上発表となったため選定せず
第 27 回 （2019 年度）		誌上発表となったため選定せず
第 28 回 （2020 年度）		該当なし
第 29 回 （2021 年度）	15	①養護教諭が解決志向アプローチの技法を自分自身に用いることの可能性 ―『例外探し』をもとにしたロールプレイ研修を通して―
		②安田祥子
	16	①小学校養護教諭の困難感からみた不登校支援の探究
		②三宅なつみ、平井美幸
第 30 回 （2022 年度）	17	①自分なりのウェルビーイングを実現できる生徒の育成―養護教諭による健康力を高めるための実践を通して―
		②杉浦なお実、浅田知恵
	18	①インタビュー調査からみえた小学校養護教諭のヤングケアラーへの対応の課題
		②辻京子、西岡かおり、中岡泰子

表 11　投稿奨励研究の選定と学会誌掲載の状況

選定年度	10	11	12	13	14	15	16	17	21	22
選定数	2	2	2	2	2	1	1	2	2	2
現職養護教諭による発表（内数）	2	2	2	2	1	1	1	2	2	1
学会誌掲載数	2	2	0	1	2	0	1	1	―	―

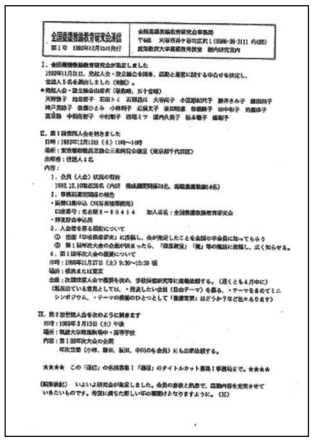
Ⅳ　学会の事業

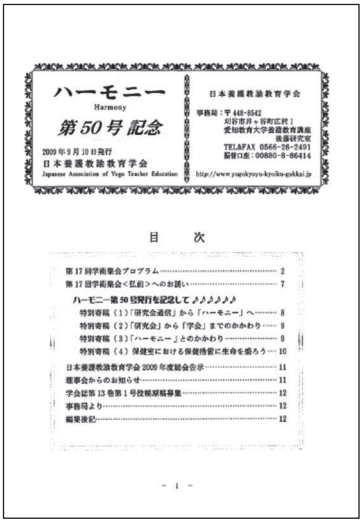
３．会員への情報提供と交流支援

３．会員への情報提供と交流支援

１）ハーモニーのあゆみ

日本養護教諭教育学会の機関紙「ハーモニー」は、その前身となる「全国養護教諭研究会通信」から始まり、第 90 号（2023 年 2 月 20 日）まで発行されている。「ハーモニー」という名称は、会員から募集した意見の第 1 位（2 位 : はぐくみ、3 位 : はばたき）ということで第 4 号（1994 年 1 月 22 日発行）から使用している。なお、機関紙としてタイムリーな情報提供が目的であることから、学会ホームページには 1992 年創刊号から最新号までが閲覧できるようになっている。





ハーモニーの記載内容は、おおよそ①学術集会や助成金研究の報告など「学会の各種事業に関する報告」、②ホットニュースやトピックスなど「タイムリーな情報の提供」、③会員の声や特別企画など「会員の実践や大学・地域の特色の周知」、④検討事項に関する「会員意見の募集」、⑤総会開催や会費納入など「諸連絡」に大別される。

これまでの特別企画は、①私の県の「ここが特色」、②「私の実践と研究」リレー・リポート、③東日本大震災を経験して－災害地の今－や新シリーズ「災害について考える」の 3 テーマである。第 79 号からは「会員交流」のコーナーがスタートし、会員同士の対談記事や学会への思いなどの声が紹介されるようになり、様々な立場（養護教諭、養成、行政、学生）からの学会への思いやメッセージが溢れ、ハーモニーをより身近に感じるものとなっている。

なお、第 1 号から第 60 号までは「学会設立 20 周年記念誌」にまとめられているため、その様式に準じて、ここではそれ以降の 10 年間（第 61 号から第 90 号まで）の掲載内容を表 12 にまとめた。「トピックス」は、教育再生実行会議、中央教育審議会答申、養護教諭関係団体連絡会、これからの養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議、関係の法改正など、養護教諭にとって重要な内容をタイムリーにわかりやすく解説している。記載内容は最新の動向の中でも、子どもの健康に関することや養護教諭の職務に関する国の動向やその動きに対することであり、会員へのメッセージの発信という感がある。「学会の事業に関する報告記事」は、学術集会に関する内容、総会報告、助成金研究に関することが主な内容となっている。特に第 84 号（2020 年 12 月 20 日発行）では、「一般社団法人」として学会が新たな一歩を踏み出したことが報告されている。

以上のような内容から、ハーモニーは、学会の機関紙として会員への情報発信や情報提供のツールとしての役割を果たしていること、また、会員相互の情報共有や交流の場としての機能を担っていることがわかる。加えて、学会の歴史的資料としての価値を有している。これからも、ハーモニーからの一方向の発信ではなく、会員一人ひとりの意見を捉えられる機関紙であることが望まれる。「ハーモニー」の名のように、会員の声や思いが調和し、

響き合うような場となり、さらに学会と社会をつなぐ役割を担っていくことが今後も期待される。

表 12　ハーモニー（第 61 号～第 90 号）掲載記事の概要一覧

号	発行年	トピックス	特別企画	学会の事業に関する報告記事
61	2013.6	・「生きる力」を育む小学校保健教育の手引きが発行されました	・私の県の「ここが特色」⑯連携をより深め、ともに復興へ ・特別企画「東日本大震災を経験して－被災地の今－」③福島の海や農業が元に戻る日はあるのでしょうか？	・2013 年度の学会事業について ・参加報告「実践的指導力のある教員養成－大学基準協会と文科省課程認定」 ・2013 年度「研究助成金研究」の経過報告「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育の系統的指導計画の開発と評価－健康教育実践における養護教諭のマネジメント力向上の検証－」、「養成大学における養護教諭初任者支援研修プログラム開発」
62	2013.9	・「男性養護教諭友の会」を紹介します！	・「私の実践と研究」リレー・レポート⑭養護教諭の実践を研究すること ・「東日本大震災を経験して－被災地の今－」④本校の現状と今後に向けて	・第 21 回学術集会（神戸）のお誘いと企画紹介、プログラム ・第 21 回学術集会プレコングレス企画「今、改めて『養護教諭の倫理綱領』について考える－専門職としての資質向上を目指して－ ・学会活動委員会の取り組みについて
63	2013.12		・私の県の「ここが特色」⑰長野県養護教諭研究協議会について ・「東日本大震災を経験して－被災地の今－」⑤災害時における養護の機能を統合し探求する	・第 21 回学術集会（神戸）の報告 ・第 21 回学術集会プレコングレス報告「今、改めて『養護教諭の倫理綱領』について考える－専門職としての資質向上を目指して－」
64	2014.6		・「私の実践と研究」リレー・レポート⑮養護教諭の実践を支える研究 ・「東日本大震災を経験して－被災地の今－」⑥福島相馬地方の今	・2014 年度の学会事業について ・学会活動委員会の取り組みについて ・2014 年度「研究助成金研究」の経過報告「小・中学校における食物アレルギー児童生徒対応のための校内支援体制の構築－応急処置体制に対する教師の意識調査からの検討－
65	2014.9		・私の県の「ここが特色」⑱岡山県学校保健会養護教諭部会の活動について ・「東日本大震災を経験して－被災地の今－」⑦岩手の今－災害地に勤務する養護教諭との会話から－	・第 22 回学術集会（千葉）のお誘いと企画紹介、プログラム ・第 22 回学術集会プレコングレス企画「『養護教諭の資質向上・力量形成』に係わる教育内容に関する検討」 ・学会活動委員会の取り組みについて
66	2014.12		・「私の実践と研究」リレー・レポート⑯保健室から実践を重ねて創造する健康教育 ・「東日本大震災を経験して－被災地の今－」⑧茨城県も被災地	・第 22 回学術集会（千葉）の報告 ・第 22 回学術集会プレコングレス報告「『養護教諭の資質向上・力量形成』に係わる教育内容に関する検討」 ・養護教諭の倫理綱領に関する検討について（報告）
67	2015.6	・教育再生実行会議「これからの時代に求められる資質・能力と、それを培う教育、教師の在り方について（第七次提言）（平成 27 年 5 月 14 日）」	・私の県の「ここが特色」⑲理論と実践をつなぐ研究と研修 ・新シリーズ「災害について考える」①声なきものの声	・新理事長挨拶「学会の発展を目指した第Ⅶ期理事会の取り組み」 ・新理事抱負
68	2015.9	・中央教育審議会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中間まとめ）（平成 27	・「私の実践と研究」リレー・レポート⑰研究の楽しさがめばえるとき・・・ ・「災害について考える」②突然	・第 23 回学術集会（熊本）のお誘いと企画紹介、プログラム ・第 23 回学術集会プレコングレス企画「養護教諭の資質能力向上に関する教育内容の検討」

		年7月16日）への意見募集	の災害で	・学会活動委員会の取り組みについて
69	2015.12	・中央教育審議会　初等中等教育分科会の審議状況について	・私の県の「ここが特色」⑳新潟県、ここが特色 ・「私の実践と研究」リレー・レポート⑱School Nurse International Conference 参加報告	・第23回学術集会（熊本）の報告 ・第23回学術集会プレコングレス報告「養護教諭の資質能力向上に関する教育内容の検討」
70	2016.6	・中央教育審議会答申に基づく施策にむけた「養護教諭関係団体連絡会」の取り組み	・「私の実践と研究」リレー・レポート⑲「私の研究と実践」研究することで成長したい ・「災害について考える」③熊本地震発生から一か月	・2016年度学会活動報告
71	2016.9	・養護教諭関係団体連絡会の取り組みについて（報告）	・私の県の「ここが特色」㉑仲間同士、未来を見据え、力量アップをめざす ・「災害について考える」④熊本地震発生から四か月過ぎた今・・・	・第24回学術集会（北海道）のお誘いと企画紹介、プログラム ・第24回学術集会プレコングレス企画 ・2016年度「研究助成金研究」の経過報告「養護教諭養成教育における養護の本質を理解するための教育プログラムの開発（仮）」
72	2016.12	・「これからの養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」および養護教諭養成における専門科目等の議論について（報告）	・私の県の「ここが特色」㉒鹿児島県、ここが特色 ・「災害について考える」⑤熊本地震発生から7か月－加配養護教諭の立場から－	・第24回学術集会（北海道）の報告 ・第24回学術集会プレコングレス報告「『養護教諭の倫理綱領』における養護実践基準を考える－専門性を生かした実践の検討を通して－」
73	2017.6	・報告書「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～」の発行 ・パブリックコメントの意見募集 ・「教育課程コアカリキュラム案」について、「小学校学習指導要領、中学校学習指導要領の改定に伴う移行措置案」について	・私の県の「ここが特色」㉓養護教諭への期待と広がる活動の場 ・「私の実践と研究」リレー・レポート⑳養護教諭研修会によるネットワークづくり	・2017年度学会事業について、委員会等の活動について ・2017年度助成金研究経過報告「養護教諭の複数配置に関する養成機関での授業モデル研究」
74	2017.9	・パブリックコメントの報告 ・「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令への意見」について	・私の県の「ここが特色」㉔養護教諭会と共に歩んで ・「私の実践と研究」リレー・レポート㉑国際スクールナース学会(SNI)から見えたこと	・第25回学術集会（金沢）のお誘いと企画紹介、プログラム ・第25回学術集会プレコングレス企画「教育改革の中で、改めて養護教諭のこれからを考える」
75	2017.12	・「教員職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令」の公布	・「私の実践と研究」リレー・レポート㉒私の研究の樹－養護実践が根となり養成教育が幹や枝葉になる－ ・「災害について考える」⑥災害支援論の授業を通して考える	・第25回学術集会（金沢）の報告 ・第25回学術集会プレコングレス報告「教育改革の中で、改めて養護教諭のこれからを考える」 ・2018年度研究助成金研究の選定報告
76	2018.6	・文部科学省「平成29年度特別支援学校等の医療的ケアに関する調査結果について」	・「私の実践と研究」リレー・レポート㉓養護教諭として育つ道すじ ・「災害について考える」⑦災害なにをどう伝えるか	・新理事長挨拶－次世代を見据えた礎づくりを－ ・第Ⅷ期新理事挨拶

77	2018.9	・文部科学省「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」（中間まとめ）が公表されました	・私の県の「ここが特色」㉕千葉市教育研究会保健養護部会に入って	・第 26 回学術集会（兵庫県赤穂市）のお誘いと企画紹介、プログラム ・プレコングレスの企画と実施「改めて、養護教諭の倫理綱領を学びあう」 ・2018 年度「研究助成金研究」進捗状況の報告「肢体不自由特別支援学校養護教諭の養護実践に見る専門性の検討」
78	2018.12		・新「私の実践と研究」①養護実践と研究の架け橋－養護教諭の倫理綱領－	・第 26 回学術集会（兵庫県赤穂市）の報告 ・第 26 回学術集会プレコングレス報告「改めて、養護教諭の倫理綱領を学びあう」 ・学会事業報告　1）「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集〈第三版〉」の作成に向けた検討について（要旨）、2）「養護教諭の倫理綱領」第 13 条における養護実践基準の検討について（要旨）、3）日本養護教諭関係団体連絡会への取組について（報告）
79	2019.6	・文部科学省「学校における医療的ケアの今後の対応について」（通知）が公表されました	・「会員交流」①初めての学会発表	・2019 年度学会事業について－教育改革・教員改革を見据えて－ ・2018 年度学会事業報告
80	2019.9		・「新・私の実践と研究」②大学院での研究成果を養護教諭としてどう生かすか	・第 27 回学術集会（神奈川県横浜市）のお誘いと企画紹介、プログラム ・第 27 回学術集会プレコングレスのご案内 ・2018 年度「研究助成金研究」発表の案内「肢体不自由特別支援学校養護教諭の養護実践に見る専門性の検討」 ・日本養護教諭関係団体連絡会の 2019 年度の活動状況について（報告） ・2019 年度「研究助成金研究」の進捗状況（報告）「くびき野式事例検討法の有用性と課題」
81	2019.12		・「自然災害と養護教諭」－令和元年度台風 19 号を経験して－	・第 27 回ミニ学術集会（神奈川県横浜市）の報告 ・養護実践基準の中間報告
82	2020.6			・2020 年度学会事業について－新しい時代につなぐ取組と体制整備－ ・2019 年度学会事業報告 ・2020 年度「研究助成金研究」の報告「高等学校における複数配置の養護教諭間に生じる課題解決についての一考察～情報の共有と判断の一致に向けて～」
83	2020.9		・会員交流②養護教諭から養護教諭養成の立場へ－伝えたい思い－（対談）	・第 28 回学術集会（熊本県）へのお誘いと企画紹介、プログラム ・2020 年度「研究助成金研究」の進捗報告「高等学校における複数配置の養護教諭間に生じる課題解決についての一考察～情報の共有と判断の一致に向けて～」 ・【活動報告】文部科学省のパブリックコメントへの意見提出
84	2020.12	・「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～		・第 28 回学術集会（熊本県・オンライン学会）報告 ・2021 年度「研究助成金研究」の選定報告「危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援－新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに－」 ・日本養護教諭関係団体連絡会の取組について

				（報告）
85	2021.6		・「新・私の実践と研究」③学級集団づくりの促進を目指した担任支援	・2020 年度学会事業の中間総括「一般社団法人化に伴う移行措置と今後の運営体制整備に向けて」 ・2020 年度委員会活動の中間総括
86	2021.1	・『学校教育法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）』		・第 29 回学術集会（徳島県・オンライン学会）へのお誘いと企画紹介、プログラム ・2021 年度「研究助成金研究」の進捗報告「危機管理として養護教諭が行う特別な配慮を必要とする児童生徒への支援－新型コロナウイルス感染症への対応の振り返りをもとに－」 ・【活動報告】文部科学省のパブリックコメントへの意見提出
87	2022.2	・「教育未来創造会議」の設置について ・「学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議」について		・新理事長挨拶「一般社団法人となった日本養護教諭教育学会の本格始動に向けて」 ・新理事・新監事挨拶 ・第 29 回学術集会（徳島県・オンライン学会）報告 ・2022 年度「研究助成金研究」の選定「教員養成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発」
88	2022.6		・【会員交流】保健室でのあの「一言」 ・「新・私の実践と研究」④修学旅行における保健教育の実践	・学会設立 30 周年記念事業の企画等について ・各委員会の活動報告 ・日本養護教諭関係団体連絡会の取組について（ご報告）
89	2022.11	・「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」が公表した『議論の整理』について	・会員交流③学校現場での体験的な学びで育つ	・第 30 回学術集会（北海道・ハイブリッド学会）へのお誘いと企画紹介、プログラム ・学会設立 30 周年記念事業について ・2022 年度「研究助成金研究」の進捗報告「教員養成指標に基づく養護教諭のミドルリーダーコンピテンシー・モデルの開発」
90	2023.2	・「こども基本法」の施行について ・デジタルテキスト「生徒指導提要（改訂版）」の公表 ・調査研究協力者会議の「議論の取りまとめ」の公表	・会員交流④大学教員に着任して	・第 30 回学術集会（北海道・ハイブリッド開催）報告 ・第 31 回学術集会（新潟・ハイブリッド学会）のご案内（第 1 報） ・学会設立 30 周年記念事業について

2）プレコングレスの開催

プレコングレスには、コングレス（大会・会議等）の前という意味があり、本学会で は第 15 回学術集会（2007 年・札幌市）から開催するようになった。最初は、ハーモニーで会員からの企画を募集したが、要望がなかったために理事会主催で「『養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第二版＞』（2007 年 3 月 26 日発行）に関する意見交流」と山崎理事による「養護教諭をめぐる現代的課題についての意見交流」を行った。学術集会受付前の午前中にもかかわらず予想以上の参加者があり、内容も大変好評であったことから、次年度以降は実行委員会に会場提供をお願いし、理事会企画で運営することにした。第 15 回から第 19 回まで続き、第 20 回は学会設立 20 周年記念式典のため開催しなかったが、第 21 回以降は下表のとおりである。

毎回、できるだけ時勢をふまえたテーマで企画すること、グループワークを入れるなどして参加者間の意見交流や意見共有に努めることを意識して行い、その実施報告はハーモニー（学会 HP に全号全ページ掲載）にまと

めてある。

第27回は台風のため中止となり、第28回～第30回は新型コロナウイルス感染症のためオンラインに不慣れな中での学術集会開催となり、プレコングレスの企画を見送ることになった。今後は、複数テーマでの開催も考えながら、参加された皆さんにとって有意義な企画を考える必要がある。

3）理事会主催のワークショップ等の開催

① 学術集会における理事会主催によるWS

プレコングレスの開催から8年遅れて、第23回学術集会（2015年・熊本市）で初めて理事会主催のWSを行った。研究のしかたや論文の書き方、実践を研究的にまとめる方法などに関する問い合わせがあったことを契機として、これらの疑問に答え、スキルアップしていただくようなワークショップの場を設けることにした。

学術担当や編集担当の理事による3年連続の開催は好評であったが、第25回以降は理事会として全体会で「養護教諭の倫理綱領」第13条の養護実践基準に関する検討報告を行うことになり、WSの企画には至らなかった。また、第28回から第30回は新型コロナウイルス感染症のためオンライン開催となり企画できなかった。今後は、コロナ禍の経験を生かし、postコロナやwithコロナに適応した新たな企画や実施方法を考える必要がある。

学術集会	テーマ （実施報告したハーモニー）	世話人等
第21回 （2013.10.12・神戸市）	今、改めて「養護教諭の倫理綱領」について考える －専門職としての資質向上を目指して－ （ハーモニー第63号）	○理事会 ○養護教諭の倫理綱領検討特別委員会 ＊参加者：106名
第22回 （2014.10.11・千葉市）	『養護教諭の資質向上・力量形成』に関わる教育内容に関する検討 （ハーモニー第66号）	○理事会 ＊参加者：93名
第23回 （2015.10.10・熊本市）	養護教諭の資質能力の向上について （ハーモニー第69号）	○理事会 ○学会活動「養護教諭の資質能力向上検討WG」 ＊参加者：53名
第24回 （2016.10.8・江別市）	「養護教諭の倫理綱領」における養護実践基準を考える －専門性を生かした実践の検討を通して－ （ハーモニー第72号）	○理事会 ○学会活動委員会 ＊参加者：85名
第25回 （2017.10.7・金沢市）	教育改革の中で、改めて養護教諭のこれからを考える （ハーモニー第75号）	○理事会 ○学会活動委員会 ＊参加者：36名
第26回 （2018.9.29・赤穂市）	改めて、養護教諭の倫理綱領を学び合う （ハーモニー第78号） 【台風のため翌日は開催中止】	○理事会 ○学会活動委員会 ＊参加者：27名
第27回 （2019.10.12・横浜市）	「養護実践基準について語り合う」 【台風のため学術集会の開催中止】	○理事会 ○学会活動委員会

② 理事会主催による研修会

2020年度事業計画にある「養護教諭がつかさどる養護の学問構築に向けた検討WGの設置に関する検討」を進めるなかで、WG設置の前に「養護」に関する研修会を開催して今後の取り組みについて考えていきたい旨の意見が出された。そこで、オンラインによる「養護に関する研修会」を3回開催し、養護の学問構築に向けた検討課題を捉えることとした。

なお、講師であったお二人のお考えについては、後日、学会誌第25巻第2号にご寄稿いただいたので、養護

や養護学を考える際の参考にしていただきたい。

養護に関する研修会	テーマ	講師・内容等
第１回	＜講演＞ 「養護」の探究－筆者の 50 年間の歩みを振り返る	○講師：大谷尚子氏（本学会第２代理事長） ○著書『養護ってなんだろう』や『養護教諭覚え書「養護教諭」の基礎基本』などで、養護とは何かを述べていらっしゃるので、先生が考える「養護」について学ぶ。 ●学会誌第 25 巻第２号に「特別寄稿」を掲載
第２回	＜鼎談＞ スクールナースの役割等をふまえて養護教諭の専門性と機能を探る	○鼎談者：後藤ひとみ（本学会理事長） 鈴木　裕子（学術担当常任理事） 鎌田　尚子（本学会第Ⅳ期理事） ○第１回の講演と第３回の講演をつなぐ意味で、改めて養護教諭の専門性や機能について考える。その際の参考として、諸外国で配置されている類似職と言えるスクールナースを話題にするが、養護教諭とスクールナースの比較を行うものではない。養護教諭らしさとは何かが見えてくることを期待している。
第３回	＜講演＞ 「精神保健福祉学の構築」からの学び	○講師：大西次郎氏（大阪市立大学、現・大阪公立大学） ○著書『精神保健福祉学の構築 精神科ソーシャルワークに立脚する学際科学として』において、学際科学である「精神保健福祉学」の構築過程を述べていらっしゃるので、そこから学問構築への示唆をいただく。 ●学会誌第 25 巻２号に「巻頭言」を掲載

4）パブリックコメント等の提出

本学会が歴代の理事長名で国や関係機関に提出した要望書等のうち、2000 年 9 月 9 日から 2012 年 5 月 15 日提出までのものは「学会設立 20 周年記念誌」に掲載されているので、学会 HP をご覧いただきたい。ここでは、それ以後の提出状況を簡単に報告するが、内容の詳細は学会 HP で全文公開を予定している既刊学会誌にてご確認願いたい。

＜本学会から提出した要望書等＞

● 学会誌 Vol.18-No.1、74-75 掲載 「大学院に専攻ごとに置くものとする教員養成分野の教員数に係る告示改正に関するパブリックコメント（意見募集手続）」に対して提出した意見 ・平成 26 年 10 月 1 日「教員養成分野における告示改正への意見」
● 学会誌 Vol.19-No.2、114-126 掲載 「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方について」の審議に関して提出した意見 ・2015 年 9 月 18 日教員養成部会「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（中間まとめ）」に対する本学会の意見 ・2015 年 11 月 14 日「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について（答申案）」に対する本学会の意見 ・2015 年 11 月 19 日馳文部科学大臣への要望書「養護教諭の養成・採用・研修の充実にむけて（要望）」 ・2015 年 12 月 2 日「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」（答申（素案））への本学会の意見

● 学会誌Vol.21-No.2、127-134掲載
「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令案」に対する本学会の意見
・2017年6月25日「教職課程コアカリキュラム案」への意見
・2017年8月25日「教育職員免許法施行規則及び免許状更新講習規則の一部を改正する省令案」への意見

＜日本養護教諭関係団体連絡会として提出した要望書等＞

本学会が呼びかけて2015年11月に再結成した日本養護教諭関係団体連絡会において2018年度末まで幹事団体・事務局を務め、本学会の理事長を会長として複数の要望書を提出した。

また、養護教諭を所掌する文部科学省の健康教育・食育課及び教職員課（現在の教育人材政策課）との持続的な協議の場を作ることに尽力し、同連絡会がヒアリングの対象になり得る組織として認められるという成果をもたらした。

〇文部科学省「これからの養護教諭・栄養教諭の在り方に関する検討会議」に連絡会会長が出席
→『現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～』（2017年3月発行）
〇文部科学省「養護教諭及び栄養教諭の資質能力の向上に関する調査研究協力者会議」に連絡会会長が出席
→『議論の取りまとめ』（2023年1月公表）

本学会から提出した上記パブリックコメントや要望書のほとんどは、連絡会からもほぼ同様の内容で提出している。ここに、理事長が同連絡会会長名で提出した要望書の一部を紹介する（詳細は、学会誌に掲載ずみ）。

1）文部科学大臣あて（2015年11月19日）
専門性をふまえた研修計画の策定と実施についての明示などを要望
2）文部科学大臣あて（2016年5月30日）
「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（答申）にある教諭の改善方向に準じた養護教諭の専門性の担保や養護教諭養成カリキュラムの総単位数等について要望
3）文部科学省初等中等教育局長と大臣官房審議官に対して手渡しで提出（2016年8月31日）
これからの養護教諭の養成および研修等の改善について要望
4）文部科学大臣あて（2016年9月16日）
養護教諭の教職課程にかかわる単位数や専門科目内容及び課程認定等の抜本的な見直し、養護教諭の研修を教諭と同等に法制上で保証することなどを要望
5）前文科大臣の馳衆議院議員に対して手渡しで提出「（2016年9月16日）
子供の健康危機への対応を担う養護教諭の養成及び研修等の改善について要望
6）文部科学省 初等中等教育局長あて（2017年3月3日）　養護教諭の教職課程に関わる省令改正に向けた早期の調査研究と協議や「養護教諭の資質能力調査研究会議」の設置などを要望

V　学会設立 30 周年記念事業

本学会は、昨年11月に前身である全国養護教諭教育研究会の設立（1992年11月）から丸30年が経ったことから、理事会と総務委員会・広報委員会による学会設立 30 周年記念事業実行委員会（メンバーは本記念誌の末尾に記載）を組織し、記念集会の開催や記念誌の発行等に取り組んできた。本稿では、第30回学術集会（2022年12月3日（土）～4日（日）・札幌市）において行った学会設立30周年記念集会を中心に報告する。

１．記念集会の開催

１）記念式典

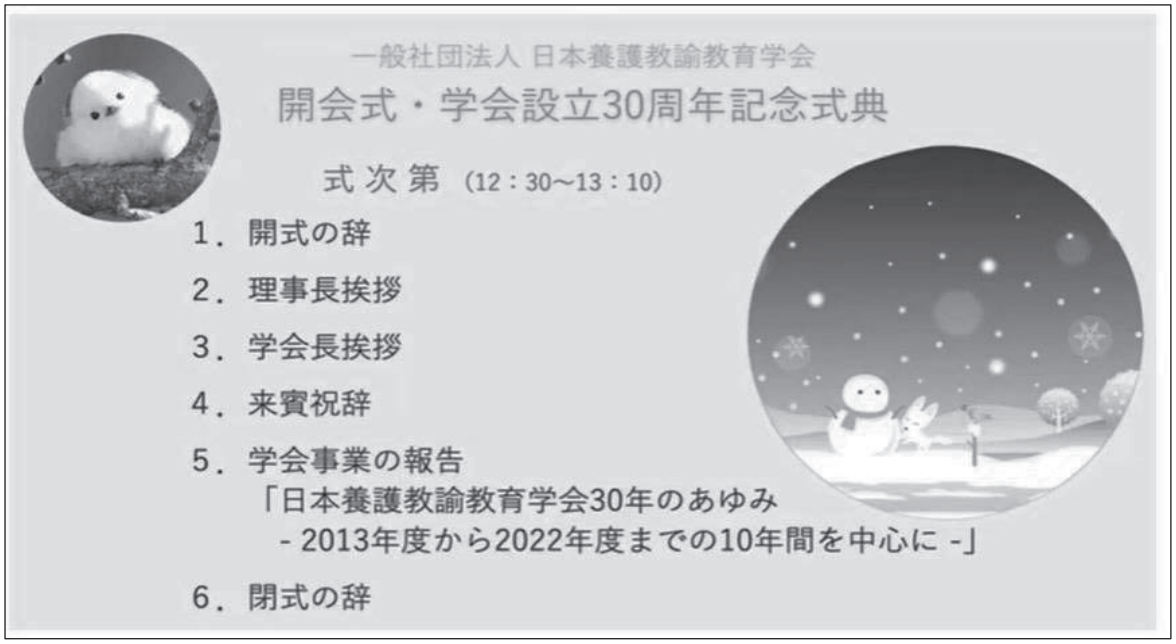
12 月 3 日（土）12：30～13：10 に、札幌市教育文化会館小ホールでハイブリットにて開催された。

司会は岩崎和子委員が務めた。会場である小ホールには、実行委員、学生ボランティアを含め 150 名が参加し、オンライン参加者はおおよそ 150 名であった。後藤ひとみ理事長の挨拶では「養護教諭の職制80年を経た今」は第10回学術集会、第20回学術集会でも掲げたテーマであることの説明があり、山崎隆恵学会長からは3年ぶりの対面での開催（ハイブリット開催）が実現できたことの喜びがあふれる挨拶がなされた。

ご来賓として、国立大学法人北海道教育大学の蛇穴治夫学長、北海道養護教員会の萬徳雅美会長が映像にてご祝辞を述べてくださった。

学会事業の報告として、「日本養護教諭教育学会 30 年のあゆみ－2013 年度から 2022 年度までの 10 年間を中心に－」の報告は、鈴木裕子学術担当常任理事が行った。第26回学術集会（2018 年）は台風で2日目が中止となり一般口演発表ができなかったこと、第 27 回も台風で2日間ともに中止したこと、第 28 回や第29回学術集会は 新型コロナウイルス感染症によりオンライン開催となったことが報告された。また、2019 年度から法人化に向けた定款の作成、規程や内規の整備を進め、2020 年 10 月法務局申請、同年 11 月 6 日に登録が完了し、「一般社団法人日本養護教諭教育学会」の成立となり、2021 年度秋に新しい規程に基づく代議員及び理事候補者の選挙が実施されたことの説明がなされた。

業者委託なしで初めてのハイブリッド開催を行った結果、音声トラブルが生じてしまい、Zoom 参加の方々にご迷惑をおかけすることになった。30周年を機にオンラインでの配信技術を高める必要があると痛感した。



２）特別講演（学会設立 30 周年記念集会・第 30 回学術集会共同企画）

学会設立 30 周年記念式典後、同会場にて 13：20～14：20 に行った。講師は、作家の大門剛明氏をお招きし、「推理作家大門剛明氏からみた養護教諭の世界」と題して講演が行われた。座長は、本学会の後藤ひとみ理事長が務めた。依頼のきっかけは、先生の著書『この歌をあなたへ』（祥伝社、2021 年）の主人公が小学校養護教諭であり、勤務している学校の様子や登場人物とのかかわりが養護教諭目線でとてもリアルに描かれているからである。先生の作品はたくさん映像化されているので、ご講演後のステージで「養護教諭の世界はドラマになりますか？」と伺ったところ、「なると思います。子どもの心への独特のかかわりに興味がもてます。」との言葉をいただき、会場参加者は大拍手であった。ただし、映像化は先生のご判断によるものではないので配信会社の目にとまって実現される日が待ち遠しい。

３）記念展示

12 月 4 日（日）9：00～15：30 まで D 会場（403）で行われた。「発行物にみる本学会の 30 年」と題し、学会の「30 年の歴史」を伝えるために、机上には、第 30 回までの「学術集会抄録集」30 冊、第 89 号までの「機関紙ハーモニー」89 部、第 26 巻第 1 号までの「学会誌」37 冊、第三版までの「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」3 冊、10 年前の「学会設立 20 周年記念誌」1 冊が所狭しと並んだ。30 年という月日の長さを感じ、これらに寄稿してくださった膨大な人数の方々に深い感慨を抱いた。

〈「学術集会抄録集」の展示〉

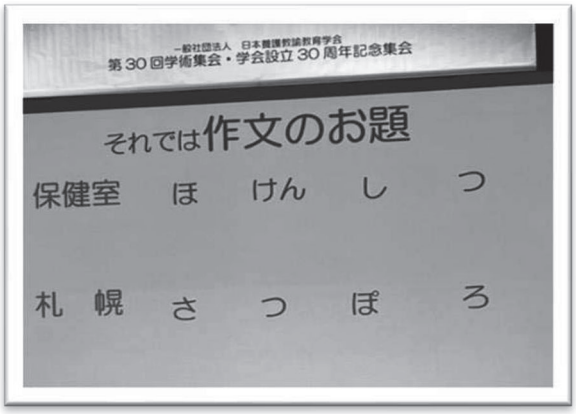
〈「学会誌」「機関紙ハーモニー」「用語の解説集」の展示〉

4）3分スピーチ

30 周年を記念して、会員のスピーチを録画して会場で流すという取り組みを初めて行った。テーマは、「日本養護教諭教育学会の設立 30 周年を迎えて」、「養護教諭へのメッセージ」、「養護教諭としての展望や思い（養護教諭という職への思い）」のいずれかであったが、中には「よく噛もう」を伝えるカミンとカマンの人形が登場して小芝居をするという楽しい動画もあった。展示コーナーの隣で、動画 17 件（約 50 分）を繰り返し放映し、許可されなかった 2 件を除いた動画は期間限定・視聴者限定でオンデマンド配信された。理事会には何度も企画案をはかり賛意を得ていたので、もっと多くの理事に動画提供をしてもらいたかった。とはいえ、初めての試みにもかかわらず、データ提供に協力してくださった方々は楽しそうで、視聴する側には会員の方々の養護教諭や本学会に抱いている思いが伝わってくる良い企画になった。

5）交流会（情報交換会・学会設立祝賀会の代わりに開催）

感染症の蔓延に配慮して、急遽、予約していたホテルでの会食を伴う企画を中止した。しかし、久々に全国から 150 人ほどの人が参集していることを勘案して、第 30 回学術集会実行委員の皆さんが交流会を企画運営してくださった。北海道にちなんで、日本ハムファイターズを応援する「みみカチューシャ」と「しっぽ」をつけて「きつねダンス」を躍った。舞台上の実行委員に、会場の皆様、後藤理事長、山崎学会長に合わせて小ホールの参加者一同が一体となって楽しい時間を過ごすことができた。また、誕生月ごとにチームに分かれて、お題として出された「キーワード」を使ってストーリーを考え発表した。シマエナガの参加賞も用意されていて、久しぶりの対面での会員・参加者との交流は、学会設立 30 周年記念に花を添えた。



〈チームに出された作文のお題〉

〈会場全体で踊った「きつねダンス」〉

2．記念誌の発行

一般社団法人日本養護教諭教育学会「学会設立 30 周年記念事業」 の準備委員会が 2 回、実行委員会が 3 回開かれ、本誌のような記念誌の発行が進められた。

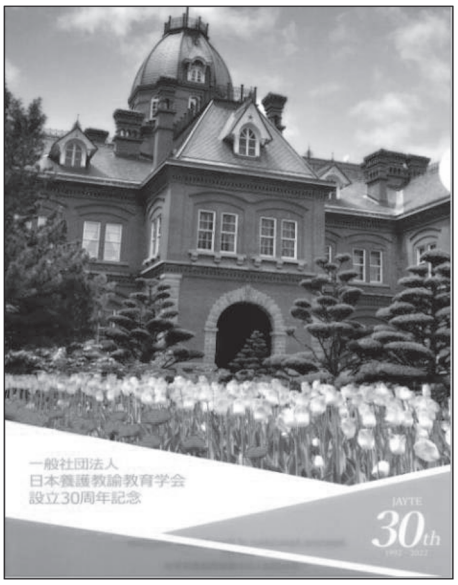
30 周年記念誌編纂のコンセプトは、助成金研究や投稿奨励研究など学会の特性となるような資料を表示し、「今後の展望についてもふれること」をふまえて、「この 10 年の取り組みを振り返ることで、本学会がこれからの発展をめざす上で課題となるような事項を捉え、今後の学会事業の計画・実施に活用する」とした。

具体的には資料提示を精選してわかりやすくし、変遷状況を可視化するなどを心がけた。目次は、本学会 HP に掲載されている「学会設立 20 周年記念誌」を参考にした。よって、本記念誌では、この 10 年の取り組みを中心に振り返ることに加えて、「学会設立 30 周年記念事業」についても掲載し、後世のための記録にすることとした。

３．クリアファイルの作成

学会設立 30 周年を記念して、下のようなクリアファイルを作成した。オモテは第 30 回学術集会抄録集の表紙を思い出せるように類似デザインの「北海道庁」とし、ウラは北海道でのブームが全国に広がりつつある「雪の妖精 シマエナガ」を配した。その下には、2021 年に 80 周年を迎えた養護教諭の職制を意識して、第 30 回学術集会のメインテーマにも掲げた「養護教諭の職制 80 年を経た今」という言葉を記した。

本ファイルは、学術集会の参加登録者には発送または手渡しですでに届けているが、会員の皆様には、本記念誌とともに送らせていただく予定である。少々お待ちいただきたい。



資　　料

1. 役員一覧（2015 年度～現在）
2. 委員会委員一覧（2015 年度～現在）

1．役員一覧（2015 年度～現在）　五十音順・敬称略

1）日本養護教諭教育学会　第Ⅶ期役員（2015～2017 年度）

理事長	後藤ひとみ（愛知教育大学）	
常任理事	古賀由紀子（九州看護福祉大学）総務担当	斉藤ふくみ（茨城大学）編集担当
	鈴木裕子　（国士舘大学）学術担当	三木とみ子（女子栄養大学）学会活動担当
理事	大川尚子　（関西福祉科学大学）	加藤晃子　（滝中学校滝高等学校）
	河田史宝　（金沢大学）	小林央美　（弘前大学）
	塚原加寿子（新潟青陵大学）	宮本香代子（岡山大学）
	森　佳世子（名古屋市立なごや小学校）会計	
監事	佐藤倫子　（札幌市立二条小学校）	津島ひろ江（関西福祉大学）
事務局長	圓岡和子　（愛知県立三好高等学校）	
幹事	稲垣杏奈　（愛知県立西尾高等学校）	岩田　祥　（一宮市立大志小学校）

2）日本養護教諭教育学会　第Ⅷ期役員（2018～2020 年度）

理事長	後藤ひとみ（愛知教育大学）	
常任理事	大川尚子　（関西福祉科学大学）総務担当	小林央美　（弘前大学）学会活動担当
	鈴木裕子　（国士舘大学）学術担当	松永　恵　（茨城キリスト大学）編集担当
理事	今富久美子（神奈川県立上矢部高等学校）※1	加藤晃子　（滝中学校滝高等学校）会計
	上村弘子　（岡山大学）	河田史宝　（金沢大学）
	古賀由紀子（九州看護福祉大学）	塚原加寿子（新潟青陵大学）
	平井美幸　（大阪教育大学）	圓岡和子　（愛知県立三好高等学校）事務局長※2
	三木とみ子（女子栄養大学）	
監事	岩崎和子　（前橋市立天川小学校）	大野泰子　（鈴鹿大学）
幹事	稲垣杏奈　（愛知県立西尾高等学校）	

・任期中の所属等の変更／※1：藤沢工科高等学校、※2：愛知教育大学附属高等学校

3）一般社団法人日本養護教諭教育学会　第Ⅰ期役員（2021～2023 年度）

理事長	後藤ひとみ（愛知教育大学名誉教授）	
常任理事	大川尚子　（京都女子大学）総務担当	鈴木裕子　（国士舘大学）学術担当
	塚原加寿子（新潟青陵大学）広報担当	山崎隆恵　（北海道教育大学）編集担当
理事	浅田知恵　（愛知教育大学）	植田誠治　（聖心女子大学）
	加藤晃子　（滝中学校滝高等学校）事務局長	鎌田尚子　（女子栄養大学名誉教授）
	工藤宣子　（千葉大学）	小林央美　（弘前大学）
	竹鼻ゆかり（東京学芸大学）	徳山美智子（元大阪女子短期大学）
	外山恵子　（愛知県立日進西高等学校）	西岡かおり（四国大学）
	松田芳子　（熊本大学）	宮本香代子（安田女子大学）
監事	河田史宝　（前金沢大学）	古賀由紀子（九州看護福祉大学）

○法人化により、理事の任期は 3 年間 1 年ごとの再任となるため 2023 年度は予定である。

2．委員会委員一覧（2015 年度～現在）　五十音順・敬称略

1）2015～2017 年度／第Ⅶ期役員時

＊学会活動委員会

委員長	三木とみ子（女子栄養大学）
委員	加藤晃子（滝学園滝中学校滝高等学校） 小林央美（弘前大学）　宮本香代子（岡山大学）

＊学術委員会

委員長	鈴木裕子（国士館大学）
委員	河田史宝（金沢大学）　塚原佳寿子（新潟青陵大学）

＊編集委員会

委員長	斉藤ふくみ（茨城大学）
委員	今野洋子（北翔大学）　大川尚子（関西福祉科学大学）　岡本啓子（関西福祉大学） 鎌田尚子（足利工業大学）　北口和美（姫路大学） 築地優子（札幌市立屯田南小学校）　照井沙彩（札幌市立星置東小学校） 中川優子（藤沢市立鵠沼中学校）　西　能代（京都市立北総合支援学校） 平井美幸（大阪教育大学）　松田芳子（熊本大学） 松永　恵（茨城キリスト大学）　山崎隆恵（北海道教育大学）

＊選挙管理委員会（北海道・東北ブロック、関東ブロック選出）2017 年度選挙実施

委員長	中下富子（埼玉大学）
委員	入駒一美（岩手県立一関清明支援学校）　築地優子（札幌市立屯田南小学校） 中川優子（藤沢市立鵠沼中学校）

2）2018～2020 年度／第Ⅷ期役員時

＊総務委員会（2020 年 10 月に新設）

委員長	大川尚子（京都女子大学）
委員	加藤晃子（滝学園滝中学校滝高等学校）　古賀由紀子（九州看護福祉大学） 圓岡和子（愛知県立三好高等学校）

＊学会活動委員会

委員長	小林央美（弘前大学）
委員	上村弘子（岡山大学）　塚原加寿子（新潟青陵大学）　三木とみ子（女子栄養大学）

＊学術委員会

委員長	鈴木裕子（国士館大学）
委員	今富久美子（神奈川県立藤沢工科高等学校）　河田史宝（金沢大学）

＊編集委員会

委員長	松永　恵（茨城キリスト大学）
委員	青柳千春（高崎健康福祉大学）　今野洋子（北翔大学）　加納亜紀（就実大学）

	鎌田尚子（足利工業大学）※1　飯嶋美里（常磐大学高等学校）※2　斉藤ふくみ（茨城大学）※3 田村真由子（大阪市立堀川小学校）　津島愛子（岡山大学）　留目宏美（上越教育大学） 照井沙彩（札幌市立星置東小学校）　中川優子（藤沢市立鵠沼中学校） 中西美貴（札幌市立篠路小学校）※4　平井美幸（大阪教育大学）　山内　愛（岡山大学） 山崎隆恵（北海道教育大学）

・任期中の所属等の変更／※1：女子栄養大学名誉教授、※2：小室美里、※3：関西福祉科学大学、※4：新琴似北小学校

＊選挙管理委員会（中部ブロック、近畿ブロック選出）2020 年度選挙実施

委員長	石田妙美（東海学園大学）
委員	菊池美奈子（梅花女子大学）　髙田恵美子（畿央大学） 森　千鶴（名古屋市子ども適応相談センター）

3）2021～2023 年度／（一社）第Ⅰ期役員時

＊総務委員会

委員長	大川尚子（京都女子大学）
委員	浅田知恵（愛知教育大学）　岩崎和子（前橋市立東小学校）※1　上原美子（埼玉県立大学） 加藤晃子（滝学園滝中学校滝高等学校）

・任期中の所属等の変更／※1：関西福祉科学大学

＊学術委員会

委員長	鈴木裕子（国士舘大学）
委員	籠谷恵（東海大学）　工藤宣子（千葉大学） 中森あゆみ（元武庫川女子大学大学院）

＊編集委員会

委員長	山崎隆恵（北海道教育大学）	
委員	青柳千春（高崎健康福祉大学）　今富久美子（神奈川県立藤沢工科高等学校） 髙田恵美子（畿央大学）　留目宏美（上越教育大学） 中川優子（藤沢市立鵠沼中学校）　西岡かおり（四国大学）　山本訓子（関西福祉科学大学）	
小委員	第１号発行担当	阿久澤智恵子（山梨大学）　浅野法子（前橋市立天川小学校） 石井秀貴（みどり市立笠懸西小学校）　竹田啓子（富岡市立西小学校）
	第２号発行担当	高橋清貴（新潟県立柏崎特別支援学校のぎく分校） 高橋妙子（十日町市立吉田中学校） 土屋史子（妙高市立新井中央小学校）　山上恵美（桐生市立広沢中学校）

＊広報委員会（2021 年 12 月に新設）

委員長	塚原加寿子（新潟青陵大学）
委員	外山恵子（愛知県立日進西高等学校）　平井美幸（大阪教育大学）　三森寧子（千葉大学）

○なお、編集委員会の小委員は法人化後に発刊した学会誌に記載された方のみとなっていますことを申し添えます。

編 集 後 記

2012 年に名古屋のウインクあいちで、第 20 回学術集会と共に学会設立 20 周年記念集会が盛大に開催されてから 10 年が経ちました。この間、第 26 回学術集会（赤穂市／2018 年 9 月 29 日～30 日）の 2 日目、第 27 回学術集会（横浜／2019 年 10 月 12 日～13 日）の 1 日目・2 日目は、台風のため中止となりました。

また、第 28 回（玉名市／2020 年 10 月 10 日～11 日）、第 29 回（徳島市／2021 年 11 月 27 日～28 日）は新型コロナウイルス感染症の蔓延により WEB 開催となりました。

このような中、2020 年 11 月に「一般社団法人日本養護教諭教育学会」となり、2021 年度には定款に基づく初めての選挙で代議員及び理事候補者が選出され、学会設立 30 周年記念事業は新役員体制で、新委員会委員とともに臨んでまいりました。

第 30 回学術集会（札幌市／2022 年 12 月 3 日～4 日）では、学会設立 30 周年記念事業を同時開催し、記念式典での「学会の 30 年の歩み」報告、記念展示会場での発行物「学会誌、機関紙ハーモニー、学術集会抄録集、養護教諭の専門領域に関する用語の解説集、学会設立 20 周年記念誌」の現物展示、会員による「3 分スピーチ」の動画放映を行いました。さらに、本誌「学会設立 30 周年記念誌」の発行作業、「30 周年記念クリアファイル」の作成を行うことで、改めて 30 年にわたる本学会の実績を確認する機会になりました。

本誌の編纂コンセプトは、特にこの 10 年を振り返ることで、本学会の発展をめざす上で課題となるような事項を捉え、今後の学会運営に役立てるというものでした。近年、子どもの健康を守り育む中核的存在と言われるようになった養護教諭には、さらに専門性を高め、リーダー的存在として活躍するような実践と研究が求められると思います。本誌が養護教諭の今後の発展に寄与することを衷心より願っています。

最後になりましたが、関係各位のご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

学会設立 30 周年記念事業実行委員一同

学会設立 30 周年記念事業実行委員会一覧

準備委員兼実行委員	後藤ひとみ（理事長・愛知教育大学名誉教授）★	大川尚子（常任理事・京都女子大学）
	塚原加寿子（常任理事・新潟青陵大学）	浅田知恵（理事・愛知教育大学）★
	岩崎和子（総務担当委員・関西福祉科学大学）★	上原美子（総務担当委員・埼玉県立大学）★
	加藤晃子（理事・滝学園滝中学校滝高等学校）	外山恵子（理事・愛知県立日進西高等学校）★
	平井美幸（広報担当委員・大阪教育大学）	三森寧子（広報担当委員・千葉大学）
実行委員	鈴木裕子（常任理事・国士舘大学）	山崎隆恵（常任理事・北海道教育大学）
	植田誠治（理事・聖心女子大学）	鎌田尚子（理事・女子栄養大学名誉教授）
	工藤宣子（理事・千葉大学）	小林央美（理事・弘前大学）
	竹鼻ゆかり（理事・東京学芸大学）	徳山美智子（理事・元大阪女子短期大学）
	西岡かおり（理事・四国大学）	松田芳子（理事・熊本大学）
	宮本香代子（理事・安田女子大学）	

★は本記念誌の編集担当者

一般社団法人 日本養護教諭教育学会

学会設立 30 周年記念誌

発 行 日：2023 年 3 月 31 日（会員頒布・非売品）無断転載を禁ずる

編集発行：一般社団法人 日本養護教諭教育学会（代表　後藤ひとみ）
https://yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp
事務局
〒162-0801　東京都新宿区山吹町 358-5　アカデミーセンター
Tel：03-6824-9398　Fax：03-5227-8631
E-mail：jayte-post@as.bunken.co.jp
印 刷 所：一柳印刷株式会社